

**第6次多賀町総合計画策定に関する
「新しいまちづくりに向けた住民アンケート」
結果報告**

令和2（2020）年1月

目 次

I	調査概要	1
II	集計結果	3
	問 1 性別・年齢	3
	問 2 居住地	4
	問 3 居住暦	5
	問 4 職業	5
	問 5 通勤・通学先	6
	問 6 世帯構成	6
	問 7 同居人	7
	問 8 定住意向	7
	問 9 定住の理由	10
	問 10 転出の理由	13
	問 11 まちづくりの取り組みの評価	16
	問 12 まちの将来像	30
	問 13 重視する施策	33
	問 14 産業振興	36
	問 15 地域の魅力（自由記述）	39
	問 16 日常の買い物行動	41
	問 17 暮らしの満足度	46
	問 18 暮らしの困りごと	50
	問 19 重視すべき機能	53
	問 20 町の資源を活かした取り組み	61
	問 21 集落の資源を活かした取り組み	64
	問 22 人口減少への対応	67
	問 23 広域幹線道路に対応した土地利用	69
	問 24 自然や農地の維持管理	72
	問 25 まちづくりへの関心	75
	問 26 まちづくりへの参加意向	78
	問 27 参加の仕組みやきっかけ	81
	問 28 参加したい取り組み	84
	問 29 将来像のキーワード（自由記述）	87
	自由意見まとめ	88
	アンケート調査票	93

I 調査概要

(1) 調査目的

第6次多賀町総合計画（仮称）及び新しい多賀町都市計画マスタープランの策定にあたり、まちづくりの主役であり、行政とともにまちづくりを担うパートナーである住民のまちに対する評価や意見・提案を把握し、住民と共有し、実行する「まちづくり計画」として取り組む総合計画の策定のための基礎資料とする。

(2) 調査方法

調査名称	第6次多賀町総合計画策定に関する 「新しいまちづくりに向けた住民アンケート」
調査地域	町全域
対象者	町内に居住する16歳以上の住民
対象抽出方法	町内全戸を対象に、各世帯から一人を抽出
抽出数	2,682人
調査方法	配布は自治会等を通じて行う 回収（返信）は無記名で、郵送により行う
調査期間	令和元年10月18日（金）～11月8日（金）（締め切り日）

(3) 調査内容

調査項目	狙い
回答者プロフィール	性別や年齢など、回答者の特性を把握するとともに、クロス集計の分析軸とする
まちの現状への評価	定住意向など、町内に居住する住民が現状のまちをどのように捉えているかを把握する
土地利用や環境・景観について	人口や企業の定着、新たな流入等を検討する上で、器（うつわ）としてのまちの現状への評価と、今後の方向性に関する意向・期待を把握する
今後のまちづくりについて	将来像や今後の施策の重要等に関する意識を把握するとともに、次期計画において優先的に推進すべき重点テーマについて、住民の意向や協働の取り組みへの意識を把握・分析する
自由意見、提案	まちづくりに関する自由な意見提案を受け、選択式等では得られない生活意識や課題を把握する

(4) 配布・回収状況

配布数	有効回収数	有効回収率
2,682件	981件	36.6%

(5) 分析にあたっての注意点

- ・集計・分析においては、実数とともに、特記しない限り有効回答数（N=981）を母数とした出現率（%）を算出しています。
- ・集計結果において、出現率の値は全て小数点以下第二位を四捨五入して表記しているため、合計値が100%にならない場合があります。
- ・「2つ以上を選択」「全て選択」等の複数回答設問については、出現率の合計が100%を超える場合があります。
- ・また、指定選択数を超える回答（「2つまで選択」の設問に3つ以上の選択をしている場合など）については、他設問との関係や「その他」への記載で判断できるものは適切な回答に変更、判断不能の場合は乱数表により処理している場合があります。
- ・問11（4段階）及び問17（5段階）の評定平均は、「満足」に5点、以下4～1点の点数を乗じて、母数（無回答を除く回答数）で割ったもの。3.00を超えて数字が大きいほど、満足度が高く、数字が小さいほど、満足度が低いことを示します。

(6) 地域別集計の区分

- ・集計結果のうち、「地域別集計」においては、地域の特性を踏まえて、基本的に次の区分によって集計を行っています。

集計地域区分	対象地区			
平坦地域	1. 多賀	2. 尼子	3. 四手	4. 大岡
	5. 八重練	17. 一円	18. 木曾	19. 久徳
	20. 月之木	21. 中川原	22. 土田	23. 敏満寺
	24. 猿木	40. 木曾団地	41. 神田	42. グリーンヒル多賀
山間地域 (芹川流域)	6. 桃原	7. 下村	8. 中村	9. 宮前
	10. 山女原	11. 落合	12. 入谷	13. 甲頭倉
	14. 屏風	15. 水谷	16. 栗栖	
山間地域 (犬上川流域)	25. 川相	26. 藤瀬	30. 一ノ瀬	31. 佛ヶ後
	32. 樋田	33. 萱原	34. 大杉	35. 小原
	36. 霜ヶ原	37. 佐目	38. 南後谷	39. 大君ヶ畑
富之尾・檜崎地域	27. 富之尾	28. 梨ノ木	29. 檜崎	

※各番号は「アンケート問2」のナンバー

※平坦地域および富之尾は都市計画地域に属します。

Ⅱ 集計結果

問1 あなたの性別・年齢をお答えください。(あてはまる番号にそれぞれ○)

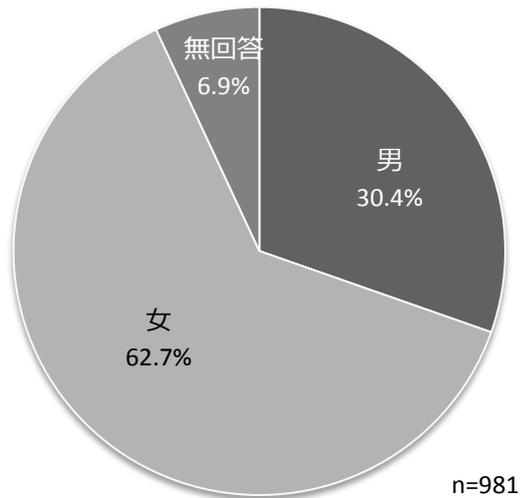
女性からの回答が多い。

- ・回答者のうち、女性の比率が62.7%、男性の比率が30.4%と、女性からの回答が多くなっています。

【性別】

調査数	981	100.0%
男	298	30.4%
女	615	62.7%
無回答	68	6.9%

単数回答



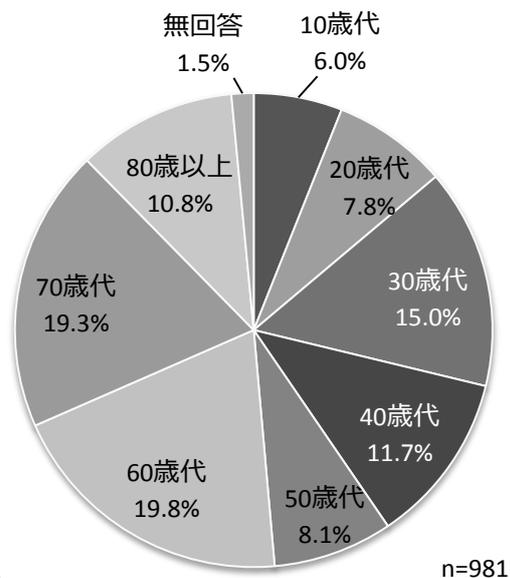
各年代から一定数の回答。

- ・60歳代(19.8%)、70歳代(19.3%)の比率がやや高くなっていますが、各年代からそれぞれ一定数の回答が得られました。2015年国勢調査と比較すると、細かな差異はあるものの、概ね近似した結果が得られたと考えられます。

【年齢】

調査数	981	100.0%	2015国調
10歳代	59	6.0%	5.1%
20歳代	77	7.8%	9.3%
30歳代	147	15.0%	11.8%
40歳代	115	11.7%	13.5%
50歳代	79	8.1%	13.2%
60歳代	194	19.8%	19.2%
70歳代	189	19.3%	14.5%
80歳以上	106	10.8%	13.4%
無回答	15	1.5%	

単数回答

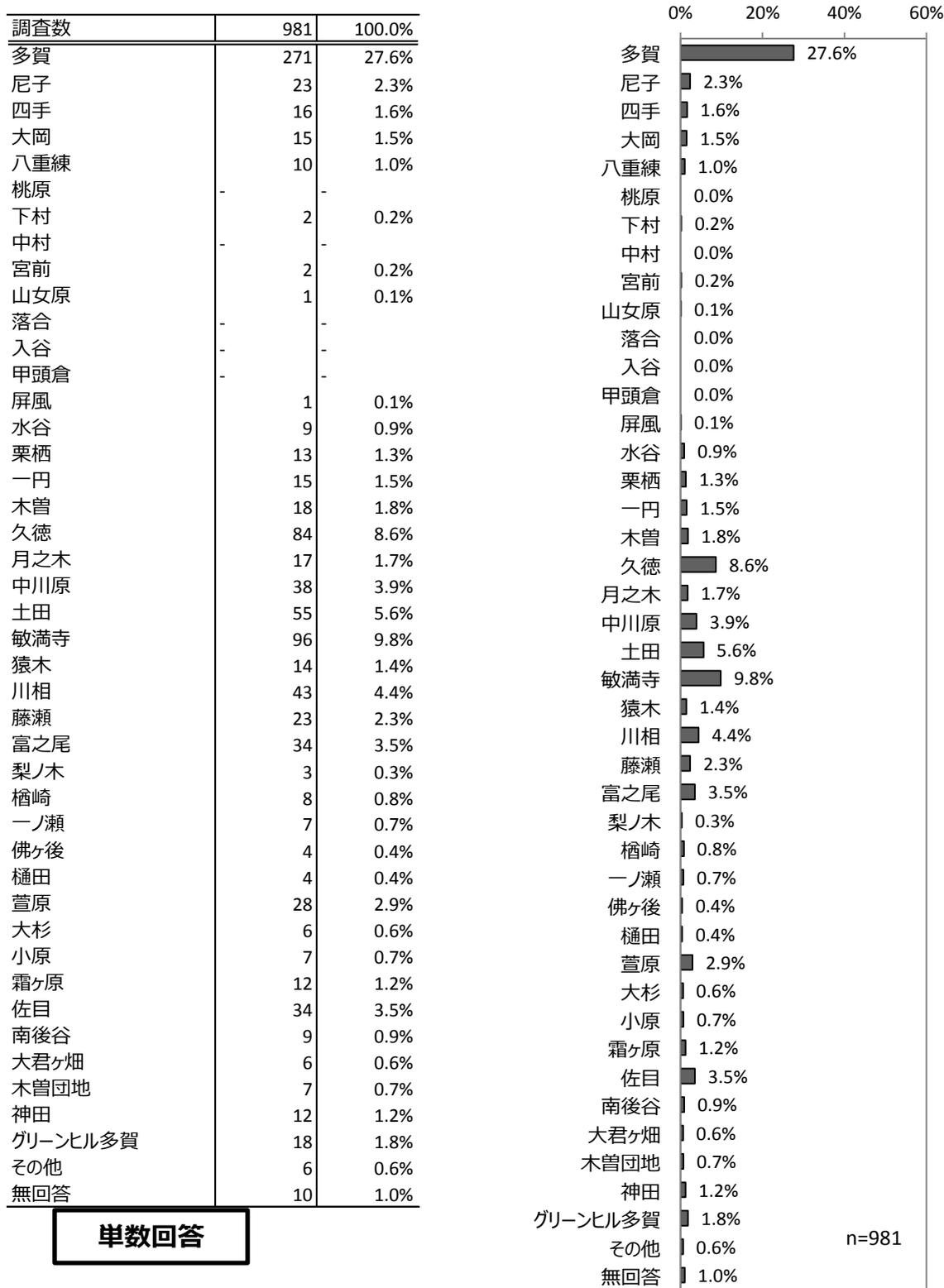


※2015国調の数値においては、10歳代に15歳を含む(アンケート対象は16歳以上)ため、実際の数値とは異なります

問2 あなたのお住まいはどこですか。(あてはまる番号に○)

居住地は「多賀」が3割程度を占める。

・回答者の居住地は、「多賀」が27.6%と3割近くを占め、以下「敏満寺」(9.8%)、「久徳」(8.6%)、「土田」(5.6%)が続いています。



単数回答

n=981

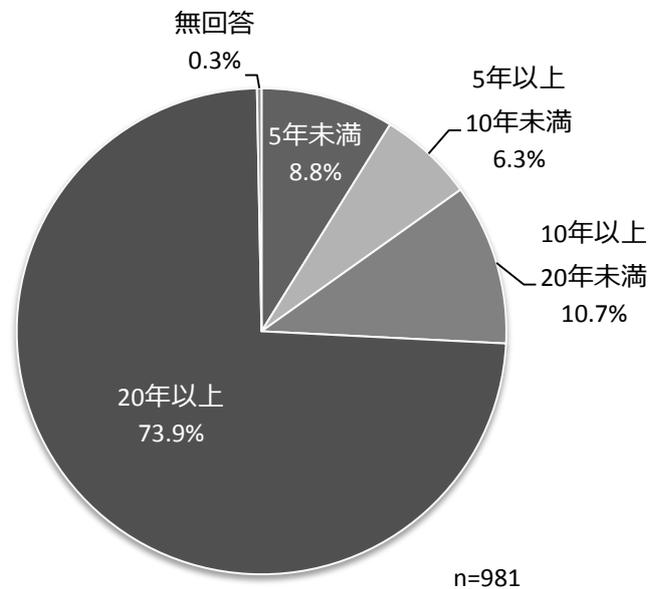
問3 あなたは、多賀町にお住まいになってどれくらいたちますか。(あてはまる番号に1つ○)

居住歴 20 年以上が 3 / 4。

- ・回答者の多賀町における居住歴は、「20 年以上」が 73.9%と、ほぼ 3 / 4 を占めています。
- ・一方、「5 年未満」(8.8%)、「5 年以上 10 年未満」(6.3%) など、比較的居住歴の浅い住民からも、一定の回答が得られました。

調査数	981	100.0%
5年未満	86	8.8%
5年以上10年未満	62	6.3%
10年以上20年未満	105	10.7%
20年以上	725	73.9%
無回答	3	0.3%

単数回答



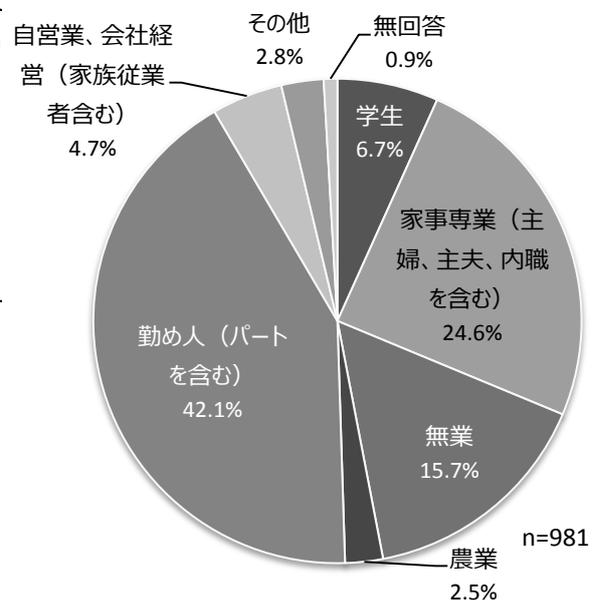
問4 あなたのご職業(兼業の方は主な職業)は(あてはまる番号に1つ○)

勤め人、家事専業等からの回答が多い。

- ・回答者の職業は、「勤め人」が 42.1%と最も多く、「家事専業」(24.6%)、「無業」(15.7%) が続いています。

調査数	981	100.0%
学生	66	6.7%
家事専業(主婦、主夫、内職を含む)	241	24.6%
無業	154	15.7%
農業	25	2.5%
勤め人(パートを含む)	413	42.1%
自営業、会社経営(家族従業者含む)	46	4.7%
その他	27	2.8%
無回答	9	0.9%

単数回答

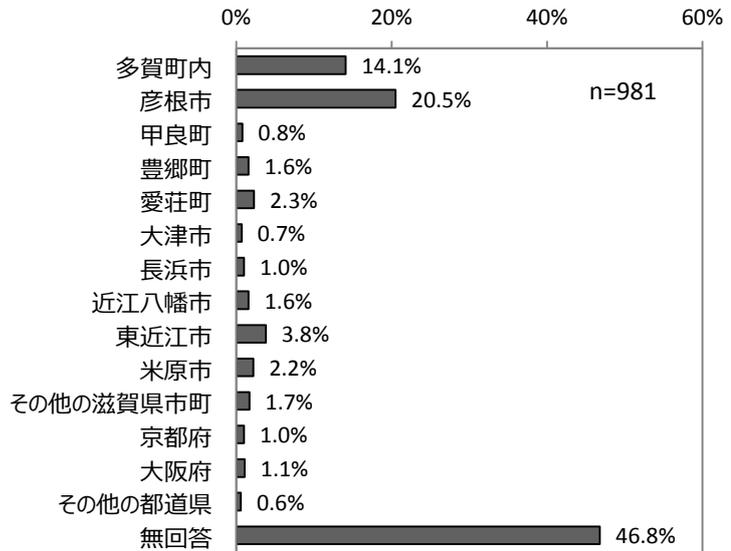


問5 【通勤・通学されている方に】あなたの通勤・通学先はどこですか（あてはまる番号に1つ○）

通勤・通学先は「彦根市」が最大で「多賀町内」が続く。

- ・回答者のほぼ半数（522 件）が通勤・通学先を記載しており（通勤・通学している）、通勤・通学先としては彦根市が全回答者の 20.5%（通勤・通学者の 38.5%）と最も多く、多賀町内 14.1%（同 26.4%）、東近江市 3.8%（同 7.1%）、米原市 2.2%（同 4.2%）が続いています。

調査数	981	100.0%
多賀町内	138	14.1%
彦根市	201	20.5%
甲良町	8	0.8%
豊郷町	16	1.6%
愛荘町	23	2.3%
大津市	7	0.7%
長浜市	10	1.0%
近江八幡市	16	1.6%
東近江市	37	3.8%
米原市	22	2.2%
その他の滋賀県市町	17	1.7%
京都府	10	1.0%
大阪府	11	1.1%
その他の都道県	6	0.6%
無回答	459	46.8%



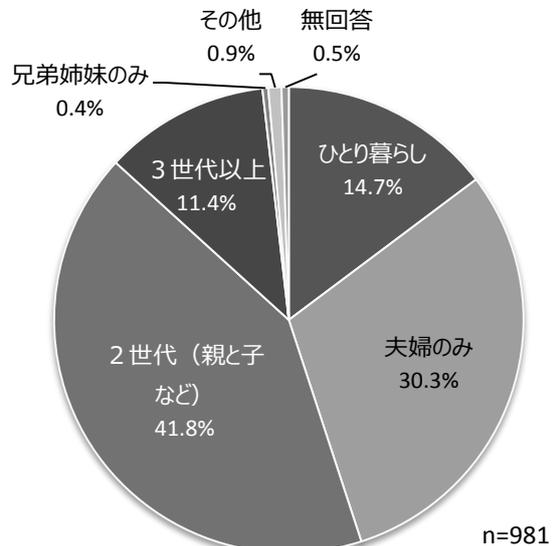
単数回答

問6 家族（一緒に住んでいる人）の構成は（あてはまる番号に1つ○）

世帯構成は「2世代」「夫婦のみ」世帯が中心。

- ・回答者の世帯構成は「2世代」が 41.8%と最も多く、「夫婦のみ」（30.3%）が続きます。
- ・単独世帯は 14.7%で、2015 年国勢調査の 17.5%と近い数値になっています。

調査数	981	100.0%
ひとり暮らし	144	14.7%
夫婦のみ	297	30.3%
2世代（親と子など）	410	41.8%
3世代以上	112	11.4%
兄弟姉妹のみ	4	0.4%
その他	9	0.9%
無回答	5	0.5%



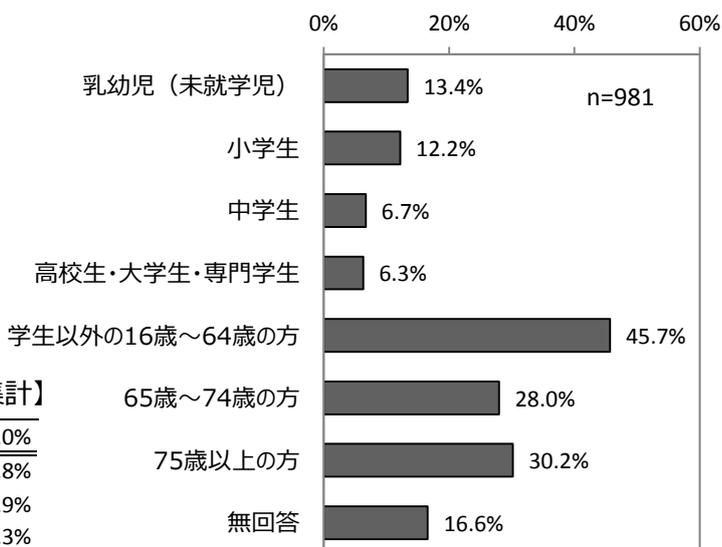
単数回答

問7 あなたも含め一緒に住んでいる人はどなたですか（あてはまる番号全てに○）

（本人を含め）回答者世帯の半数に 65 歳以上の方が同居。

- ・「75 歳以上の方」と「65～74 歳の方」がそれぞれ 30%、両方いるとの回答が 4.3%あり、65 歳以上の方がいる回答者は 53.9%と半数を超えています。子どもの同居では、学年（学校）が上級に至るほど、同居者のいる回答者の比率が低くなっています。

調査数	981	100.0%
乳幼児（未就学児）	131	13.4%
小学生	120	12.2%
中学生	66	6.7%
高校生・大学生・専門学生	62	6.3%
学生以外の16歳～64歳の方	448	45.7%
65歳～74歳の方	275	28.0%
75歳以上の方	296	30.2%
無回答	163	16.6%



複数回答

【（参考）65 歳以上の同居者がいる回答の再集計】

調査数	981	100.0%
65歳～74歳の方のみ	233	23.8%
75歳以上の方のみ	254	25.9%
65歳～74歳、75歳以上の両方の方	42	4.3%
65歳以上の方（合計）	529	53.9%

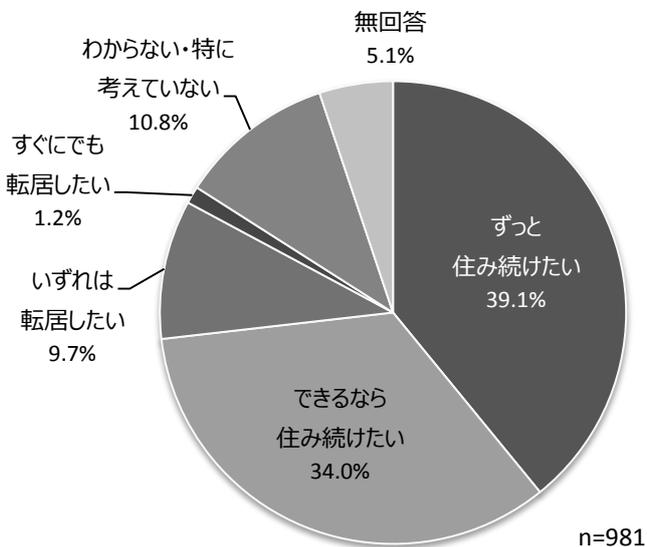
問8 あなたは、これからも多賀町に住み続けたいと思いますか。（あてはまる番号に1つ○）

定住意向を示す回答は 3 / 4。

- ・「ずっと住み続けたい」が 39.1%と最も多く、「できるなら住み続けたい」（34.0%）をあわせて、およそ 3 / 4（73.1%）の回答者が定住意向を示しています。
- ・一方で「いずれは転居したい」（9.7%）、「すぐにでも転居したい」（1.2%）をあわせて、およそ 1 割の回答者が転出意向を持っています。

調査数	981	100.0%
ずっと住み続けたい	384	39.1%
できるなら住み続けたい	334	34.0%
いずれは転居したい	95	9.7%
すぐにでも転居したい	12	1.2%
わからない・特に考えていない	106	10.8%
無回答	50	5.1%

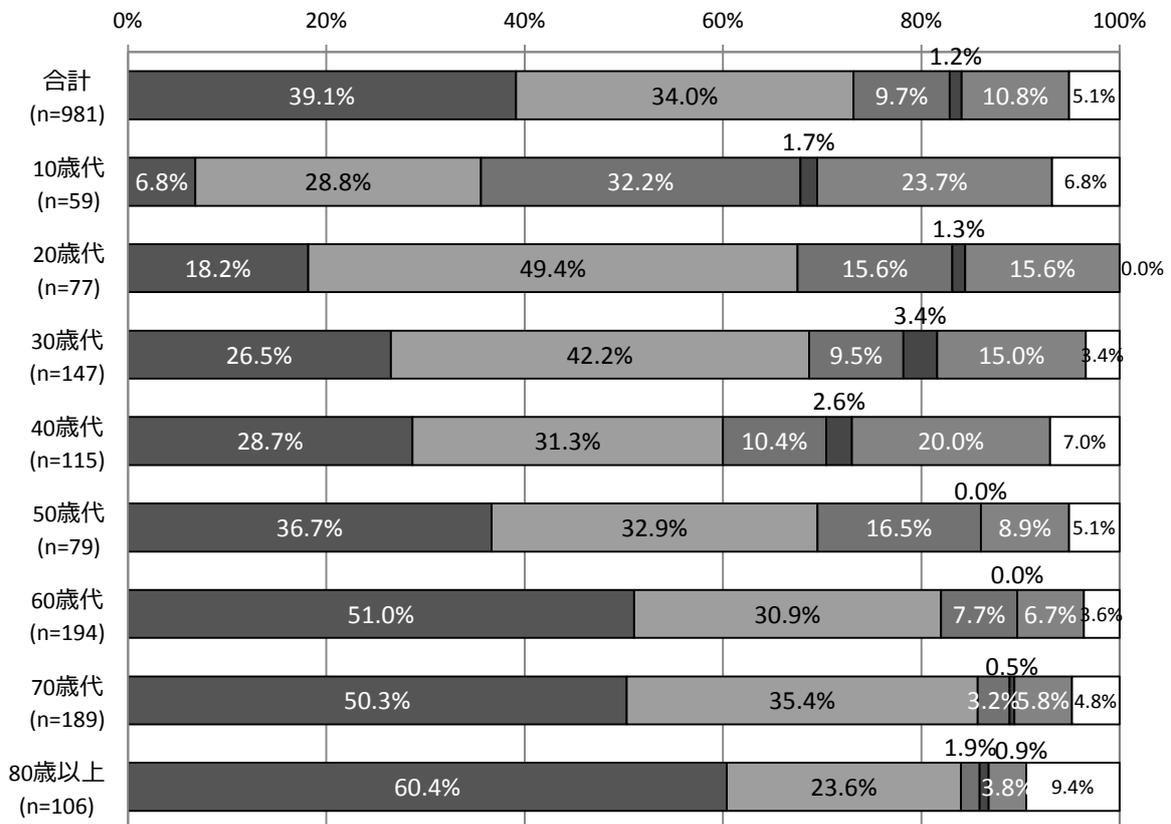
単数回答



【年齢別集計】

年齢の高い層ほど定住意向が高く、60歳以上では8割超。

- 定住意向を年齢別にみると、年代の高い層ほど定住意向が高くなっています。特に60歳代以上では、「ずっと住み続けたい」と「できるなら住み続けたい」をあわせた定住意向が8割を超えています。
- 定住意向が6割を下回る10歳代（16～19歳）及び40歳代では、「わからない・特に考えていない」の比率が20%を超えており、こうした世代への働きかけが今後の課題のひとつと考えられます。
- 10歳代では定住意向は35.6%にとどまっており、「いずれは転居したい」の比率が32.2%となっています。これは、進学や就職を迎える年代となり、大学や就業先が町内、あるいは通える範囲に希望する進路がないことが影響しているものと考えられます。

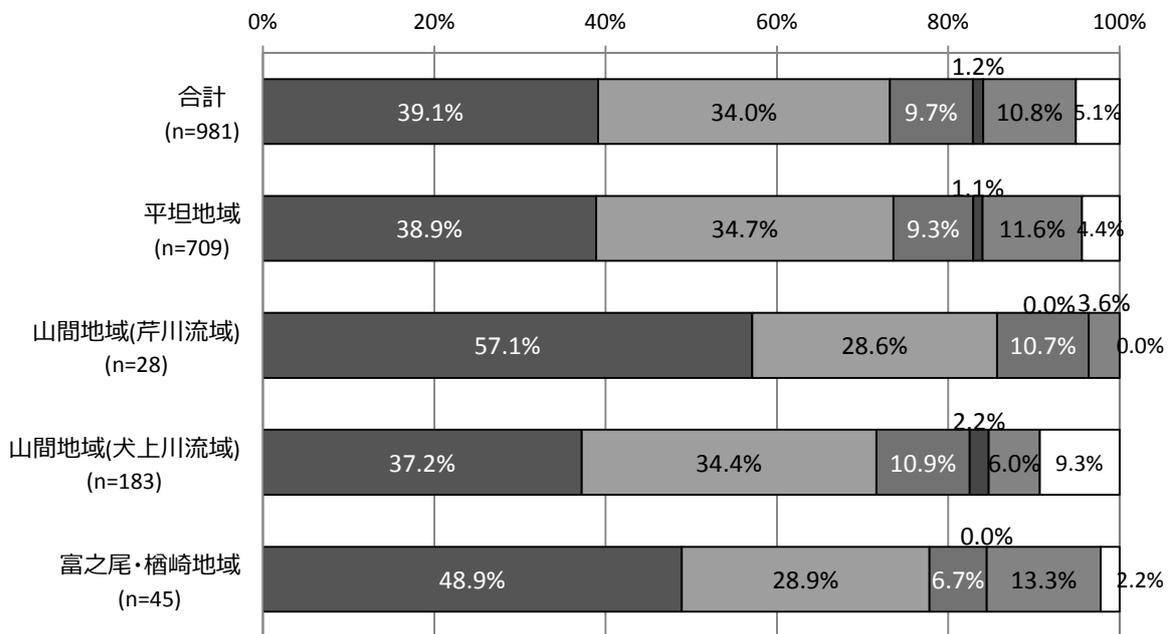


ずっと住み続けたい
 できるなら住み続けたい
 いずれは転居したい
 すぐにも転居したい
 わからない・特に考えていない
 無回答

【地域別集計】

各地域とも7割程度の定住意向。特に山間地域（芹川流域）や富之尾・檜崎地域で定住意向が高い。

- ・定住意向を地域別にみると、全ての地域で「ずっと住み続けたい」と「できるなら住み続けたい」をあわせた定住意向が7割を超えています。
- ・特に山間地域（芹川流域）では「ずっと住み続けたい」が57.1%、定住意向も85.7%と高い定住意向を示しています。また、富之尾・檜崎地域でも「ずっと住み続けたい」が48.9%と、ほぼ半数に至っています。
- ・「いずれは転居したい」「すぐにでも転居したい」との転出意向は各地域とも10%程度に止まっていますが、平坦地域や富之尾・檜崎地域では「わからない・特に考えていない」の比率も10%強あり、こうした層の定住意識やふるさと意識を高めていくことが必要です。



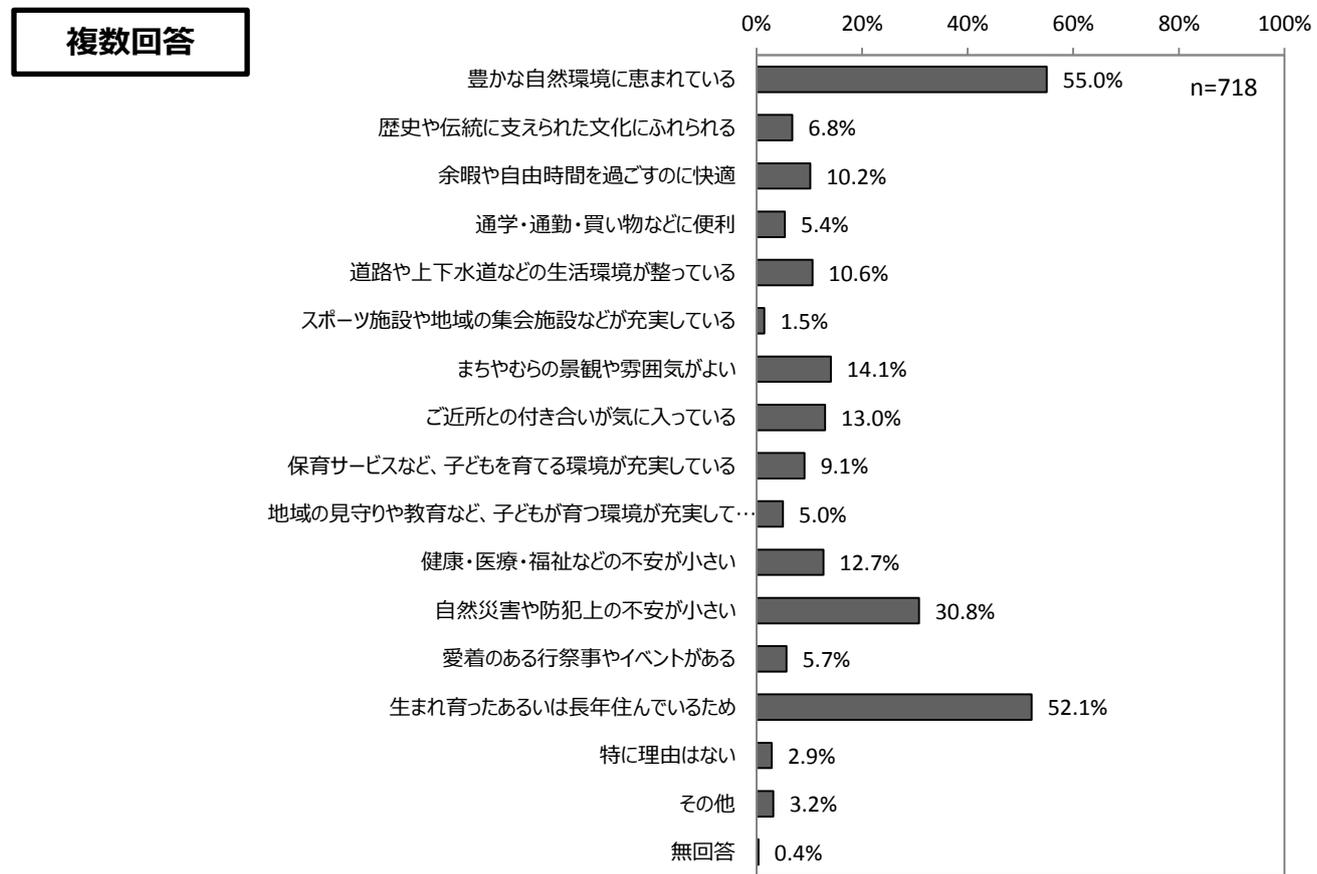
ずっと住み続けたい
 できるなら住み続けたい
 いずれは転居したい
 すぐにでも転居したい
 わからない・特に考えていない
 無回答

問9 問8で「1. ずっと住み続けたい」「2. できるなら住み続けたい」を選んだ方は、その主な理由をお答えください。(あてはまる番号に3つまで○)

定住の要因は「自然」「長年の積み重ね」「災害や防犯の安心」等が上位に。

・住み続けたい理由としては、「豊かな自然環境に恵まれている」(55.0%)、「生まれ育った、あるいは長年住んでいるため」(52.1%) がそれぞれ半数以上選択され、これに続いて「自然災害や防犯上の不安が小さい」(30.8%)、「まちやむらの景観や雰囲気が良い」(14.1%)、「ご近所との付き合いが気に入っている」(13.0%) など、安全や生活のしやすさが要因としてあげられています。

調査数	718	100.0%
豊かな自然環境に恵まれている	395	55.0%
歴史や伝統に支えられた文化にふれられる	49	6.8%
余暇や自由時間を過ごすのに快適	73	10.2%
通学・通勤・買い物などに便利	39	5.4%
道路や上下水道などの生活環境が整っている	76	10.6%
スポーツ施設や地域の集会施設などが充実している	11	1.5%
まちやむらの景観や雰囲気がよい	101	14.1%
ご近所との付き合いが気に入っている	93	13.0%
保育サービスなど、子どもを育てる環境が充実している	65	9.1%
地域の見守りや教育など、子どもが育つ環境が充実している	36	5.0%
健康・医療・福祉などの不安が小さい	91	12.7%
自然災害や防犯上の不安が小さい	221	30.8%
愛着のある行祭事やイベントがある	41	5.7%
生まれ育ったあるいは長年住んでいるため	374	52.1%
特に理由はない	21	2.9%
その他	23	3.2%
無回答	3	0.4%



【年齢別集計】

全町に比べ、年齢の若い層では「景観・雰囲気」「子ども」「行祭事」、年齢の高い層では「近所づきあい」「災害・防犯の不安の小ささ」「出身・長期居住」を要因と考える比率が高い。

- ・住み続けたい理由を年齢別にみると、60歳代を除く年齢層で、「豊かな自然」を要因に掲げる回答が最も高くなっています。60歳代で最も高いのは、「出身地・長年住んでいる」です。80歳以上もこの2項目が同率となっています。
- ・年齢別の違いをみると、10～30歳代の若い年齢層で、「景観や雰囲気のよさ」「行祭事やイベント」など雰囲気や伝統、「子どもを育てる環境」「子どもの見守りや教育」など子どもに関する条件を要因に掲げる比率が高くなっています。
- ・一方、年齢の高い層では、「近所との付き合い」「出身地・長年住んでいる」などコミュニティやまちへの愛着、「災害や防犯上の不安が小さい」などが多く選択されています。

	合計 (n=718)	10歳代 (n=21)	20歳代 (n=52)	30歳代 (n=101)	40歳代 (n=69)	50歳代 (n=55)	60歳代 (n=159)	70歳代 (n=162)	80歳以上 (n=89)
豊かな自然環境	55.0%	47.6%	46.2%	54.5%	53.6%	58.2%	56.0%	56.2%	59.6%
歴史や伝統に支えられた文化	6.8%	-	3.8%	4.0%	10.1%	9.1%	6.9%	8.0%	5.6%
余暇を過ごすのに快適	10.2%	14.3%	7.7%	7.9%	8.7%	9.1%	6.9%	13.0%	14.6%
通学・通勤・買い物に便利	5.4%	9.5%	5.8%	12.9%	7.2%	5.5%	3.8%	3.1%	1.1%
道路など生活環境が充実	10.6%	4.8%	5.8%	2.0%	5.8%	7.3%	10.7%	19.1%	14.6%
スポーツ・集会施設が充実	1.5%	-	-	1.0%	4.3%	3.6%	1.3%	1.9%	-
景観や雰囲気のよさ	14.1%	19.0%	23.1%	19.8%	15.9%	12.7%	11.9%	9.3%	13.5%
近所との付き合いがよい	13.0%	9.5%	7.7%	5.9%	5.8%	1.8%	10.7%	19.8%	28.1%
子どもを育てる環境の充実	9.1%	19.0%	30.8%	23.8%	11.6%	5.5%	4.4%	0.6%	1.1%
子どもの見守りや教育環境の充実	5.0%	9.5%	11.5%	12.9%	8.7%	1.8%	1.9%	1.2%	2.2%
健康・医療・福祉の不安が小さい	12.7%	19.0%	17.3%	14.9%	14.5%	5.5%	10.1%	13.6%	11.2%
災害や防犯上の不安が小さい	30.8%	14.3%	11.5%	11.9%	29.0%	45.5%	37.7%	38.9%	33.7%
行祭事やイベントがある	5.7%	14.3%	13.5%	11.9%	4.3%	5.5%	4.4%	1.9%	2.2%
出身地・長年住んでいる	52.1%	38.1%	48.1%	34.7%	47.8%	56.4%	61.6%	52.5%	59.6%
特に理由はない	2.9%	4.8%	3.8%	5.0%	5.8%	1.8%	2.5%	1.9%	1.1%
その他	3.2%	-	1.9%	5.9%	4.3%	1.8%	3.8%	2.5%	2.2%
無回答	0.4%	-	1.9%	-	-	-	0.6%	0.6%	-

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

全町に比べ、山間地域（芹川流域）では「自然環境」「生活環境」、山間地域（犬上川流域）では「景観や雰囲気」「近所付き合い」、富之尾・檜崎地域は「出身地・長年居住」で高い比率。

- ・住み続けたい理由を地域別にみると、平坦地域、山間地域（芹川流域）、山間地域（犬上川流域）では「豊かな自然」を要因に掲げる回答が最も高くなっています。富之尾・檜崎地域では、「出身地・長年住んでいる」の比率が最も高くなっています。
- ・地域別の違いをみると、山間地域（芹川流域）では、全町に比べて「豊かな自然環境」「道路など生活環境が充実」を、山間地域（犬上川流域）では、「景観や雰囲気の高さ」「近所との付き合いがよい」を選択する比率が高くなっています。富之尾・檜崎地域では、「出身地・長年住んでいる」の比率が他地域に比べて突出しています。
- ・平坦地域では、「豊かな自然環境」と「出身地・長年住んでいる」がそれぞれ50%近く選択されています。

	合計 (n=718)	平坦地域 (n=522)	山間地域(芹川) (n=24)	山間地域(犬上川) (n=131)	富之尾・檜崎地域 (n=35)
豊かな自然環境	55.0%	53.1%	79.2%	58.0%	54.3%
歴史や伝統に支えられた文化	6.8%	8.0%	8.3%	3.1%	2.9%
余暇を過ごすのに快適	10.2%	9.0%	12.5%	14.5%	11.4%
通学・通勤・買い物に便利	5.4%	6.7%	4.2%	0.8%	2.9%
道路など生活環境が充実	10.6%	10.2%	20.8%	8.4%	14.3%
スポーツ・集会施設が充実	1.5%	1.5%	4.2%	0.8%	-
景観や雰囲気の高さ	14.1%	13.0%	4.2%	20.6%	14.3%
近所との付き合いがよい	13.0%	11.1%	8.3%	23.7%	2.9%
子どもを育てる環境の充実	9.1%	11.3%	-	3.8%	-
子どもの見守りや教育環境の充実	5.0%	5.7%	-	3.8%	2.9%
健康・医療・福祉の不安が小さい	12.7%	14.2%	8.3%	9.2%	8.6%
災害や防犯上の不安が小さい	30.8%	32.0%	29.2%	26.0%	34.3%
行祭事やイベントがある	5.7%	6.7%	-	4.6%	-
出身地・長年住んでいる	52.1%	50.6%	54.2%	55.7%	62.9%
特に理由はない	2.9%	3.1%	-	3.1%	2.9%
その他	3.2%	2.9%	-	3.8%	8.6%
無回答	0.4%	0.4%	-	0.8%	-

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

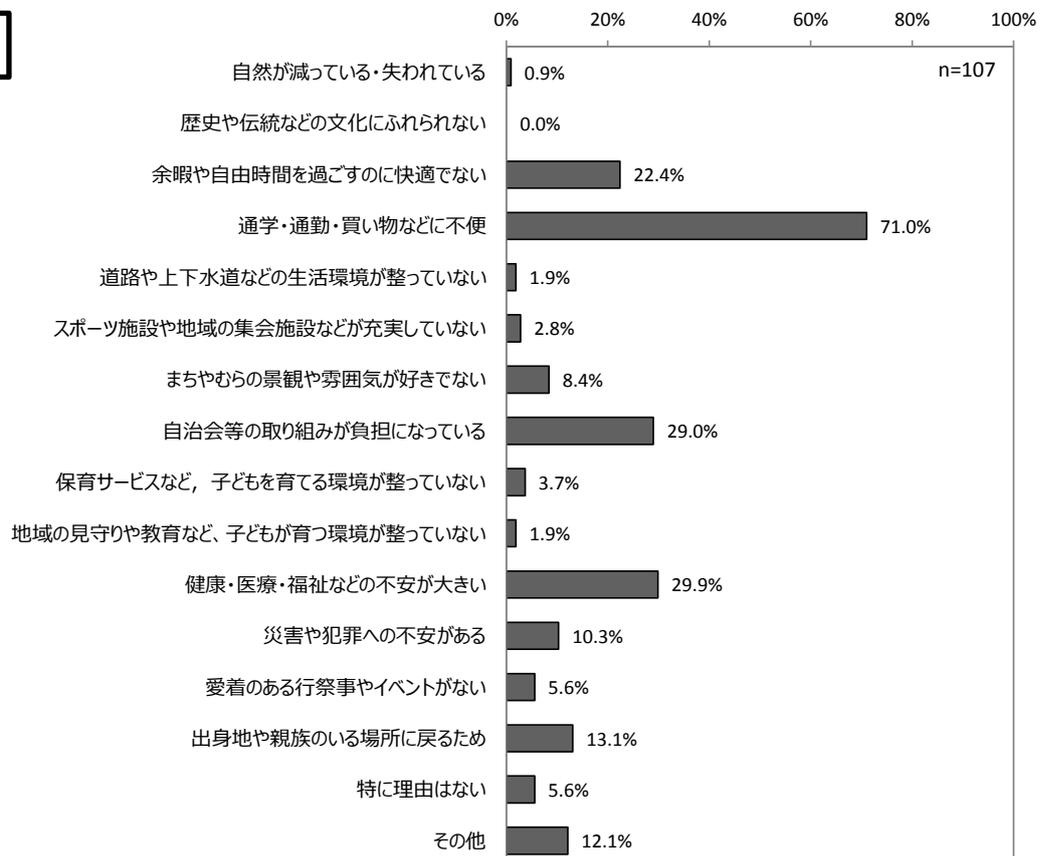
問 10 問 8で「3. いずれは転居したい」「4. すぐにでも転居したい」を選んだ方は、その主な理由をお答えください。(あてはまる番号に3つまで○)

転出の要因は「通勤通学・買い物等の利便性」が突出。

- ・転出意向を持つ回答者(107件)の理由としては、「通学・通勤・買い物などに不便」の比率が71.0%と高く、就業先や高校以後の通学を町外に求める本町の特性も影響していると考えられます。以下、「健康・医療・福祉などの不安が大きい」(29.9%)が続いています。
- ・定住意向で上位に上がったご近所との付き合いですが、転出の要因としても「自治会等の取り組みが負担になっている」が第3位(29.0%)となっており、住民意識の多様化がみてとれます。

調査数	107	100.0%
自然が減っている・失われている	1	0.9%
歴史や伝統などの文化にふれられない	-	-
余暇や自由時間を過ごすのに快適でない	24	22.4%
通学・通勤・買い物などに不便	76	71.0%
道路や上下水道などの生活環境が整っていない	2	1.9%
スポーツ施設や地域の集会施設などが充実していない	3	2.8%
まちやむらの景観や雰囲気が好きでない	9	8.4%
自治会等の取り組みが負担になっている	31	29.0%
保育サービスなど、子どもを育てる環境が整っていない	4	3.7%
地域の見守りや教育など、子どもが育つ環境が整っていない	2	1.9%
健康・医療・福祉などの不安が大きい	32	29.9%
災害や犯罪への不安がある	11	10.3%
愛着のある行祭事やイベントがない	6	5.6%
出身地や親族のいる場所に戻るため	14	13.1%
特に理由はない	6	5.6%
その他	13	12.1%

複数回答



【年齢別集計】

全町に比べ、子育て層などを中心に「自治会等の取り組みが負担」、年齢の高い層では「健康・医療・福祉の不安が大きい」を要因と考える比率が高い。

- ・転出意向を持つ回答者は全体で 107 件であり、年齢別にみると、最も多い 10 歳代でも 20 件、最も少ない 80 歳以上では 3 件にとどまるため、参考程度で止めておく必要があります。
- ・転出したい理由を年齢別にみると、80 歳以上を除く年齢層で、「通学・通勤・買い物などに不便」を要因に掲げる回答が最も高くなっています。80 歳代で最も高いのは、「景観や雰囲気が好きでない」です。
- ・年齢別の違いをみると、30～40 歳代など子育て層で、「自治会等の取り組みが負担」を選択する比率がやや高くなっています。
- ・50 歳代以上では、「健康・医療・福祉などの不安が大きい」の比率が全体に比べて多く選択されています。

	合計 (n=107)	10 歳代 (n=20)	20 歳代 (n=13)	30 歳代 (n=19)	40 歳代 (n=15)	50 歳代 (n=13)	60 歳代 (n=15)	70 歳代 (n=7)	80 歳以上 (n=3)
自然が減っている・失われている	0.9%	-	-	-	6.7%	-	-	-	-
歴史や伝統など文化にふれられない	-	-	-	-	-	-	-	-	-
余暇や自由時間に快適でない	22.4%	25.0%	69.2%	5.3%	13.3%	7.7%	26.7%	14.3%	-
通学・通勤・買い物などに不便	71.0%	80.0%	76.9%	52.6%	46.7%	84.6%	86.7%	85.7%	33.3%
道路やなど生活環境が整っていない	1.9%	-	-	5.3%	6.7%	-	-	-	-
スポーツ・集会施設が充実していない	2.8%	-	-	5.3%	13.3%	-	-	-	-
景観や雰囲気が好きでない	8.4%	-	-	10.5%	13.3%	7.7%	6.7%	14.3%	66.7%
自治会等の取り組みが負担	29.0%	20.0%	7.7%	36.8%	40.0%	23.1%	40.0%	28.6%	33.3%
子どもを育てる環境が整っていない	3.7%	-	-	15.8%	-	-	-	14.3%	-
子どもが育つ環境が整っていない	1.9%	-	-	10.5%	-	-	-	-	-
健康・医療・福祉などの不安が大きい	29.9%	10.0%	7.7%	5.3%	20.0%	76.9%	60.0%	57.1%	33.3%
災害や犯罪への不安がある	10.3%	15.0%	-	10.5%	6.7%	7.7%	26.7%	-	-
愛着のある行祭事やイベントがない	5.6%	5.0%	15.4%	5.3%	6.7%	7.7%	-	-	-
出身地や親族のいる場所に戻るため	13.1%	5.0%	7.7%	10.5%	13.3%	23.1%	13.3%	28.6%	33.3%
特に理由はない	5.6%	10.0%	7.7%	5.3%	13.3%	-	-	-	-
その他	12.1%	-	-	15.8%	26.7%	15.4%	13.3%	28.6%	-

【地域別集計】

平坦地域、山間地域（犬上川流域）とも転出を考える理由は「通学・通勤・買い物などに不便」が大きく、「自治会等の取り組みが負担」「健康・医療・福祉の不安が大きい」と続く構造は同様。

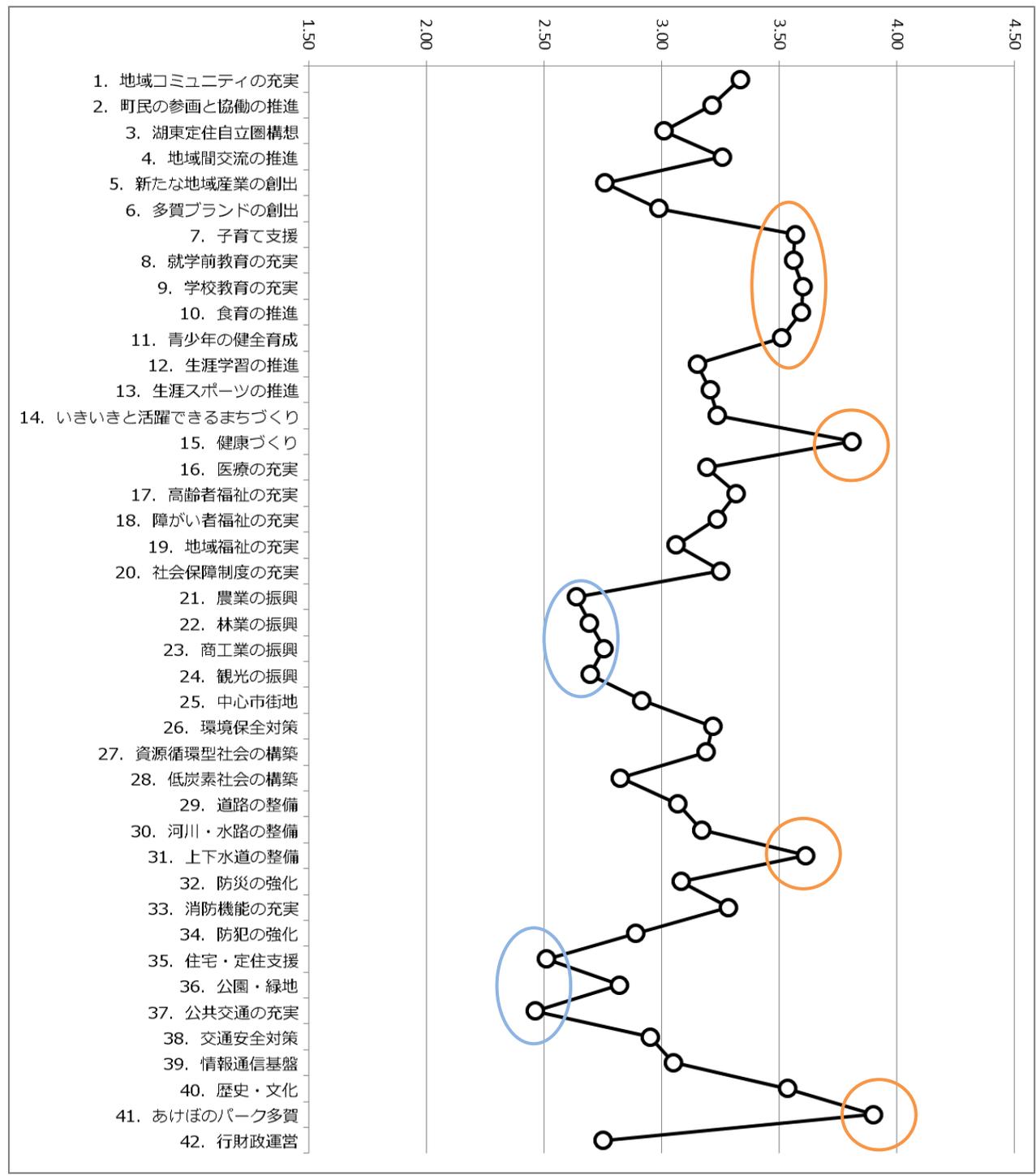
- ・転出意向を持つ回答者は全体で 107 件であり、地域別にみると、山間地域（芹川流域）及び富之尾・檜崎地域については、対象件数が各 3 件に止まるため、数値を参考として提示するのみにします。
- ・平坦地域では「通学・通勤・買い物などに不便」の比率が 67.6%と高く、以下「自治会等の取り組みが負担」「健康・医療・福祉などの不安が大きい」が 25.7%で続いています。
- ・山間地域（犬上川流域）では「通学・通勤・買い物などに不便」が平坦地域を上回る 83.3%と突出し、「自治会等の取り組みが負担」（41.7%）、「健康・医療・福祉などの不安が大きい」（33.3%）が続く状況は、平坦地域と同様の結果となっています。

	合計 (n=107)	平坦地域 (n=74)	山間地域（芹川） (n=3)	山間地域（犬上川） (n=24)	富之尾・檜崎地域 (n=3)
自然が減っている・失われている	0.9%	1.4%	-	-	-
歴史や伝統など文化にふれられない	-	-	-	-	-
余暇や自由時間に快適でない	22.4%	21.6%	33.3%	20.8%	66.7%
通学・通勤・買い物などに不便	71.0%	67.6%	66.7%	83.3%	33.3%
道路やなど生活環境が整っていない	1.9%	2.7%	-	-	-
スポーツ・集会施設が充実していない	2.8%	4.1%	-	-	-
景観や雰囲気が好きでない	8.4%	9.5%	-	8.3%	-
自治会等の取り組みが負担	29.0%	25.7%	33.3%	41.7%	33.3%
子どもを育てる環境が整っていない	3.7%	4.1%	-	4.2%	-
子どもが育つ環境が整っていない	1.9%	1.4%	-	4.2%	-
健康・医療・福祉などの不安が大きい	29.9%	25.7%	33.3%	33.3%	66.7%
災害や犯罪への不安がある	10.3%	9.5%	33.3%	4.2%	-
愛着のある行祭事やイベントがない	5.6%	4.1%	-	4.2%	66.7%
出身地や親族のいる場所に戻るため	13.1%	14.9%	33.3%	8.3%	-
特に理由はない	5.6%	8.1%	-	-	-
その他	12.1%	10.8%	-	20.8%	-

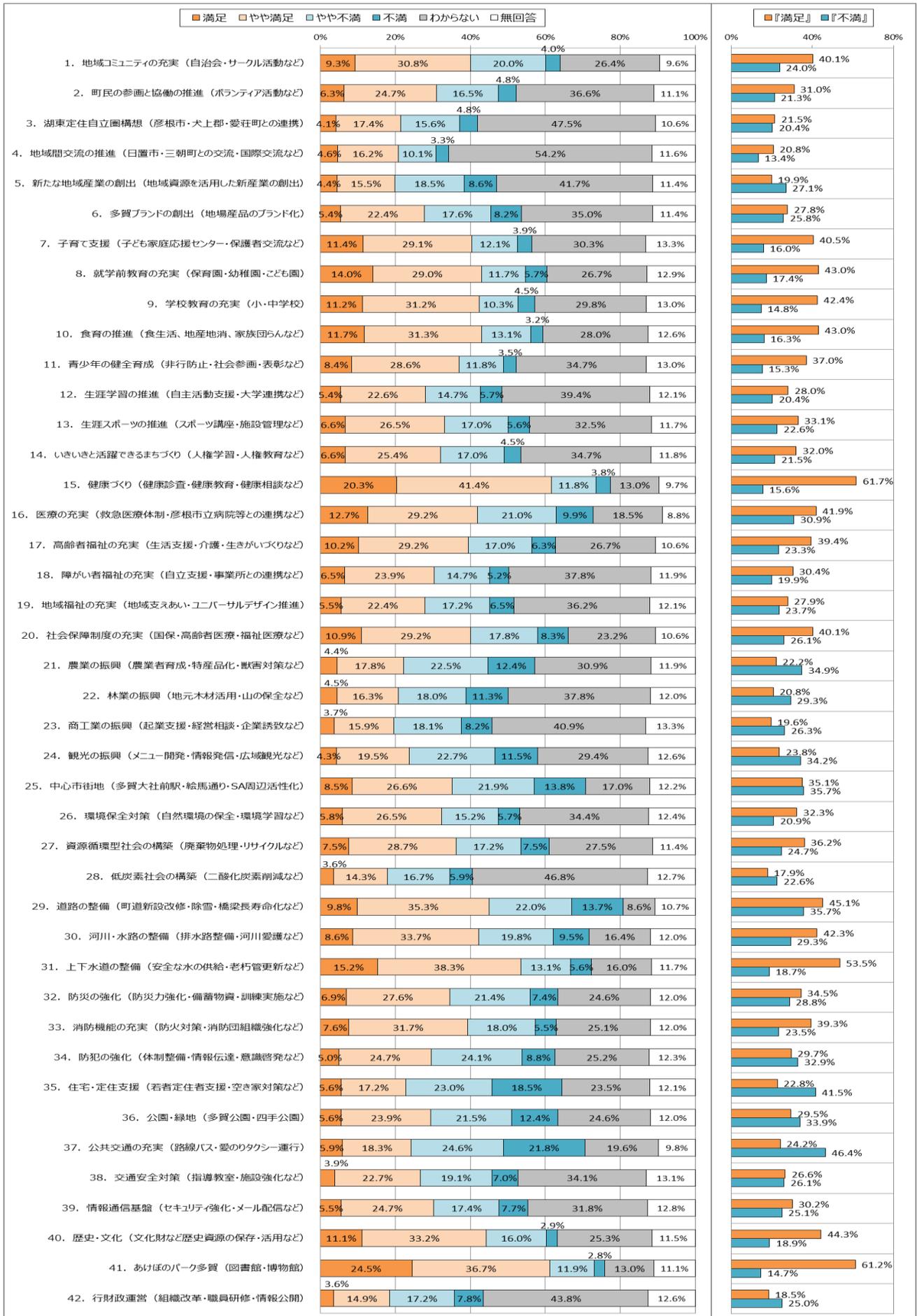
問 11 多賀町のこれまでの取り組みについておたずねします。それぞれの項目に対する「満足度」について、どのようにお考えですか。

「あけぼのパーク」「健康」「子育て」「上下水」等に高い評価。
 「公共交通」「住宅・定住支援」「産業振興」に厳しい評価。

- ・まちづくりの取り組みを4段階評価で求め、それぞれの評価を点数化して比較したところ、最も高い評価を得たのは「あけぼのパーク多賀」(3.90)で、「健康づくり」(3.81)、「上下水道」(3.61)、「学校教育」(3.60)、「子育て支援」(3.57)等が続いています。
- ・一方、最も厳しい評価を受けたのは「公共交通」(2.46)で、以下「住宅・定住施策」(2.51)、「農業振興」(2.64)、「観光振興」(2.69)、「林業振興」(2.69)となっています。



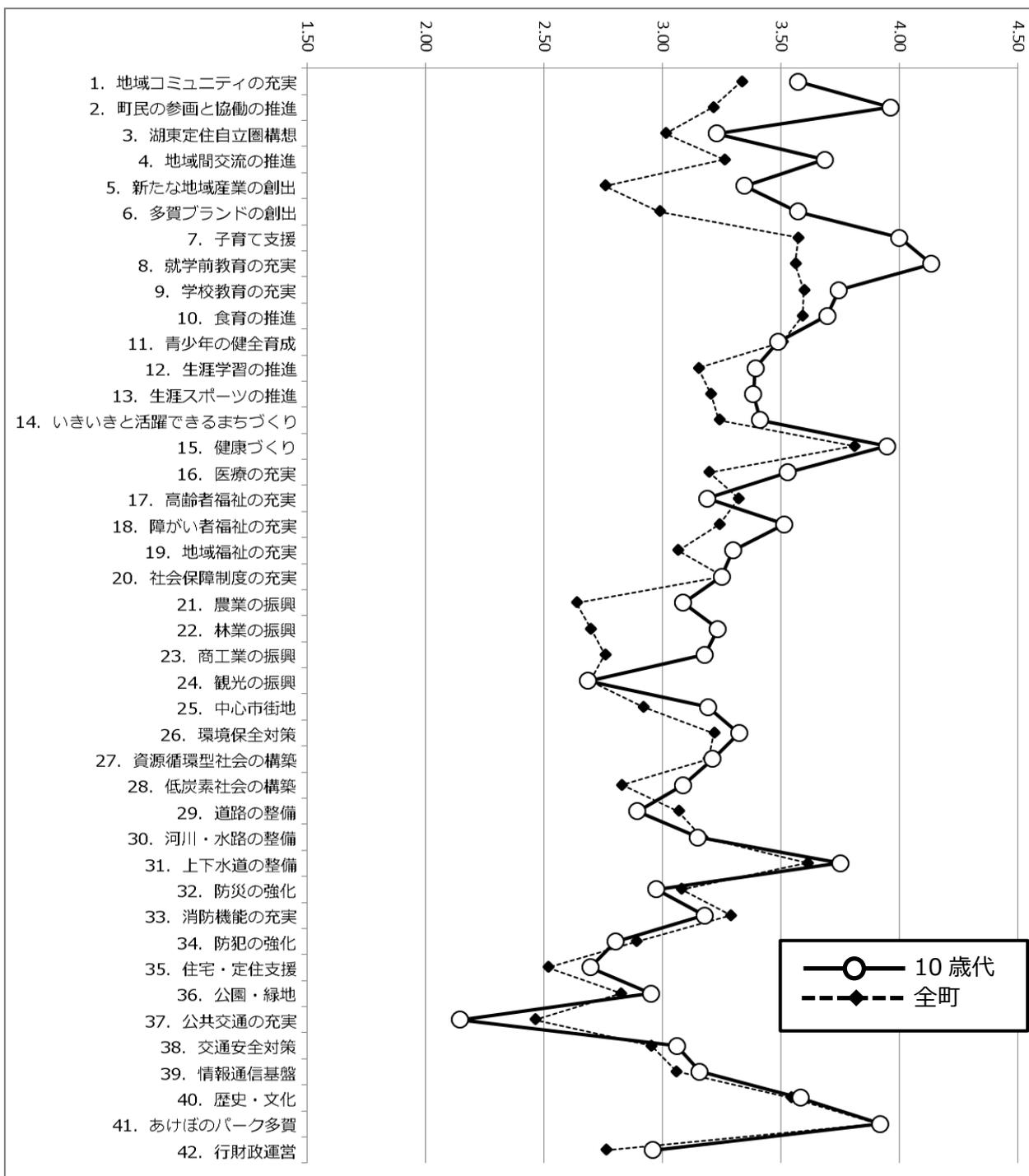
(参考) 5段階評価の内訳



【年齢別集計（10歳代）】

「就学前教育」「子育て支援」「町民の参画と協働」等で高い評価。

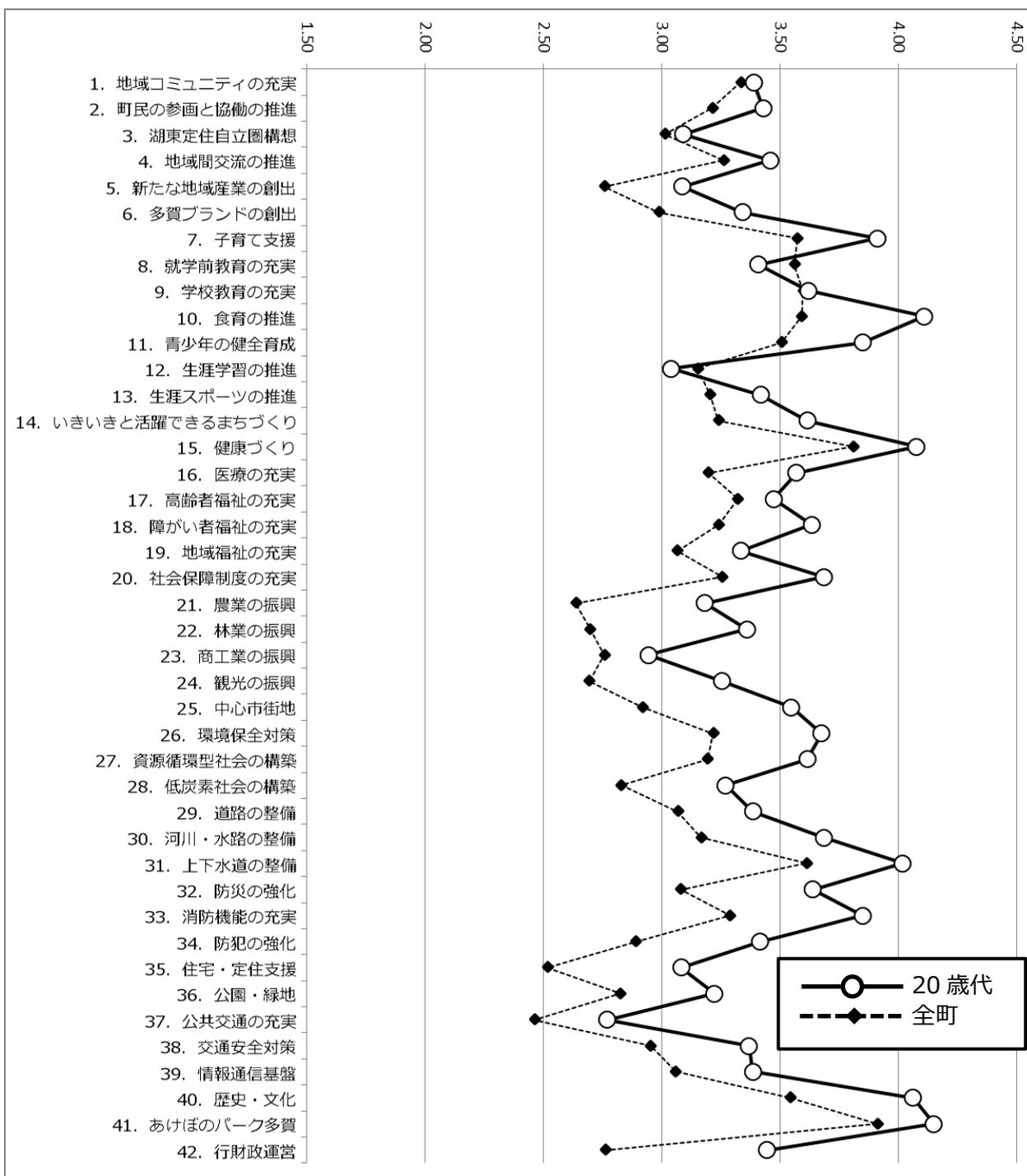
- ・特に評価が高いのは、「就学前教育」（4.14）、「子育て支援」（4.00）、「町民の参画と協働」（3.96）、「健康づくり」（3.95）、「あけぼのパーク多賀」（3.92）となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.15）、「観光」「住宅・定住」（2.69）、「防犯」（2.80）、「道路」（2.89）となっています。
- ・全町に比べ、総じて高い評価を示している項目が多くなっており、「新たな地域産業」「多賀ブランド」「林業」で5ポイント以上、評価が高くなっています。



【年齢別集計（20歳代）】

「あけぼのパーク」「食育」「健康づくり」「歴史・文化」「上下水道」等で高い評価。

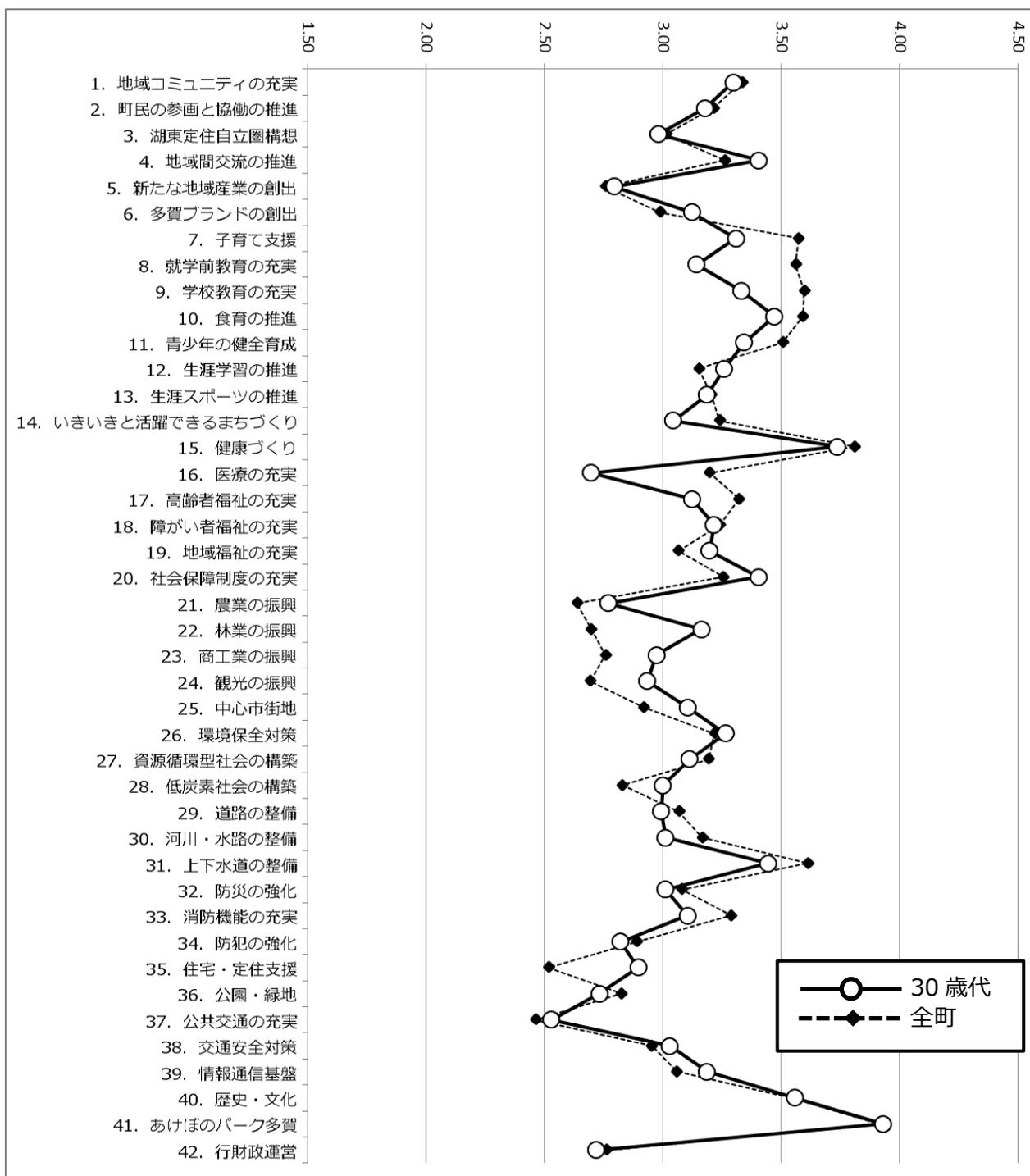
- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（4.15）、「食育の推進」（4.11）、「健康づくり」（4.08）、「歴史・文化」（4.06）、「上下水道」（4.06）となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.77）、「商工業」（2.94）となっています。
- ・全町に比べ、総じて高い評価を示している項目が多くなっており、「農業」「林業」「観光」「中心市街地」「河川・水路」「消防」「防犯」「住宅・定住」「歴史・文化」「行財政運営」で5ポイント以上、評価が高くなっています。



【年齢別集計（30歳代）】

「あけぼのパーク」「健康づくり」「歴史・文化」「食育」「上下水道」等で高い評価。

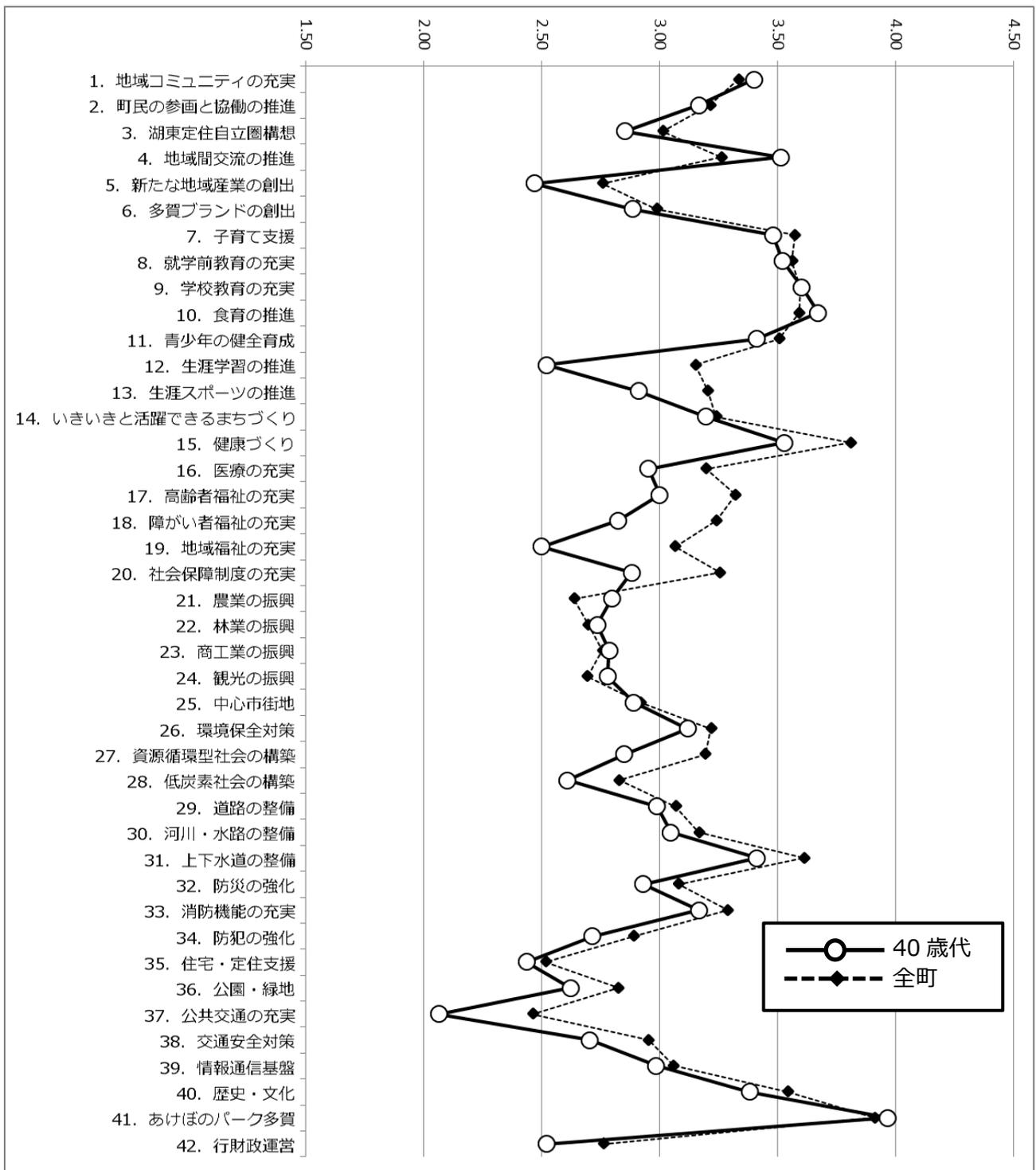
- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.93）、「健康づくり」（3.74）、「歴史・文化」（3.56）、「食育の推進」（3.47）、「上下水道」（3.44）となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.53）、「医療」（2.70）、「行財政運営」（2.72）、「公園・緑地」（2.73）、「農業」（2.77）等となっています。
- ・全町に比べ、「林業」など評価がやや高い項目、「医療」「子育て支援」など評価がやや低い項目がありますが、その差はあまり大きなものではありません。



【年齢別集計（40歳代）】

「あけぼのパーク」「食育」「学校教育」「健康づくり」等で高い評価。

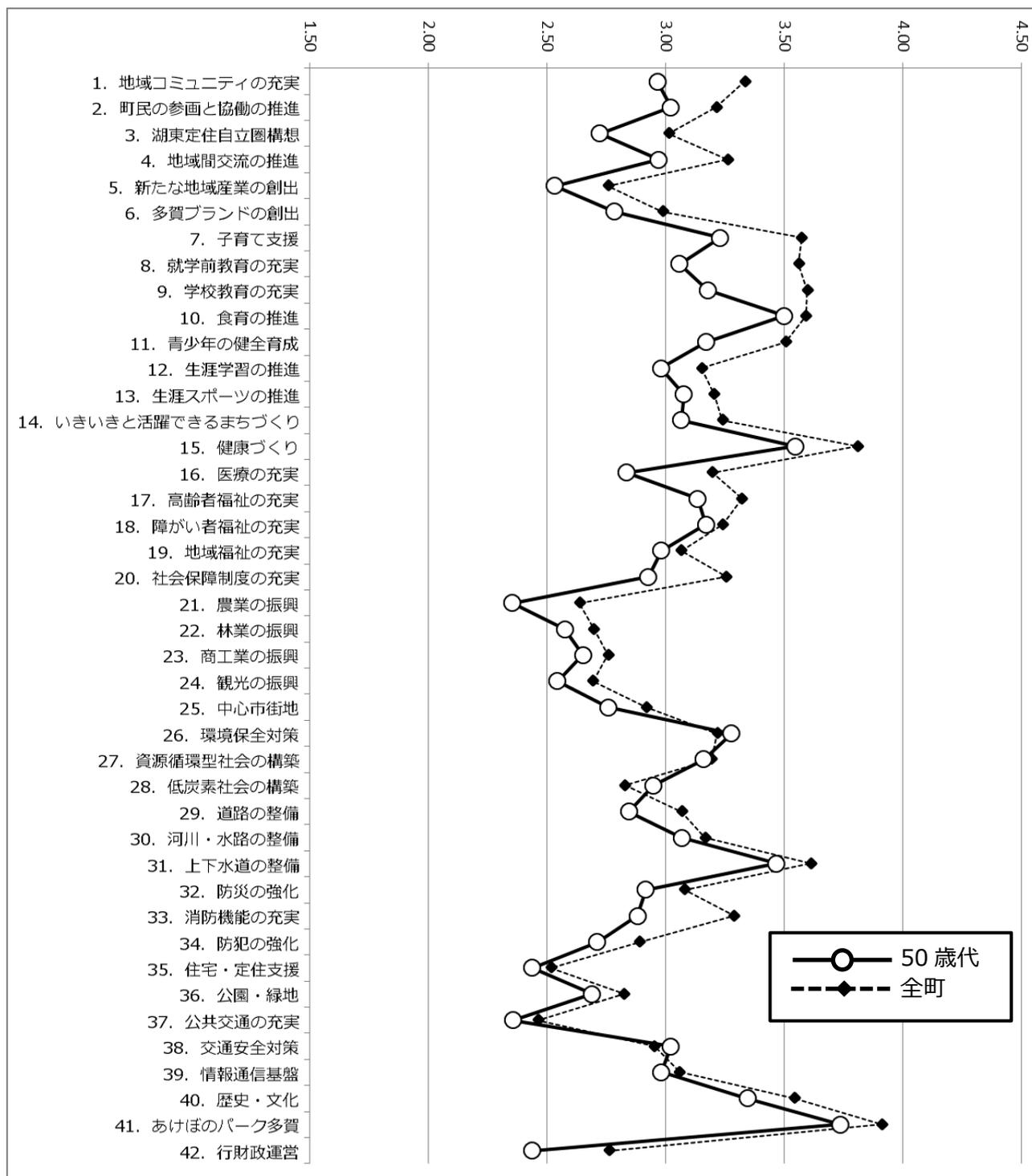
- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.97）、「食育の推進」（3.67）、「学校教育」（3.60）、「健康づくり」（3.53）となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.06）、「住宅・定住」（2.44）、「地域福祉」（2.50）、「新たな地域産業」（2.47）、「生涯学習」（2.52）等となっています。
- ・全町に比べ、「生涯学習」「地域福祉」で5ポイント以上、評価が低くなっています。



【年齢別集計（50歳代）】

「あけぼのパーク」「健康づくり」「食育」「上下水道」「歴史・文化」等で高い評価。

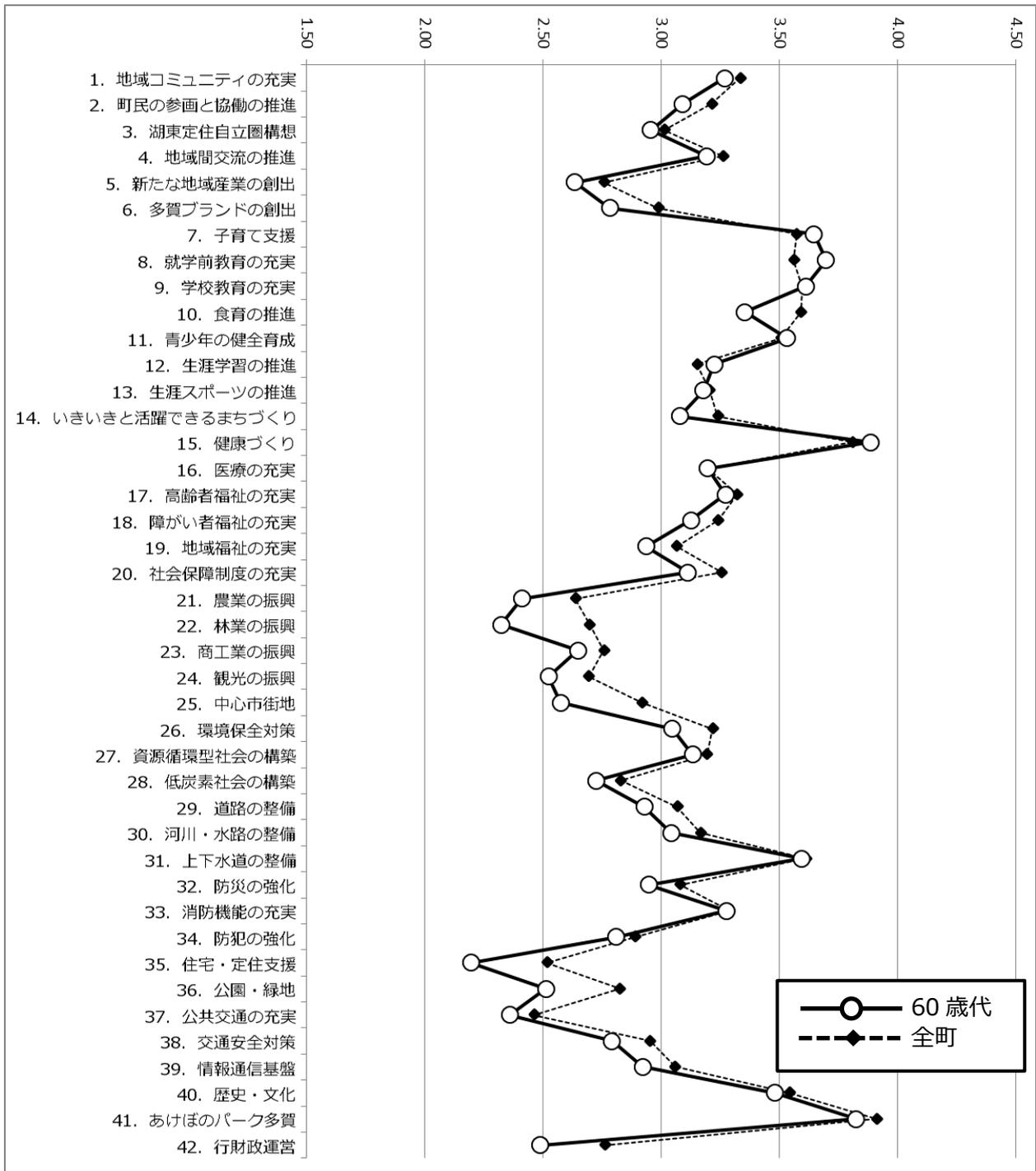
- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.73）、「健康づくり」（3.55）、「食育の推進」（3.50）、「上下水道」（3.47）、「歴史・文化」（3.34）となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.35）、「農業」（2.35）、「行財政運営」（2.44）、「住宅・定住」（2.44）、「新たな地域産業」（2.53）等となっています。
- ・全町に比べ、総じて厳しい評価が多いものの、その差は小さいものにとどまっています。



【年齢別集計（60歳代）】

「健康づくり」「あけぼのパーク」「就学前教育」「子育て支援」「学校教育」等で高い評価。

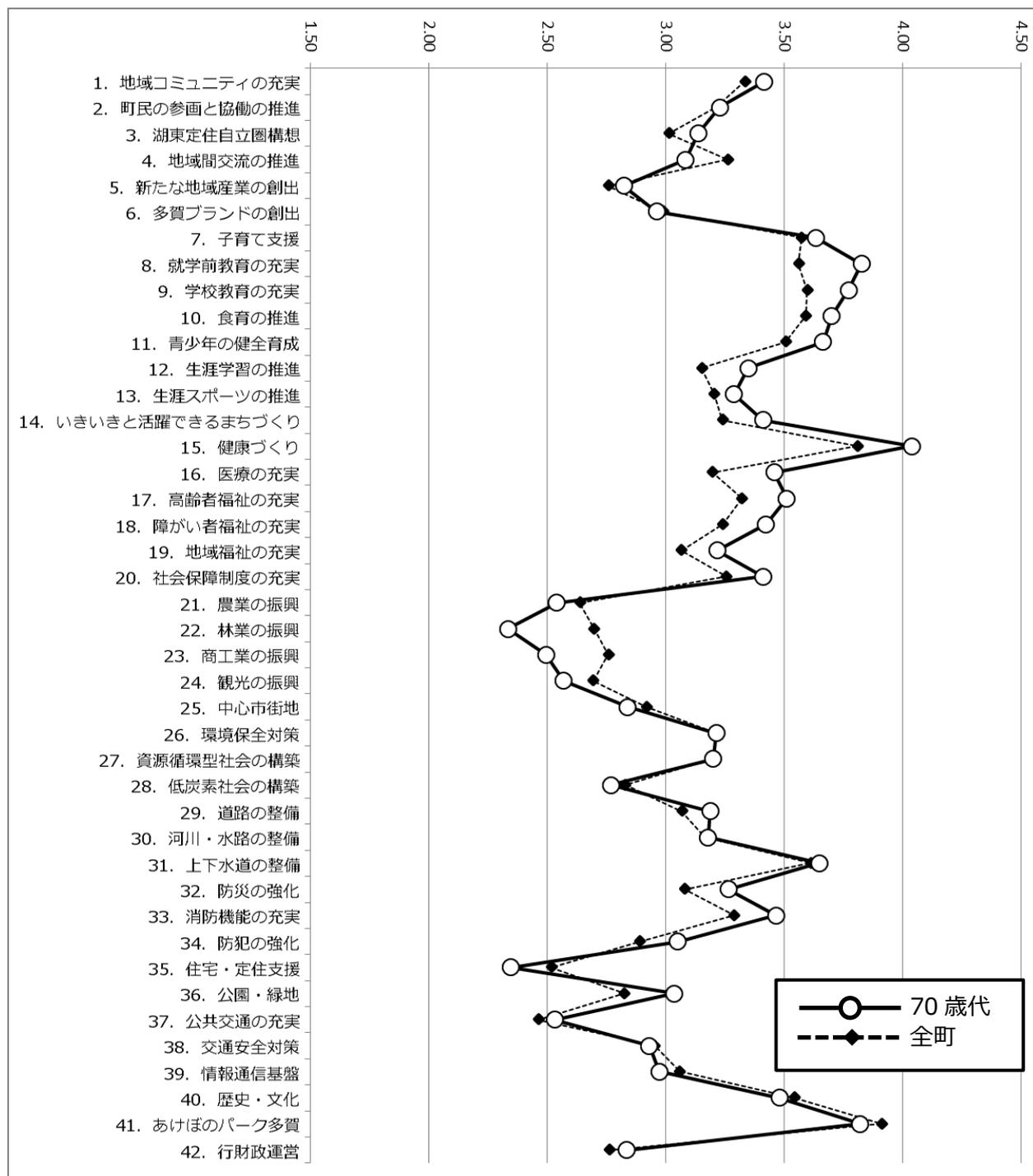
- ・特に評価が高いのは、「健康づくり」(3.88)、「あけぼのパーク多賀」(3.82)、「就学前教育」(3.70)、「子育て支援」(3.65)、「学校教育」(3.61) 等となっています。
- ・評価が低いのは、「住宅・定住」(2.20)、「林業」(2.32)、「公共交通」(2.36)、「農業」(2.41)、「行財政運営」(2.49) 等となっています。
- ・全町に比べ、「林業」「中心市街地」など評価がやや低い項目がありますが、その差はあまり大きなものではなく、総じて全体に近い評価になっています。



【年齢別集計（70歳代）】

「健康づくり」「あけぼのパーク」「就学前教育」「子育て支援」「学校教育」等で高い評価。

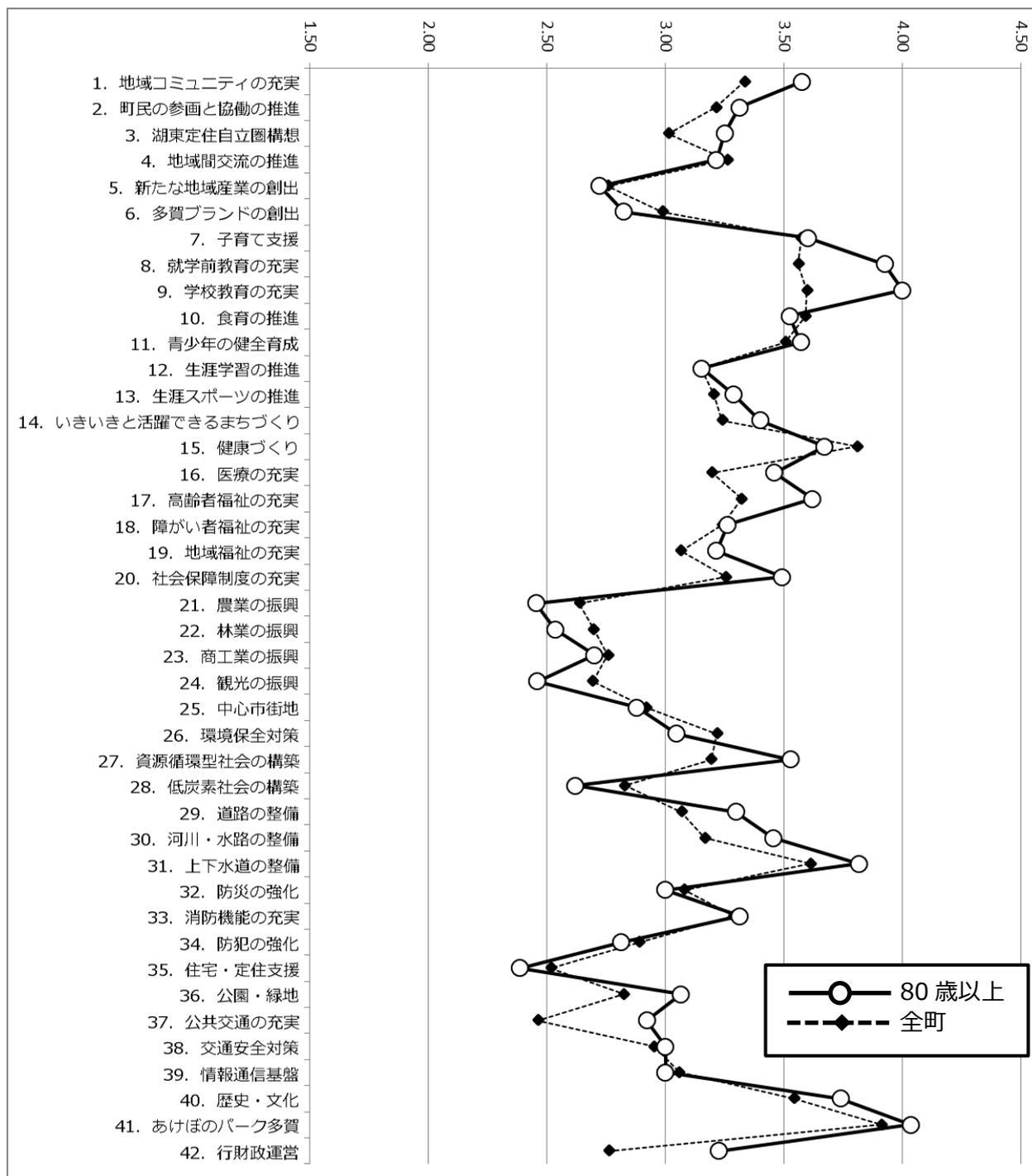
- ・特に評価が高いのは、「健康づくり」(4.04)、「就学前教育」(3.83)、「あけぼのパーク多賀」(3.82)、「学校教育」(3.77)、「食育の推進」(3.70)、等となっています。
- ・評価が低いのは、「林業」(2.33)、「住宅・定住」(2.35)、「商工業」(2.49)、「公共交通」(2.53)、「農業」(2.54)等となっています。
- ・全町に比べ、「林業」など評価がやや低い項目がありますが、その差はあまり大きなものではなく、総じて全体に近い評価になっています。



【年齢別集計（80歳以上）】

「あけぼのパーク」「学校教育」「就学前教育」「上下水道」「歴史・文化」等で高い評価。

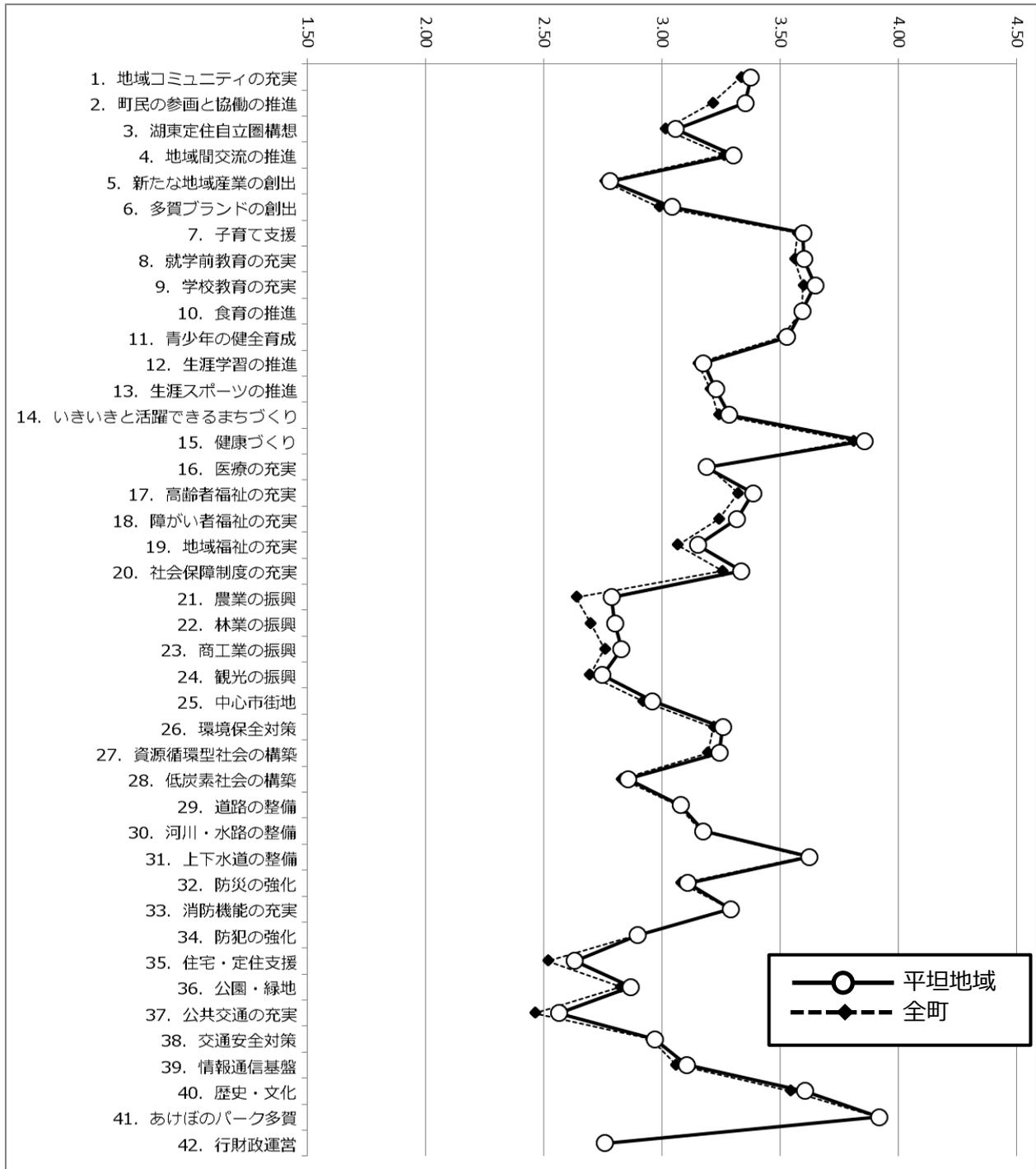
- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（4.04）、「学校教育」（4.00）、「就学前教育」（3.93）、「上下水道」（3.82）、「歴史・文化」（3.74）、等となっています。
- ・評価が低いのは、「住宅・定住」（2.39）、「農業」（2.45）、「観光」（2.46）、「林業」（2.53）、「低炭素社会」（2.62）、等となっています。
- ・全町に比べ、「行財政運営」「公共交通」「学校教育」など評価がやや高い項目がありますが、その差はあまり大きなものではなく、総じて全体に近い評価になっています。



【地域別集計（平坦地域）】

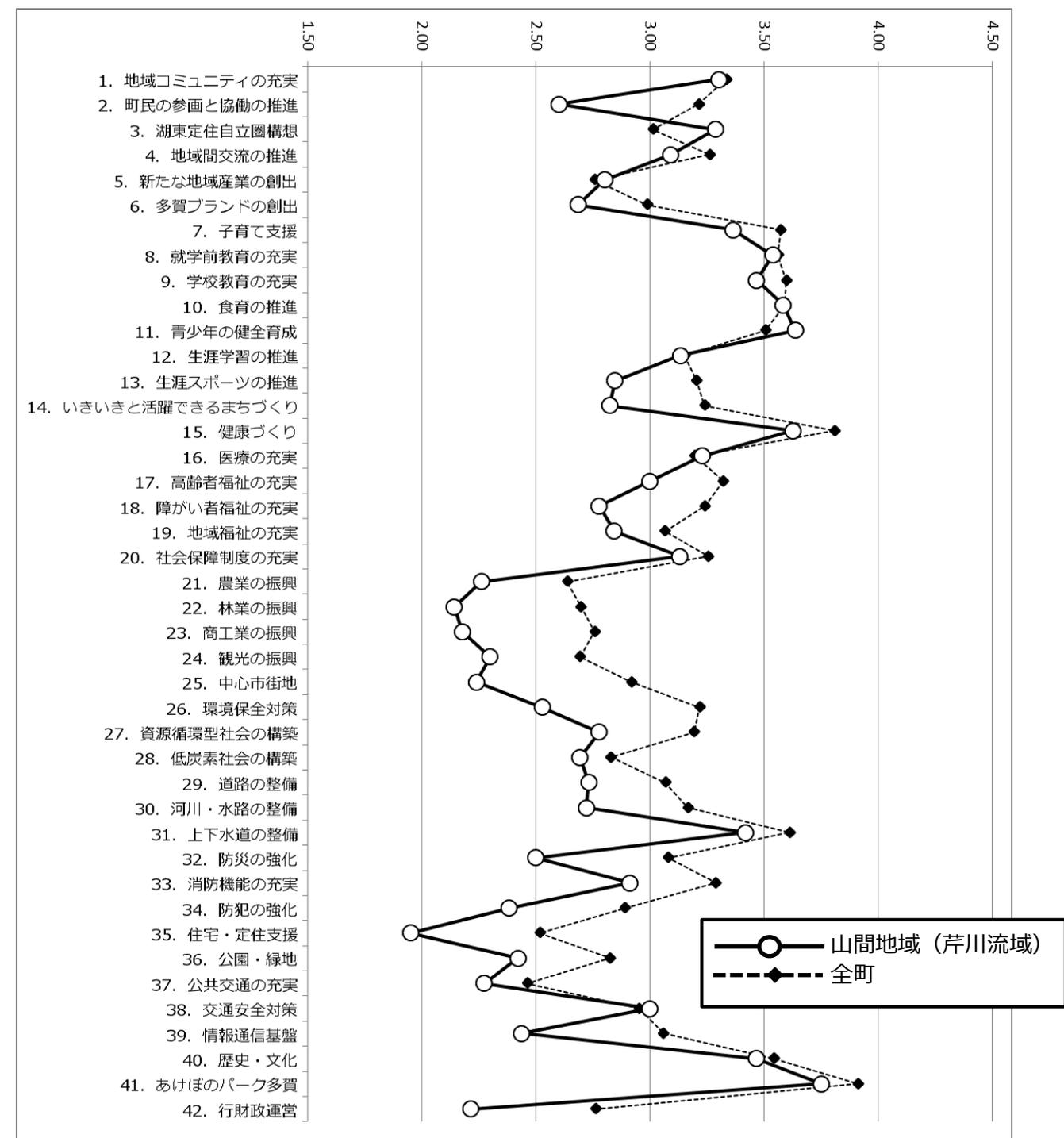
「あけぼのパーク」「健康づくり」「学校教育」「上下水道」等で高い評価。「わからない」も多数。

- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.92）、「健康づくり」（3.85）、「学校教育」（3.65）、「上下水道」（3.62）等となっています。
- ・評価が低いのは、「公共交通」（2.56）、「住宅・定住」（2.63）等となっています。
- ・対象件数が多いことから、全町と近似した結果になっています。
- ・全項目を通じて「わからない」の比率が平均 32.8%と他地域に比べて高くなっています。新規居住者の増加等に伴い、住民の興味や関心、意識の度合いが多様化していることも考えられます。



【地域別集計（山間地域－芹川流域）】
 総じて全町に比べ厳しい評価。特に「住宅・定住支援」で低い評価。

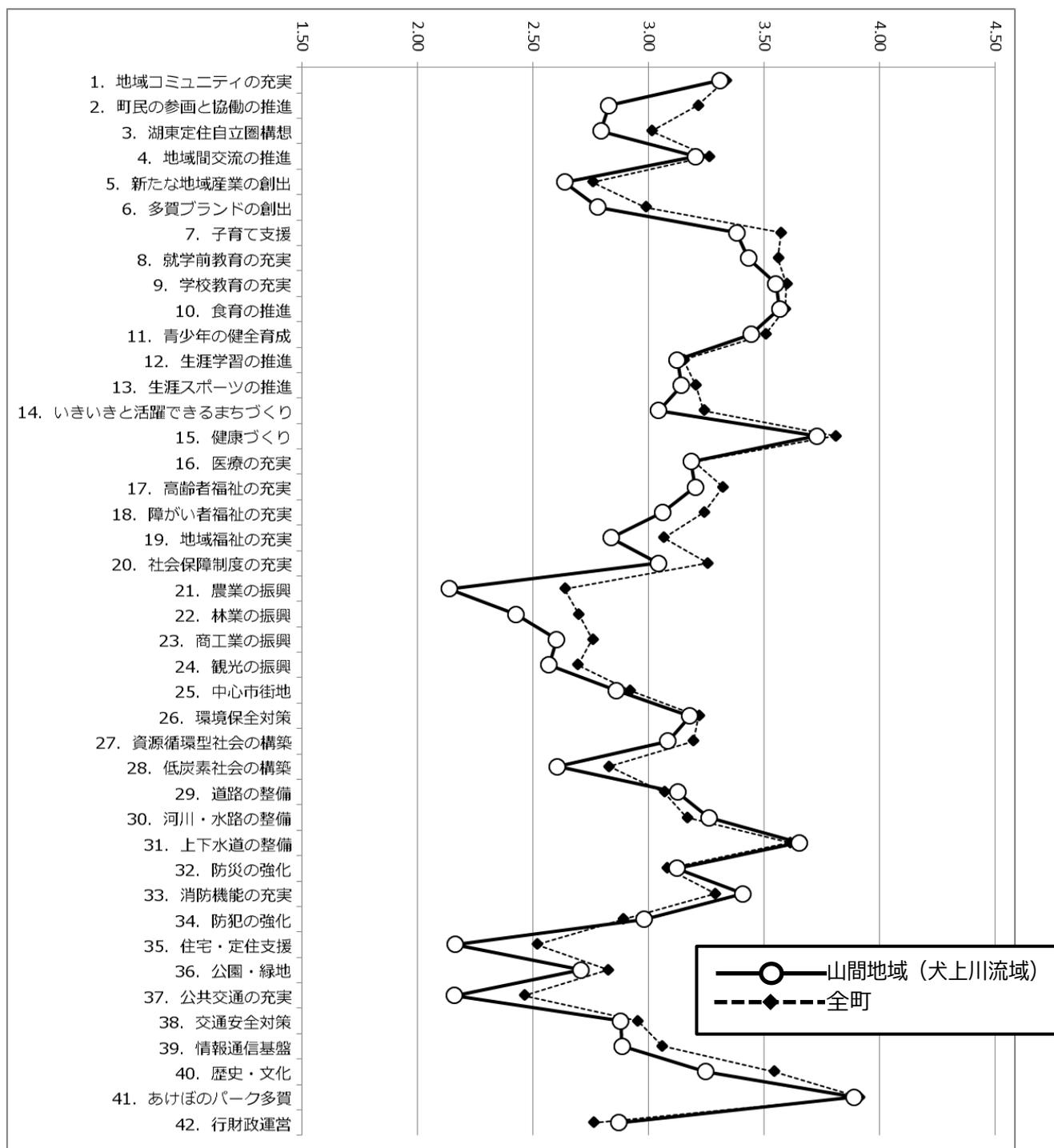
- ・評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」(3.75)、「青少年の健全育成」(3.64)、「健康づくり」(3.63)、「上下水道」(3.42) 等となっています。
- ・総じて全町に比べ、評価が厳しい項目が多くなっており、42 項目中 37 項目で全町に比べ低評価になっています（全町より高い評価は 5 項目）。
- ・特に、「住宅・定住」(1.95)、「商工業」(2.18)、「行財政運営」(2.21)、「中心市街地」(2.24)、「農業」(2.26) 等の評価が厳しくなっています。



【地域別集計（山間地域－犬上川流域）】

総じて全町に比べ厳しい評価。特に「農業」「住宅・定住支援」「公共交通」等で低い評価。

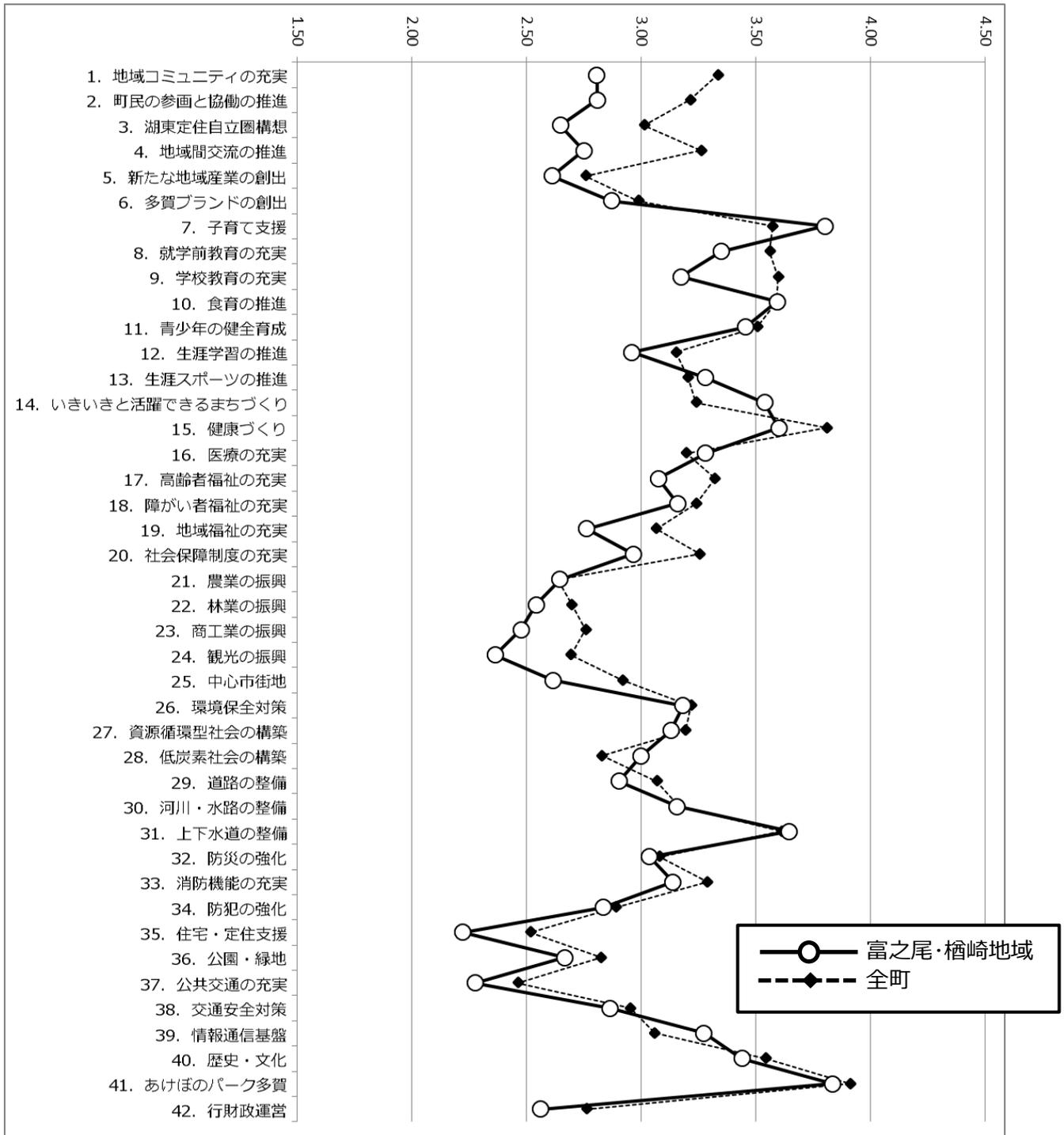
- ・評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.89）、「健康づくり」（3.73）、「上下水道」（3.65）等となっています。
- ・総じて全町に比べ、評価が厳しい項目が多くなっており、42項目中35項目で全町に比べ低評価になっています（全町より高い評価は7項目）。特に、「農業」（2.14）、「住宅・定住」「公共交通」（いずれも2.16）等の評価が厳しくなっています。
- ・全項目を通じて「無回答」の比率が富之尾・檜崎地域とともに高く、平均20.3%を占めています。



【地域別集計（富之尾・檜崎地域）】

「あけぼのパーク」「子育て」で高い評価。「住宅」「公共交通」「観光」等で厳しい評価。

- ・特に評価が高いのは、「あけぼのパーク多賀」（3.83）、「子育て」（3.80）等となっています。
- ・「住宅・定住」（2.22）、「公共交通」（2.28）、「観光」（2.36）等では厳しい評価になっています。
- ・全町に比べ、「地域コミュニティ」「町民参画」「地域間交流」等の項目で乖離が大きく、評価が低くなっています。
- ・全項目を通じて「無回答」の比率が高く、平均 18.5%を占めています。



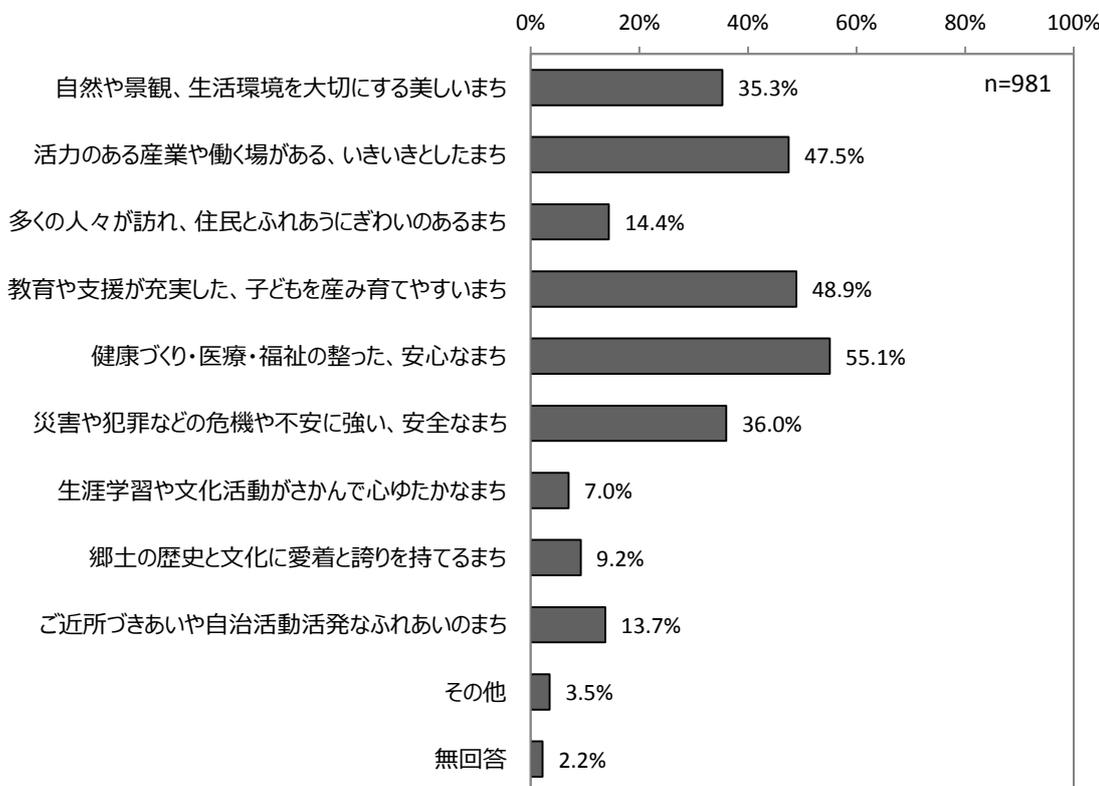
問 12 あなたは、今後、多賀町が「だれもが住み続けたい、子どもたちが帰ってきたいまち」になるため、どんなまちであってほしいとお考えですか。(あてはまる番号に3つまで○)

期待される将来像は「健康・安心」「子ども」「活力や働く場」が上位に。

・将来、期待するまちの姿としては、「健康づくり・医療・福祉の整った安心なまち」を55.1%と半数を超える回答者が選択しています。以下、「教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち」(48.9%)、「活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち」(47.5%)、「災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち」(36.0%)、「自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち」(35.3%)が続いています。

調査数	981	100.0%
自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち	346	35.3%
活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち	466	47.5%
多くの人々が訪れ、住民とふれあうにぎわいのあるまち	141	14.4%
教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち	480	48.9%
健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち	541	55.1%
災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち	353	36.0%
生涯学習や文化活動がさかんで心ゆたかなまち	69	7.0%
郷土の歴史と文化に愛着と誇りを持てるまち	90	9.2%
ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち	134	13.7%
その他	34	3.5%
無回答	22	2.2%

複数回答



【年齢別集計】

「子どもを産み育てやすいまち」「健康・医療・福祉の整った安心なまち」は全ての年齢層で重視。20歳代で「美しいまち」、30歳代で「災害や犯罪に強い安全なまち」を重視、その他の年齢で「産業や働く場のあるいきいきしたまち」にも期待。

- ・期待する将来像を年齢別にみると、全ての年齢層で「教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち」と「健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち」が上位3位内に入っています。特に10～40歳代では前項目が、50歳代以上では後項目が第1位となっています。
- ・この2項目以外では、10歳代及び40歳代以上では、「活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち」が上位3位以内に入っています。
- ・20歳代では「自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち」、30歳代では「災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち」が上位3位以内に入っています。
- ・70歳以上では、「ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち」に期待する比率が全体に比べてやや高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち	35.3%	30.5%	45.5%	34.0%	40.0%	38.0%	35.6%	32.8%	30.2%
活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち	47.5%	35.6%	39.0%	38.8%	47.0%	48.1%	55.7%	51.9%	50.0%
多くの人々が訪れ、住民とふれあうにぎわいのあるまち	14.4%	22.0%	23.4%	14.3%	14.8%	25.3%	8.2%	11.1%	13.2%
教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち	48.9%	61.0%	55.8%	72.8%	56.5%	45.6%	45.4%	33.9%	33.0%
健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち	55.1%	45.8%	46.8%	47.6%	47.8%	55.7%	58.2%	66.1%	63.2%
災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち	36.0%	33.9%	32.5%	42.2%	37.4%	30.4%	44.8%	32.3%	23.6%
生涯学習や文化活動がさかんで心ゆたかなまち	7.0%	1.7%	6.5%	8.8%	11.3%	11.4%	5.7%	6.3%	3.8%
郷土の歴史と文化に愛着と誇りを持てるまち	9.2%	8.5%	13.0%	8.8%	10.4%	8.9%	7.7%	7.4%	10.4%
ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち	13.7%	8.5%	13.0%	8.2%	7.8%	5.1%	11.3%	19.0%	30.2%
その他	3.5%	6.8%	1.3%	6.8%	4.3%	5.1%	3.6%	1.1%	-
無回答	2.2%	3.4%	-	-	-	-	0.5%	6.3%	5.7%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

「健康・医療・福祉の整った安心なまち」「活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち」を全ての地域が重視。

山間地域（芹川流域）では、「自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち」、他3地域では「教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち」が上位（第3位）に。

- ・期待する将来像を地域別にみると、全ての地域で「健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち」の比率が最も高く、「活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち」の比率が上位3位以内に入っています。
- ・この2項目以外については、山間地域（芹川流域）以外の3地区では、「教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち」が上位3位以内に入っています。また山間地域（芹川流域）では、「自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち」が第3位となっています。
- ・全町と比較すると、山間地域（犬上川流域）及び富之尾・檜崎地域では「ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち」の比率が、山間地域（芹川流域）では「郷土の歴史と文化に愛着と誇りを持てるまち」の比率が高くなっています。

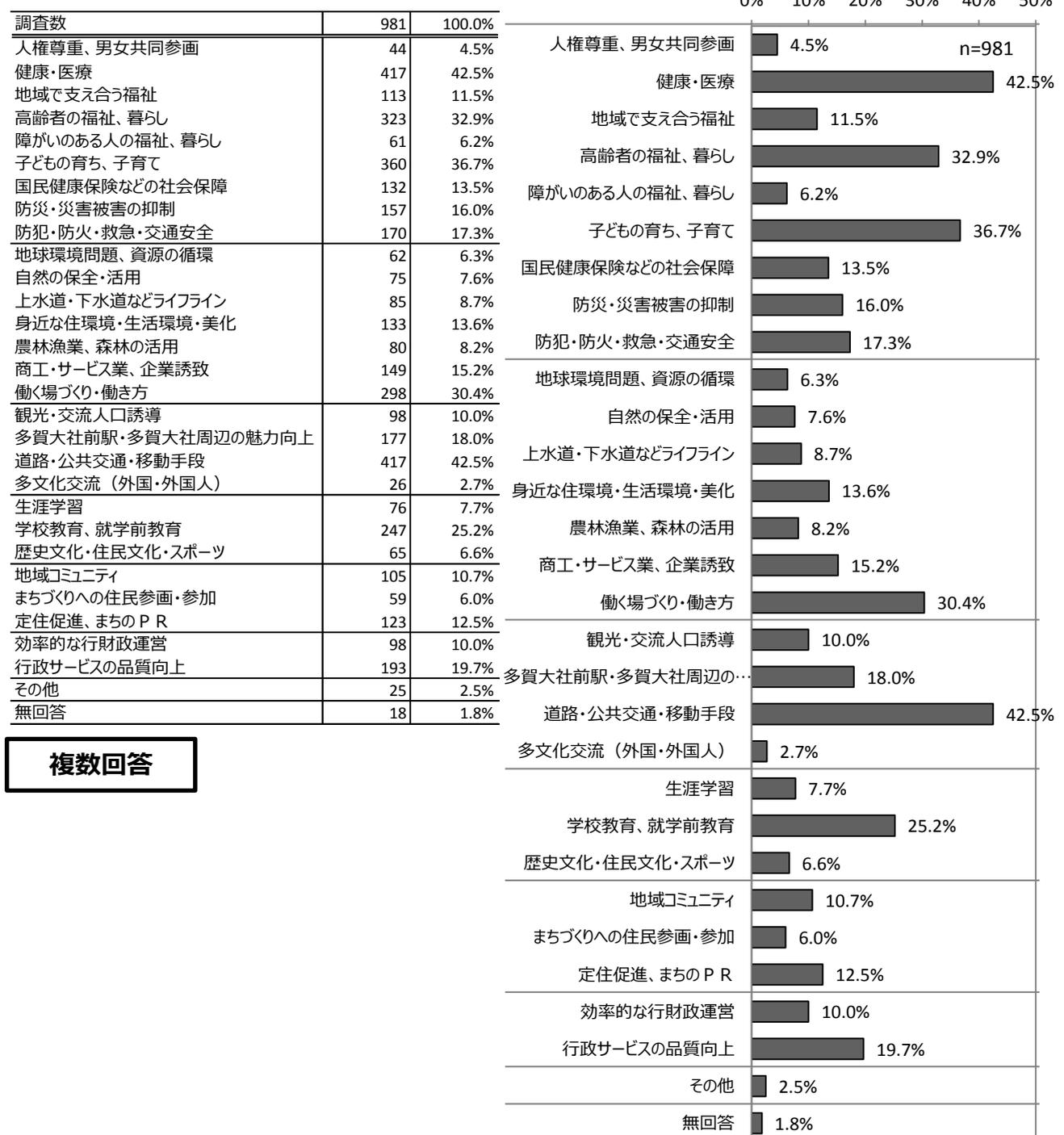
	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
自然や景観、生活環境を大切にする美しいまち	35.3%	36.0%	42.9%	31.1%	35.6%
活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち	47.5%	46.4%	50.0%	50.8%	51.1%
多くの人々が訪れ、住民とふれあうにぎわいのあるまち	14.4%	15.2%	10.7%	12.6%	11.1%
教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち	48.9%	51.9%	28.6%	42.6%	44.4%
健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち	55.1%	54.2%	57.1%	57.4%	57.8%
災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち	36.0%	37.5%	32.1%	30.1%	37.8%
生涯学習や文化活動がさかんで心ゆたかなまち	7.0%	7.9%	7.1%	4.9%	4.4%
郷土の歴史と文化に愛着と誇りを持てるまち	9.2%	10.4%	14.3%	4.9%	2.2%
ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち	13.7%	5.1%	11.3%	19.0%	30.2%
その他	3.5%	5.1%	3.6%	1.1%	-
無回答	2.2%	-	0.5%	6.3%	5.7%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

問 13 多賀町が「だれもが住み続けたい、子どもたちが帰ってきたいまち」になるため、特にどんなことに力を入れていくことが大切だと思いますか。(あてはまる番号に5つまで○)

今後、重視される取り組みは「健康・医療」「交通・移動」「子育て」「高齢者」が上位に。

・将来像を実現するため大切にしたい取り組みとしては、「健康・医療」及び「道路・公共交通・移動手段」がともに42.5%と、多くの回答者が選択しています。以下、「子どもの育ち、子育て」(36.7%)、「高齢者の福祉、暮らし」(32.9%)、「働く場づくり・働き方」(30.4%)が3割を超える回答を集めています。



複数回答

【年齢別集計】

「健康・医療」「道路・公共交通・移動手段」「働く場づくり・働き方」は年齢問わず上位に。子育て世代を中心に「子どもの育ち、子育て」「学校教育、就学前教育」が、また年齢の高い層では「高齢者の福祉・暮らし」も上位に。

- ・将来像実現のため力を入れるべき取り組みを年齢別にみると、「健康・医療」「道路・公共交通・移動手段」は全ての年齢層で上位5位内に入っています。また、「働く場づくり・働き方」も20歳代以上で上位5位内に入っています。
- ・10～50歳代では、「子どもの育ち、子育て」が第1位となっています。
- ・20～40歳代では「学校教育、就学前教育」も上位となっています。
- ・50歳以上を中心に、年齢の高い層で「高齢者の福祉・暮らし」が上位になっています。

	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
第1位	子どもの育ち、子育て	子どもの育ち、子育て	子どもの育ち、子育て	子どもの育ち、子育て	健康・医療	健康・医療	道路・公共交通・移動手段	高齢者の福祉・暮らし
第2位	道路・公共交通・移動手段	健康・医療	健康・医療	健康・医療 道路・公共交通・移動手段	子どもの育ち、子育て	道路・公共交通・移動手段	高齢者の福祉・暮らし	道路・公共交通・移動手段
第3位	健康・医療	道路・公共交通・移動手段	学校教育、就学前教育		道路・公共交通・移動手段	高齢者の福祉・暮らし	健康・医療	健康・医療
第4位	高齢者の福祉・暮らし	学校教育、就学前教育	道路・公共交通・移動手段	働く場づくり・働き方	働く場づくり・働き方	働く場づくり・働き方	働く場づくり・働き方	行政サービスの品質向上
第5位	駅前・多賀大社周辺魅力向上	働く場づくり・働き方	働く場づくり・働き方	学校教育、就学前教育	高齢者の福祉・暮らし	子どもの育ち、子育て	国民健康保険など社会保障	健康・医療 働く場づくり・働き方

【地域別集計】

「健康・医療」「道路・公共交通・移動手段」は各地域で上位に。平坦地域、富之尾・檜崎地域では「健康・医療」、山間地域では「道路・公共交通・移動手段」が第1位。

「子どもの育ち、子育て」「働く場づくり・働き方」など子ども・若者向け施策も上位に。山間地域（芹川流域）では、「地域福祉」など異なるニーズも。

- ・将来像実現のため力を入れるべき取り組みを年齢別にみると、「健康・医療」「道路・公共交通・移動手段」は全ての地域で上位3位内に入っています。また、「高齢者の福祉・暮らし」も全地域で5位以内に入っています。
- ・山間地域では、芹川流域・犬上川流域とも「道路・公共交通・移動手段」が1位、「高齢者の福祉・暮らし」が2位となっています。
- ・平坦地域及び富之尾・檜崎地域では、「健康・医療」が1位、「道路・公共交通・移動手段」が2位となっています。
- ・このほか、「働く場づくり・働き方」や「子どもの育ち、子育て」が複数地域で上位となっています。
- ・山間地域（芹川流域）では、「地域で支え合う福祉」「防犯・防火・救急・交通安全」「農林漁業・森林活用」をはじめ、他地域とは異なるニーズもみられます。

	平坦地域 (n=709)	山間地域(芹川) (n=28)	山間地域(犬上川) (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
第1位	健康・医療	道路・公共交通・移動手段	道路・公共交通・移動手段	健康・医療
第2位	道路・公共交通・移動手段	高齢者の福祉・暮らし	高齢者の福祉・暮らし	道路・公共交通・移動手段
第3位	子どもの育ち、子育て	健康・医療	健康・医療	高齢者の福祉・暮らし
第4位	高齢者の福祉・暮らし	行政サービスの品質向上	働く場づくり・働き方	子どもの育ち、子育て
第5位	働く場づくり・働き方	地域で支え合う福祉 防犯・防火・救急・交通安全 農林漁業、森林の活用	子どもの育ち、子育て	学校教育、就学前教育

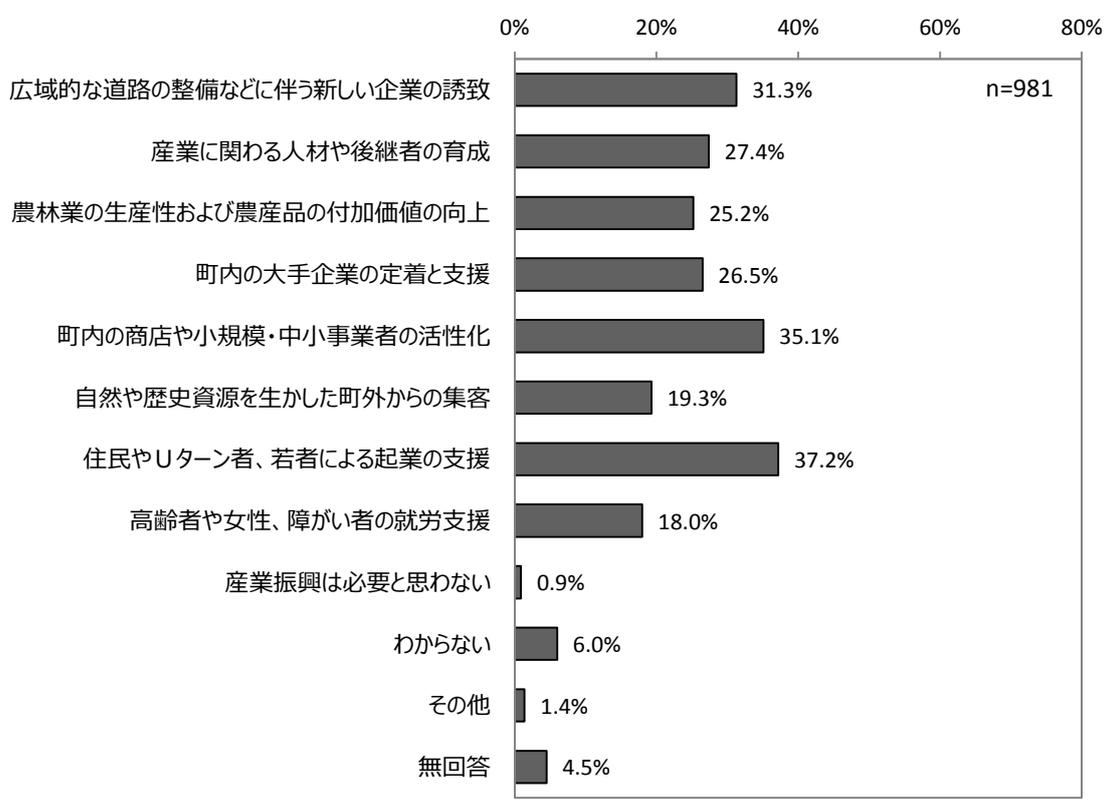
問 14 働く場づくりや税収の確保、にぎわいづくりのためには、産業振興がさらに重要になっていきます。多賀町の産業の活性化のため、特にどんな取り組みが大切だと思いますか。（あてはまる番号に3つまで○）

産業振興のためには「起業支援」「小規模・中小事業の活性化」「企業誘致」等に期待。

- ・産業振興については、「起業の支援」に対する期待が 37.2%と最も高く、「町内商店や小規模・中小事業者の活性化」(35.1%)、「新しい企業の誘致」(31.3%) も3割以上の回答を集めています。
- ・また、「人材・後継者育成」(27.4%)、「大手企業の定着と支援」(26.5%)、「農林業の生産性・付加価値の向上」(25.2%) も1/4を超える回答者が選択しています。

調査数	981	100.0%
広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致	307	31.3%
産業に関わる人材や後継者の育成	269	27.4%
農林業の生産性および農産品の付加価値の向上	247	25.2%
町内の大手企業の定着と支援	260	26.5%
町内の商店や小規模・中小事業者の活性化	344	35.1%
自然や歴史資源を生かした町外からの集客	189	19.3%
住民やUターン者、若者による起業の支援	365	37.2%
高齢者や女性、障がい者の就労支援	177	18.0%
産業振興は必要と思わない	9	0.9%
わからない	59	6.0%
その他	14	1.4%
無回答	44	4.5%

複数回答



【年齢別集計】

各世代で「起業支援」や「新しい企業誘致」が重要と考えている。

20・50歳代では既存大手企業の定着、その他の年齢では小規模・中小事業者への支援も期待。

- ・産業振興のために重要と考える取り組みを年齢別にみると、全ての年齢層で「住民やUターン者、若者による起業の支援」が、また70歳代を除く各年代で「広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致」が、それぞれ上位3位内に入っています。
- ・20歳代及び50歳代では、「町内の大手企業の定着と支援」の比率が第1位になっています。その他の各年代では、「町内の商店や小規模・中小事業者の活性化」が上位3位以内を形成しています。
- ・このほか30～50歳代では、「自然や歴史資源を生かした町外からの集客」や「高齢者や女性、障がい者の就労支援」、「高齢者や女性、障がい者の就労支援」の比率が全体に比べてやや高くなっています。また70歳代以上では、「産業に関わる人材や後継者の育成」の比率も高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致	31.3%	39.0%	36.4%	32.0%	36.5%	27.8%	33.0%	26.5%	25.5%
産業に関わる人材や後継者の育成	27.4%	16.9%	23.4%	25.9%	28.7%	24.1%	29.9%	32.3%	25.5%
農林業の生産性および農産品の付加価値の向上	25.2%	15.3%	15.6%	26.5%	27.0%	29.1%	30.4%	23.3%	22.6%
町内の大手企業の定着と支援	26.5%	16.9%	39.0%	25.9%	28.7%	35.4%	26.3%	24.3%	17.9%
町内の商店や小規模・中小事業者の活性化	35.1%	35.6%	35.1%	41.5%	33.9%	25.3%	35.1%	37.6%	32.1%
自然や歴史資源を生かした町外からの集客	19.3%	8.5%	22.1%	19.7%	24.3%	24.1%	17.0%	23.3%	10.4%
住民やUターン者、若者による起業の支援	37.2%	32.2%	36.4%	40.8%	38.3%	36.7%	32.5%	38.6%	40.6%
高齢者や女性、障がい者の就労支援	18.0%	13.6%	20.8%	24.5%	17.4%	25.3%	18.6%	11.1%	17.0%
産業振興は必要と思わない	0.9%	1.7%	1.3%	-	-	2.5%	1.0%	1.6%	-
わからない	6.0%	16.9%	7.8%	2.0%	4.3%	6.3%	7.2%	2.6%	9.4%
その他	1.4%	-	1.3%	4.8%	2.6%	1.3%	1.0%	-	-
無回答	4.5%	3.4%	-	2.0%	2.6%	2.5%	2.1%	7.9%	13.2%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

各世代で「起業支援」や「新しい企業誘致」が重要と考えている。

20・50歳代では既存大手企業の定着、その他の年齢では小規模・中小事業者への支援も期待。

- ・産業振興のために重要と考える取り組みを地域別にみると、全ての地域で「住民やUターン者、若者による起業の支援」及び「広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致」が上位3位内に入っています。
- ・平坦地域では「町内の商店や小規模・中小事業者の活性化」、富之尾・樫崎地域では「町内の大手企業の定着と支援」の比率がそれぞれ第1位になっています。
- ・山間地域（芹川流域）では、「農林業の生産性および農産品の付加価値の向上」が第2位にあがるほか、「自然や歴史資源を生かした町外からの集客」「町内の大手企業の定着と支援」の比率が、また、富之尾・樫崎地域でも「町内の大手企業の定着と支援」の比率が全町に比べ高い比率となっています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・樫崎地域 (n=45)
広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致	31.3%	32.4%	35.7%	26.8%	31.1%
産業に関わる人材や後継者の育成	27.4%	28.8%	17.9%	25.1%	26.7%
農林業の生産性および農産品の付加価値の向上	25.2%	24.7%	39.3%	23.0%	31.1%
町内の大手企業の定着と支援	26.5%	26.2%	35.7%	23.5%	40.0%
町内の商店や小規模・中小事業者の活性化	35.1%	38.6%	21.4%	27.3%	26.7%
自然や歴史資源を生かした町外からの集客	19.3%	19.2%	39.3%	16.9%	17.8%
住民やUターン者、若者による起業の支援	37.2%	36.4%	46.4%	39.9%	37.8%
高齢者や女性、障がい者の就労支援	18.0%	18.1%	10.7%	18.6%	20.0%
産業振興は必要と思わない	0.9%	1.1%	-	0.5%	-
わからない	6.0%	4.9%	3.6%	9.3%	8.9%
その他	1.4%	2.0%	-	-	-
無回答	4.5%	2.8%	-	10.4%	4.4%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

問 15 あなたが、多賀町で子どもたちに継承したり、町外に発信したい「地域の魅力」を教えてください。「地域の魅力」とは、地域の自慢の「ひと、もの、こと」です。

例えば…

「ひと」：ご近所づきあい、見守り運動、美化活動、おだやかな人柄、あたたかい人情、など

「もの」：〇〇からみた風景、〇〇寺・神社、歴史的な建物、樹木・〇〇の緑、特産品、など

「こと」：〇〇のお祭り、環境にやさしい農業、〇〇ボランティア、しきたり・風習、など

- ・ 981 件中、369 件（37.6%）で記載がありました（「特にない」等の記載は除きます）。
- ・ なお、1 件の回答者が複数の地域資源を挙げている場合、各々に分類・整理しているため、分類した地域資源の合計は記載件数を超えています。
- ・ また、同じ歴史文化資源であっても、「多賀大社、大瀧神社、胡宮神社…」のように複数の資源を記載している場合があるため、同じ分類内でも具体的な名称の合計と、その分類の合計が一致しない場合があります。
- ・ 「歴史」「豊かな自然」など具体的な場所や建物の特定がないものについては、「具体的な名称例」に掲げていません。

魅力の第一は「多賀大社」。行祭事、風景・景観・環境、町民の人柄等が続く。

- ・ 地域魅力のうち、「ひと」に関することは 169 件、「もの」に関することは 404 件、「こと」に関することは 270 件の記載がありました。
- ・ 個別にみると、「ひと」関連では「人柄・人情」を挙げた回答が 65 件と最も多く、「近所付き合い」など人間関係、「見守り」「あいさつ」「美化」など住民の取組を挙げた意見が続いています。
- ・ 「もの」では「多賀大社」が 111 件で、個別資源としては最も多くの回答者が挙げています。以下、「緑、自然」「風景・景観」「田園風景」など、自然やまちの環境を挙げる意見も多くなっています。
- ・ 「こと」では、万灯祭をはじめとして、多賀大社で行われる大規模なものから、各地域で行われる小規模なものまで、様々な行祭事・イベントを挙げる回答が目立ちます。また、「子育て」や「助け合い・ボランティア」など、住民の活動を魅力として挙げる回答も多くなっています。

「ひと」に関すること（169 件）

【具体的な名称例】

- 人柄（あたたかい、おだやか、親切、やさしい）、人情（65 件）
- 近所付き合い、助け合い、人のつながり、適度な距離感（47 件）
- 見守り運動（通学、高齢者）、声かけ（21 件）
- あいさつ運動、日常的なあいさつ（16 件）
- 美化活動（9 件）
- 子どもにやさしい（3 件）
- 元気なお年寄りが多い（3 件）
- 地元愛を持った住民（2 件）
- その他（家族、学校の先生のやさしさ、功労者など縁（ゆかり）のある地域人材 等）

「もの」に関すること (404 件)
【具体的な名称例】
<ul style="list-style-type: none"> ○多賀大社及び門前 (111 件) ○緑、山並み (高取山等)、自然、空気、そばの花 (84 件) ○特産品 (糸切餅、草餅、にんじん、米、千代結び、日本酒、鹿肉、ごぼう、野菜等) (35 件) ○風景 (里山、紅葉、四季、雪景色、星空、河川沿い)、景観、景色、眺望 (32 件) ○河内の風穴 (21 件) ○ (様々な位置からみた) 田園風景 (20 件) ○神社仏閣 (大瀧神社、胡宮神社、比婆神社、金蓮寺等) (23 件) ○歴史的建物 (石仏、大日堂、観音堂、地藏堂等) (17 件) ○あけぼのパーク、博物館、公民館 (13 件) ○多賀 SA、スマート IC (9 件) ○社寺林、樹木 (佐目十二相神の大杉、女飯盛木、男飯盛木、桜等) (8 件) ○犬上川、芹川の清流 (7 件) ○胡宮神社の桜、紅葉 (6 件) ○工業団地 (3 件) ○化石 (3 件)

「こと」に関すること (270 件)
【具体的な名称例】
<ul style="list-style-type: none"> ○行祭事 (万灯祭、敏満寺、多賀祭、ふるさと祭り、神あかり、初詣、大瀧神社古例祭、祈りの石ころあかり、地藏盆、春季大祭、赤淵神社のしめ飾り、川相お祭り、ふるさと楽市、節分祭、森の感謝祭 近江猿樂多賀座、神社ライトアップ等) (128 件) ○子育て環境・施策、教育、給食、子どもの医療、やまびこクラブ (29 件) ○風習、伝統 (行事・芸能)、伝説 (26 件) ○助け合い、ボランティア活動、地域の団結力、運動会などのふれあい (21 件) ○静かさ、落ち着き、ゆったりした時間 (10 件) ○歴史 (イザナギ・イザナミ)、各村の歴史 (10 件) ○治安の良さ、防犯 (7 件) ○長寿、長寿を支える環境 (サロン等) (6 件) ○環境へのやさしさ、環境学習の場・機会 (6 件) ○農業、林業 (5 件) ○住みよさ、ユニバーサルデザイン (5 件) ○活発な自治・自治会活動 (3 件) ○美しさ、美化活動 (3 件)

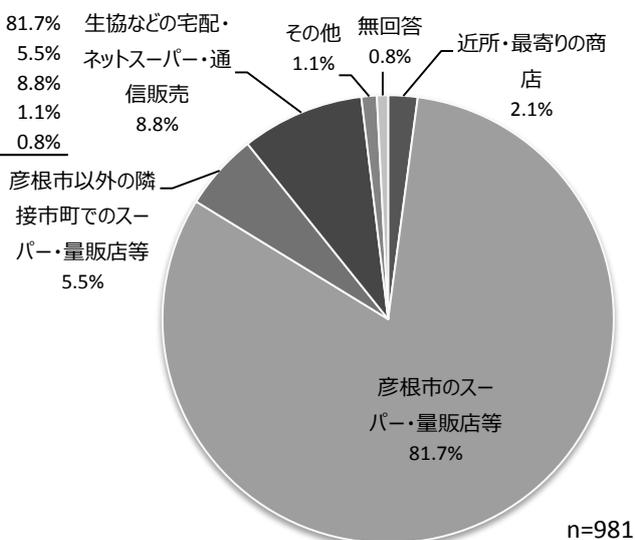
問 16 あなたやご家族は、普段の買い物（食料品・日用品など）は主にどこでしますか。また、その際どのような交通手段を使われますか。（それぞれあてはまる番号1つ〇）
※ご家族で最もよく使われる方の行動をお答えください

【ア 場所】

日常的な買い物では多くの回答者が「彦根市のスーパー・量販店等」を利用。

- ・最もよく利用する日常的な買い物場所を尋ねたところ、「彦根市のスーパー・量販店等」が81.7%に達しており、本町の買い物場所における彦根市との連携の重要性を示しています。これに「生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売」が8.8%で続いています。

調査数	981	100.0%
近所・最寄りの商店	21	2.1%
彦根市のスーパー・量販店等	801	81.7%
彦根市以外の隣接市町でのスーパー・量販店等	54	5.5%
生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売	86	8.8%
その他	11	1.1%
無回答	8	0.8%



単数回答

【年齢別集計】

各世代とも日常的な買い物は「彦根市のスーパー・量販店等」で。
 年齢の高い層では宅配・ネット・通販の利用も高まる。

- ・日常的な買い物では、各年代とも「彦根市のスーパー・量販店等」が中心となっています。
- ・70歳以上の層では、「生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売」の比率が全体に比べ高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
近所・最寄りの商店	2.1%	3.4%	2.6%	0.7%	0.9%	-	1.5%	4.2%	3.8%
彦根市のスーパー・量販店等	81.7%	81.4%	83.1%	86.4%	86.1%	88.6%	85.1%	74.6%	70.8%
彦根以外の隣接市町のスーパー・量販店等	5.5%	6.8%	6.5%	3.4%	9.6%	5.1%	4.6%	5.8%	3.8%
生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売	8.8%	6.8%	6.5%	8.2%	2.6%	6.3%	7.7%	12.7%	16.0%
その他	1.1%	-	1.3%	0.7%	0.9%	-	0.5%	1.6%	3.8%
無回答	0.8%	1.7%	-	0.7%	-	-	0.5%	1.1%	1.9%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

各地域とも日常的な買い物は「彦根市のスーパー・量販店等」が中心。

富之尾・檜崎地域では「隣接市町のスーパー・量販店等」、山間地域（芹川流域）では「宅配・ネット・通販」の利用も全町に比べて高い。

- ・日常的な買い物では、各地域とも「彦根市のスーパー・量販店等」が中心となっています。
- ・富之尾・檜崎地域では、「隣接市町のスーパー・量販店等」の比率が 15.6%（全体は 5.5%）、山間地域（芹川流域）では「生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売」の比率が 21.4%（全体は 8.8%）で、全体に比べ高くなっています。

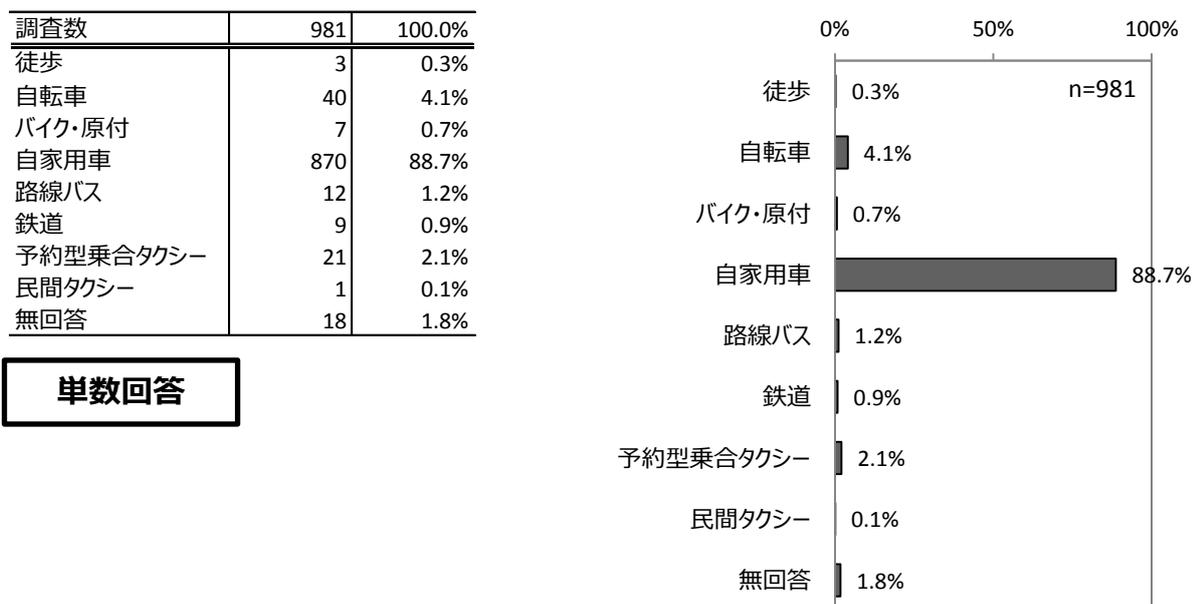
	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
近所・最寄りの商店	2.1%	1.6%	3.6%	2.7%	6.7%
彦根市のスーパー・量販店等	81.7%	85.8%	71.4%	72.1%	64.4%
彦根以外の隣接市町のスーパー・量販店等	5.5%	4.2%	-	8.7%	15.6%
生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売	8.8%	7.6%	21.4%	11.5%	11.1%
その他	1.1%	0.6%	3.6%	2.7%	-
無回答	0.8%	0.3%	-	2.2%	2.2%

※網かけは、合計（全町）よりも 5 ポイント以上ポイントが高い項目

【イ 交通手段】

日常的な買い物場所には、「自家用車」の利用がほぼ 9 割。

- ・日常的な買い物場所への交通手段では、「自家用車」が 88.7%を占め、今後の高齢化やそれに伴う免許返納などの動きに対応するためには、移動手手段の確保が課題となります。



単数回答

【年齢別集計】

各世代とも日常的な買い物場所への交通手段は「自家用車」が中心。
10歳代で「自転車」、80歳以上で「予約型乗合タクシー」の利用も。

- ・日常的な買い物場所への交通手段は、各年代とも「自家用車」が中心となっています。
- ・10歳代では「自転車」、80歳代以上では「予約型乗合タクシー」の比率がそれぞれ10%を超えています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
徒歩	0.3%	-	1.3%	-	-	-	-	-	1.9%
自転車	4.1%	10.2%	3.9%	3.4%	3.5%	2.5%	4.6%	3.7%	2.8%
バイク・原付	0.7%	-	-	-	-	1.3%	-	1.1%	2.8%
自家用車	88.7%	81.4%	92.2%	95.2%	96.5%	94.9%	92.8%	84.7%	68.9%
路線バス	1.2%	-	-	-	-	1.3%	1.0%	3.7%	1.9%
鉄道	0.9%	3.4%	2.6%	0.7%	-	-	0.5%	1.1%	0.9%
予約型乗合タクシー	2.1%	-	-	-	-	-	0.5%	3.2%	13.2%
民間タクシー	0.1%	-	-	-	-	-	-	-	0.9%
無回答	1.8%	5.1%	-	0.7%	-	-	0.5%	2.6%	6.6%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

各地域とも日常的な買い物場所への交通手段は「自家用車」が中心。
山間地域（犬上川流域）で「予約型乗合タクシー」の利用も。

- ・日常的な買い物場所への交通手段は、各地域とも「自家用車」が中心となっています。
- ・山間地域（犬上川流域）では「予約型乗合タクシー」の比率が、全町に比べやや高くなっています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
徒歩	0.3%	0.1%	3.6%	0.5%	-
自転車	4.1%	4.7%	3.6%	1.6%	6.7%
バイク・原付	0.7%	0.6%	-	1.1%	-
自家用車	88.7%	89.6%	89.3%	86.9%	84.4%
路線バス	1.2%	1.4%	-	-	4.4%
鉄道	0.9%	1.3%	-	-	-
予約型乗合タクシー	2.1%	0.8%	3.6%	7.1%	2.2%
民間タクシー	0.1%	0.1%	-	-	-
無回答	1.8%	1.4%	-	2.7%	2.2%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

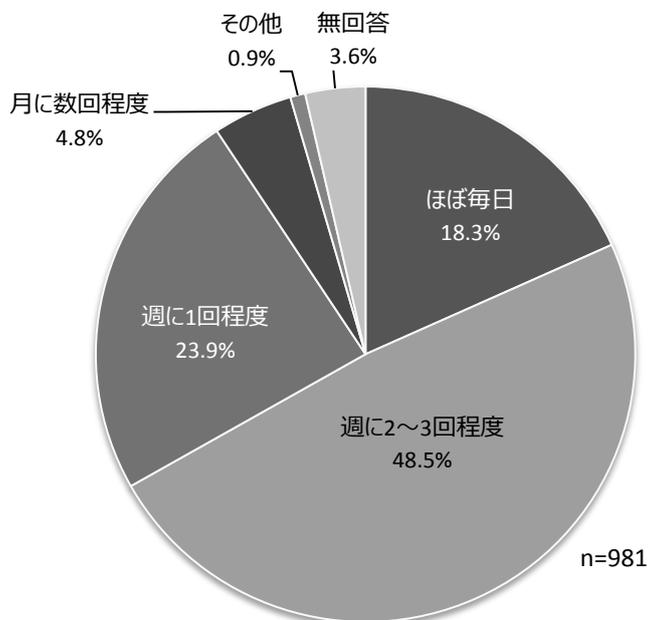
【ウ 利用頻度】

日常的な買い物場所の利用は、週 2～3 回を中心に、比較的高い頻度で行われている。

- ・日常的な買い物場所の利用頻度は、「週に 2～3 回程度」が 48.5%を占めるほか、「週に 1 回程度」（23.9%）、「ほぼ毎日」（18.3%）など、比較的高い頻度で買い物に出かけていることを示しています。

調査数	981	100.0%
ほぼ毎日	180	18.3%
週に2～3回程度	476	48.5%
週に1回程度	234	23.9%
月に数回程度	47	4.8%
その他	9	0.9%
無回答	35	3.6%

単数回答



【年齢別集計】

20 歳代以上では、日常的な買い物は「週に 2～3 回程度」がおよそ半数。若い年代では買い物回数が多く、年齢の高い層では少なくなる傾向。

- ・日常的な買い物では、20 歳代以上の各層で「週に 2～3 回程度」が半数を超えています。10 歳代では「ほぼ毎日」の比率も高くなっています。
- ・80 歳以上では、前問で宅配・ネットスーパー・通販の利用度が高まることもあり、買い物回数が少なくなる傾向があります。

	合計 (n=981)	10 歳代 (n=59)	20 歳代 (n=77)	30 歳代 (n=147)	40 歳代 (n=115)	50 歳代 (n=79)	60 歳代 (n=194)	70 歳代 (n=189)	80 歳以上 (n=106)
ほぼ毎日	18.3%	30.5%	26.0%	20.4%	23.5%	24.1%	18.0%	10.6%	4.7%
週に 2～3 回程度	48.5%	35.6%	50.6%	55.1%	52.2%	49.4%	51.0%	48.1%	40.6%
週に 1 回程度	23.9%	23.7%	19.5%	23.1%	19.1%	24.1%	22.7%	24.9%	32.1%
月に数回程度	4.8%	3.4%	1.3%	-	2.6%	-	5.2%	9.0%	13.2%
その他	0.9%	3.4%	-	-	-	-	-	1.6%	3.8%
無回答	3.6%	3.4%	2.6%	1.4%	2.6%	2.5%	3.1%	5.8%	5.7%

※網かけは、合計（全町）よりも 5 ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

山間地域（犬上川流域）では、全町に比べ買い物回数が少ないという回答比率がやや高い。他3地区は全町に近い傾向を示す。

- ・ 日常的な買い物では、全ての地域で「週に2～3回程度」が最も多く選択されています。特に平坦地域および富之尾・檜崎地域では、この比率が半数を超えています。
- ・ 一方、山間地域（芹川流域）では「週に1回程度」の比率が32.1%、「その他」の比率も7.1%と全町に比べ高く、やや異なる傾向を示しています。

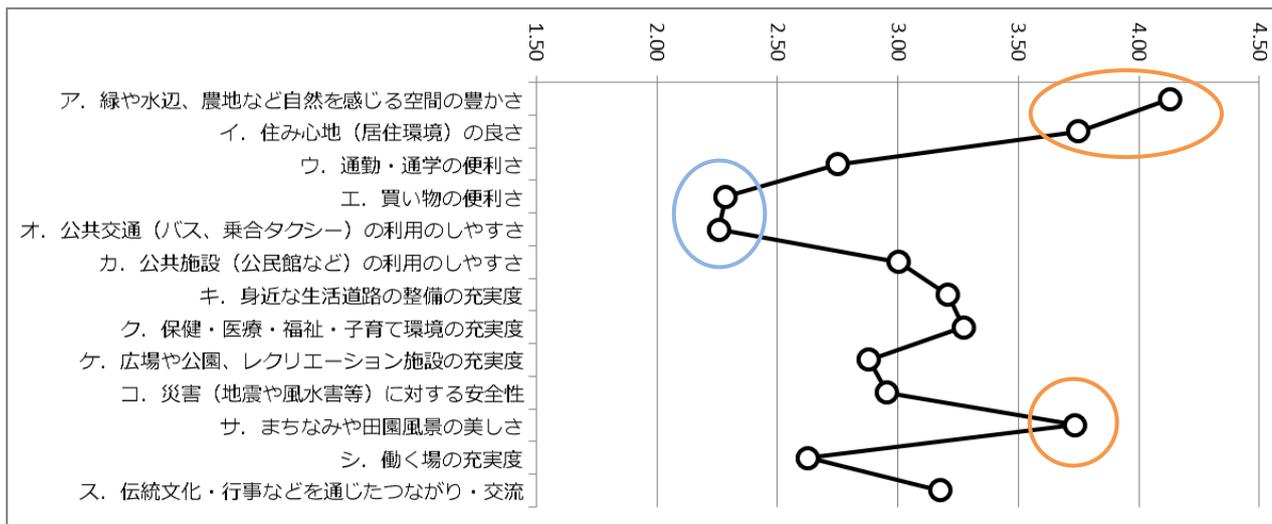
	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
ほぼ毎日	18.3%	18.9%	14.3%	15.8%	20.0%
週に2～3回程度	48.5%	50.2%	39.3%	44.3%	51.1%
週に1回程度	23.9%	23.6%	32.1%	25.7%	17.8%
月に数回程度	4.8%	3.4%	7.1%	7.7%	8.9%
その他	0.9%	0.6%	7.1%	1.6%	-
無回答	3.6%	3.4%	-	4.9%	2.2%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

問 17 あなたのお住まいの地域の暮らしの満足度をお答えください。(それぞれ1つ○)
※多賀町全体ではなく、普段生活されているエリア(町内)の評価です。ご注意ください。

身近な暮らしでは、「自然」「住み心地」「まちなみや田園の美しさ」に高い評価。

- 生活エリアにおける暮らしの満足度を5段階評価で求め、評価を点数化して比較したところ、最も高い評価を得たのは「自然を感じる空間の豊かさ」(4.13)で、「住み心地のよさ」(3.75)、「まちなみや田園の美しさ」(3.74)も比較的高く評価されています。一方、「公共交通の利用しやすさ」(2.26)、「買い物の便利さ」(2.29)の評価は厳しくなっています。



単数回答

【年齢別集計】

各年代と全体で大きな差異はなく、全体と概ね同様の傾向を示している。

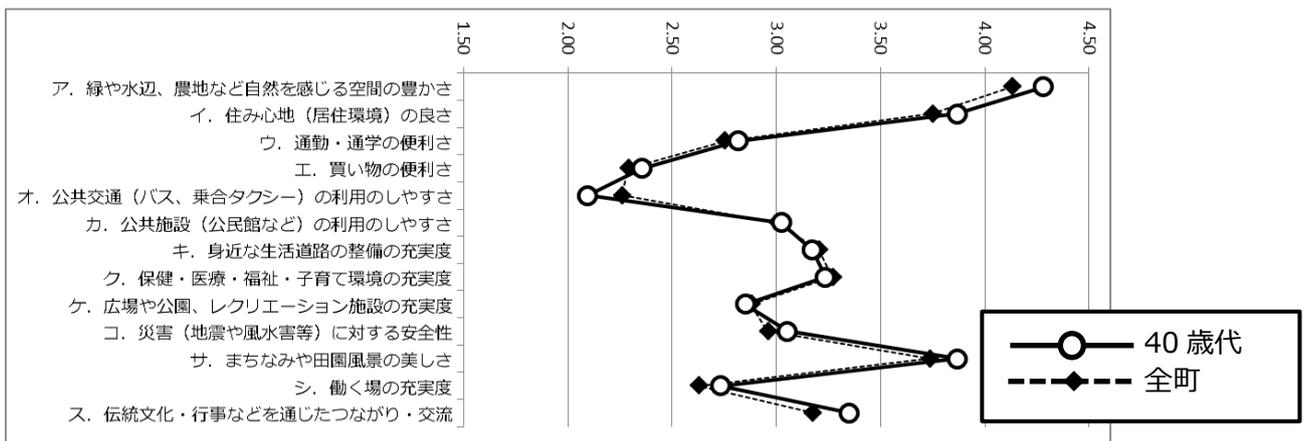
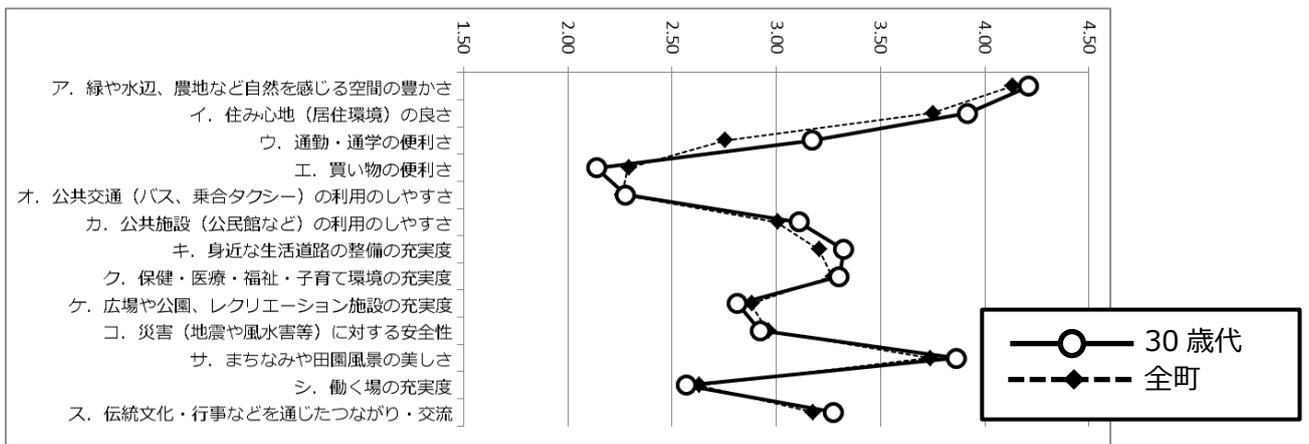
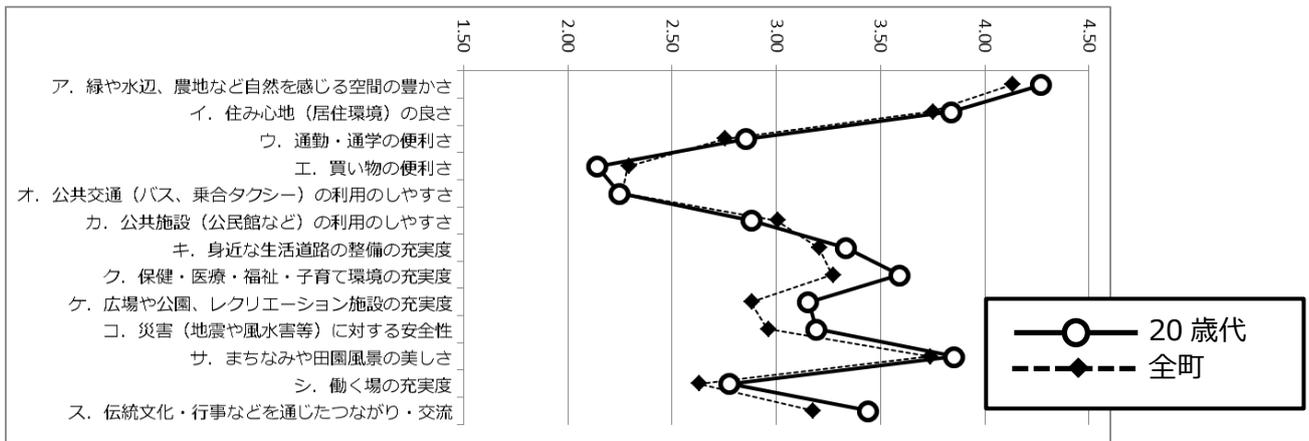
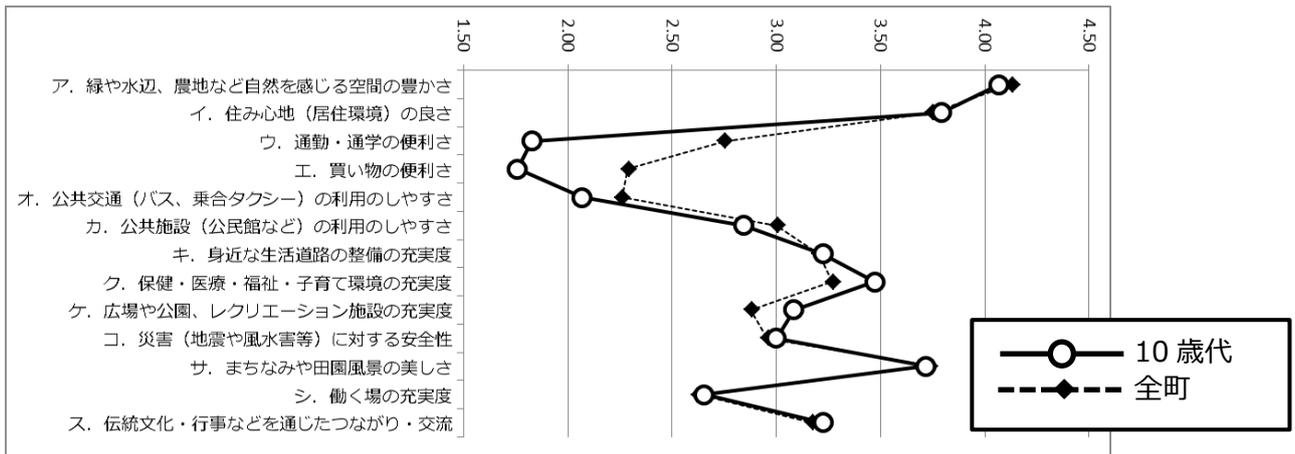
- 年代別による極端な差異はみられず、全体と同様の傾向を示しています。
- こうした中でも、10歳代では「通勤・通学の便利さ」及び「買い物の便利さ」という利便性への不満がやや大きくなっています。
- 20歳代では、「広場や公園、レクリエーション施設の充実度」及び「災害に対する安全度」で、全体に比べやや高い評価を受けています。
- また、50歳代では、「身近な生活道路の整備の充実度」及び「保健・医療・福祉・子育て環境の充実度」に対する評価がやや厳しくなっています。

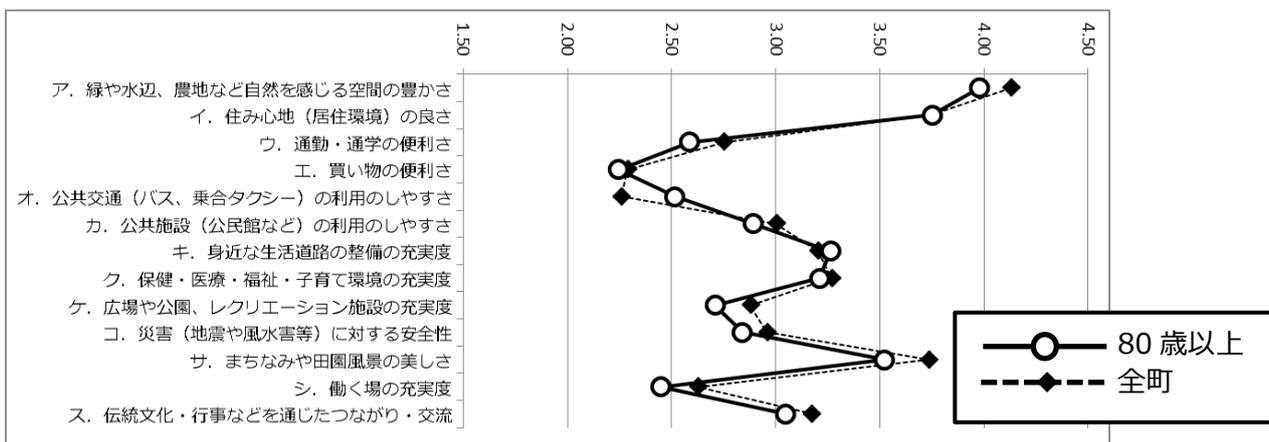
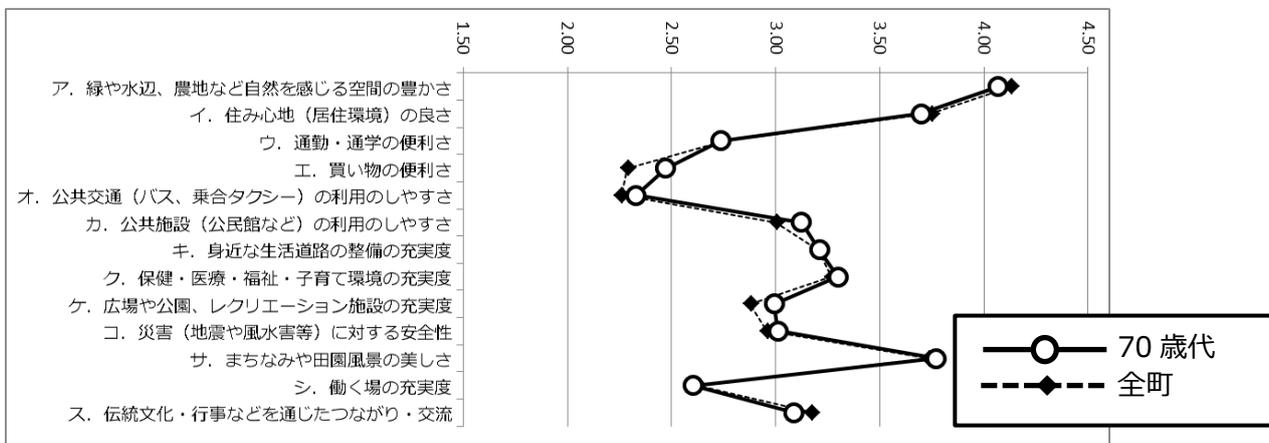
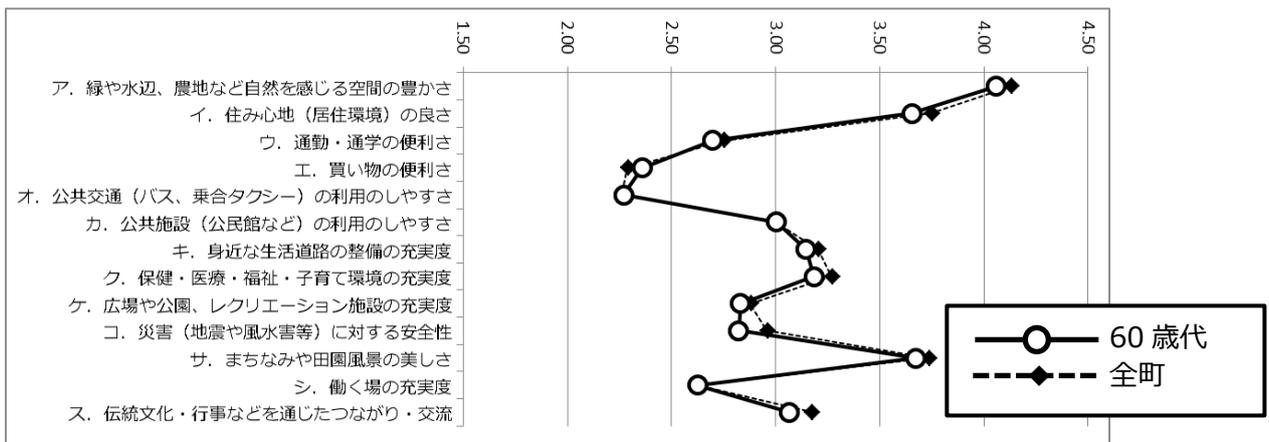
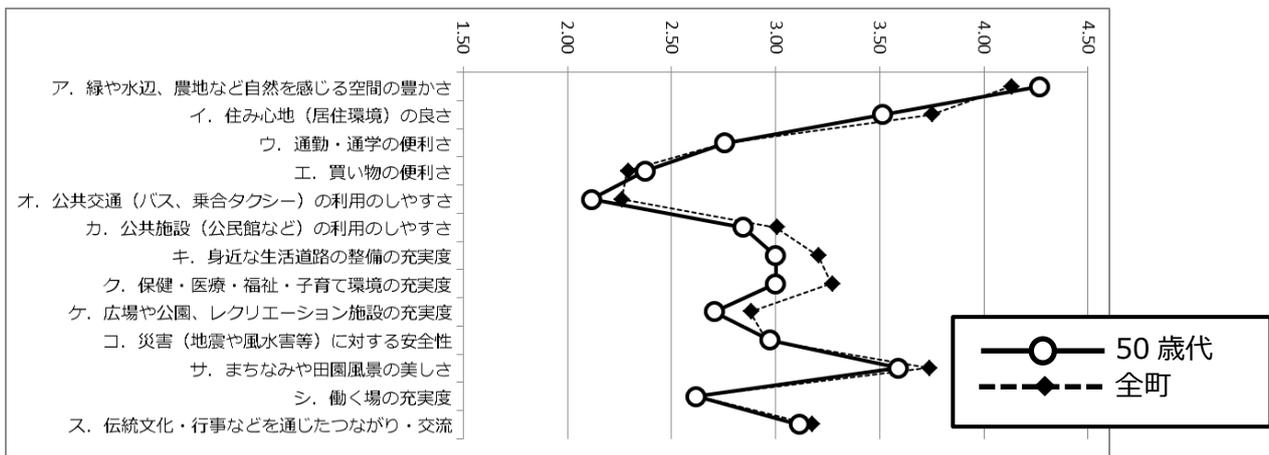
【地域別集計】

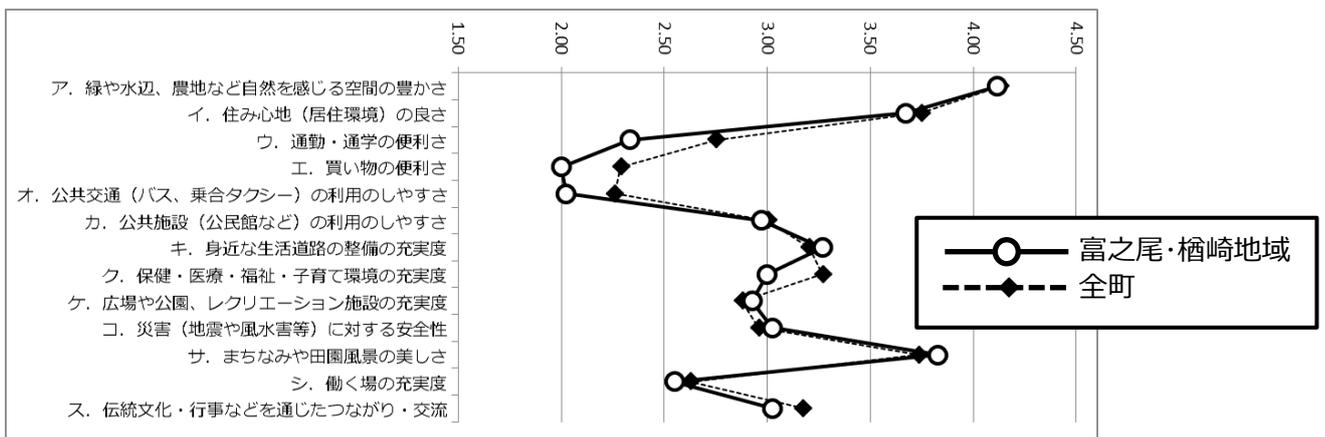
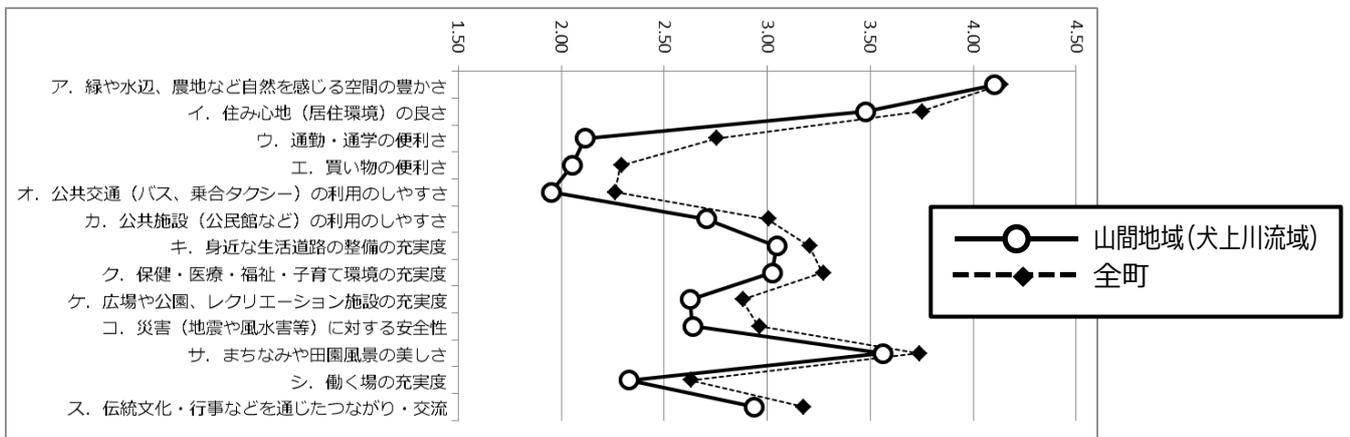
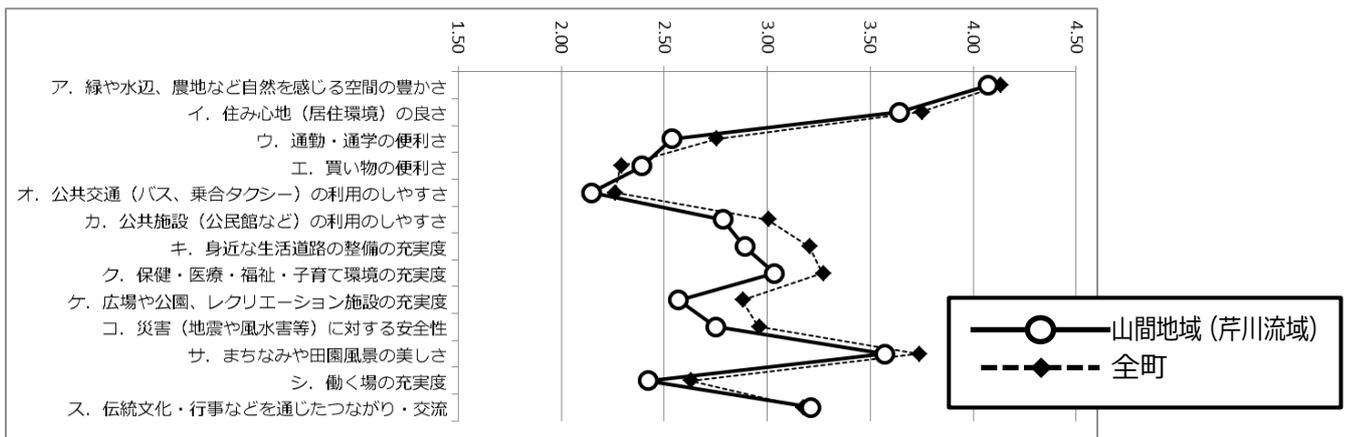
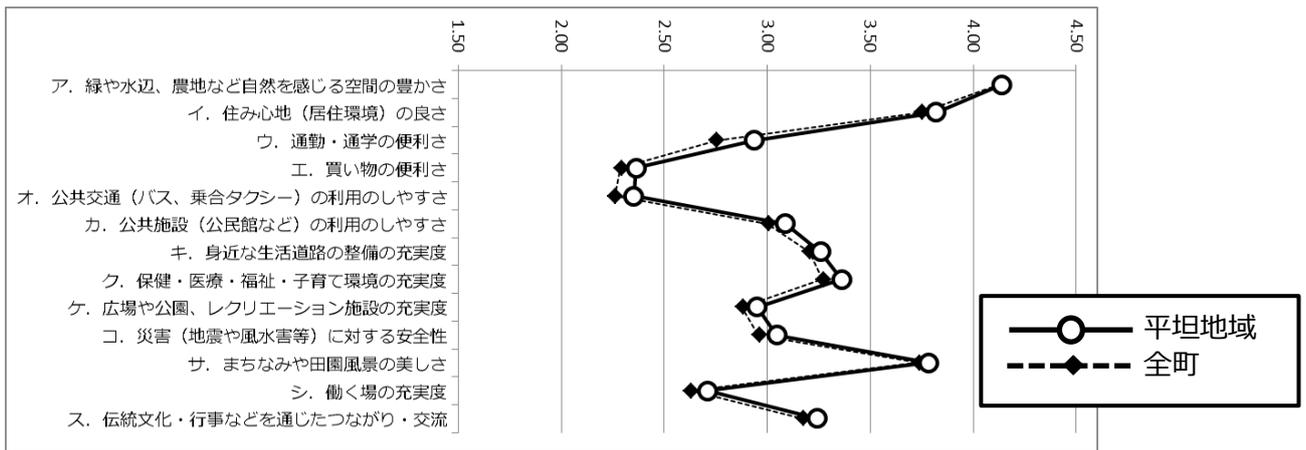
平坦地域では全町と同様、山間地域では全町に比べて低い満足度。

「通勤・通学の便利さ」は山間地域(犬上川流域)、富之尾・檜崎地域で厳しい評価。

- 地域別にみたところ、平坦地域では全町よりも全項目でわずかに満足度が高くなる一方、山間地域では犬上川流域が全項目、芹川流域が1項目を除いて全町より厳しい評価となっています。
- 「通勤・通学の便利さ」では、山間地域(犬上川流域)および富之尾・檜崎地域で、全町に比べて満足度が低くなっています。







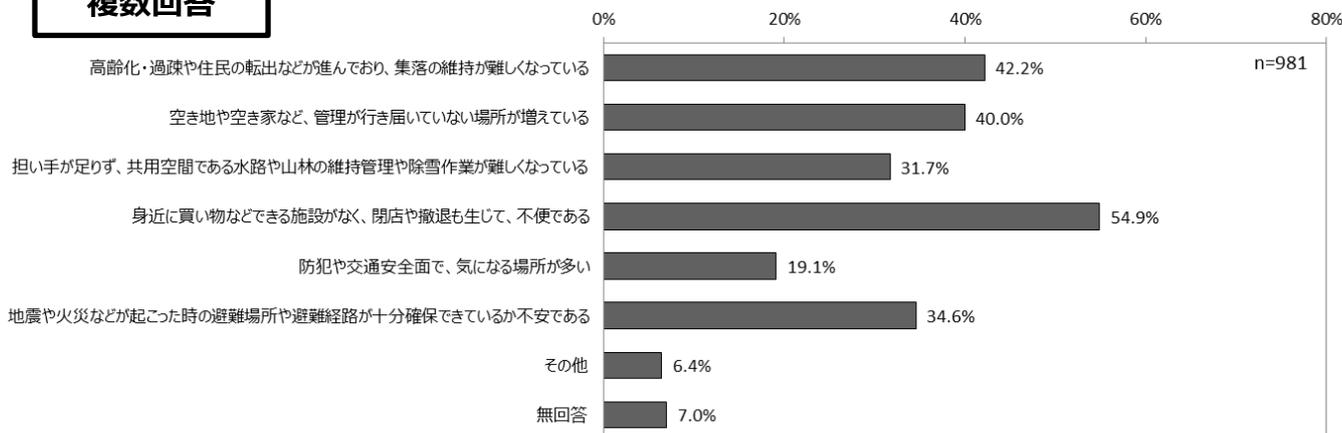
問 18 あなたのお住まいの地域の暮らしで困っていることはありますか。（あてはまる番号全てに○）

暮らしの困りごとは「買い物などに不便」をはじめ、多様な分野に広がる。

- ・生活エリアにおける暮らしの困りごとを全て尋ねたところ、「身近に買い物などできる施設がなく、閉店や撤退も生じて、不便である」が 54.9%と半数以上の回答者が選択しています。
- ・以下、「高齢化・過疎や住民の転出などが進んでおり、集落の維持が難しくなっている」(42.2%)、「空き地や空き家など、管理が行き届いていない場所が増えている」(40.0%)、「地震や火災などが起こった時の避難場所や避難経路が十分確保できているか不安である」(34.6%)、「担い手が足りず、共用空間である水路や山林の維持管理や除雪作業が難しくなっている」(31.7%) についても、回答者の 3 割以上が選択し、課題が多岐にわたっていることを示しています。

調査数	981	100.0%
高齢化・過疎や住民の転出などが進んでおり、集落の維持が難しくなっている	414	42.2%
空き地や空き家など、管理が行き届いていない場所が増えている	392	40.0%
担い手が足りず、共用空間である水路や山林の維持管理や除雪作業が難しくなっている	311	31.7%
身近に買い物などできる施設がなく、閉店や撤退も生じて、不便である	539	54.9%
防犯や交通安全面で、気になる場所が多い	187	19.1%
地震や火災などが起こった時の避難場所や避難経路が十分確保できているか不安である	339	34.6%
その他	63	6.4%
無回答	69	7.0%

複数回答



その他、特に必要と考えるまちの機能（140 件の記載）

- 商業・商店（食品スーパー、移動販売）（39 件）
- （公共）交通機関・交通基盤（バス、鉄道、タクシー、自転車等）（15 件）
- 医療機能・機関（10 件）
- 公園、子どもの遊べる場所（10 件）
- 保育・子育て支援拠点、ファミリーサポート拠点（8 件）
- 観光イベント、観光スポット、観光客の移動手段（8 件）
- 道路、ガソリンスタンド、道路沿道の安全性向上（7 件）
- 定住の仕組み、高齢者向け住宅（7 件）
- 特産品開発、直売所、道の駅（7 件） 等

【年齢別集計】

「身近な買い物場所」「高齢化・人口減による集落維持」には各年代とも不安を示す。
年齢の高い層は人材不足による地域の維持に、30歳代では安全・安心に対する不安が大きい。

- ・地域における暮らしの困りごとを年齢別にみたところ、「身近な買い物場所がなく、不便」及び「高齢化・過疎・転出で集落の維持が困難に」は回答者の全てで比率が上位（3位以内）となっています。
- ・特に50歳以上の年齢が高い層ほど、「高齢化・過疎・転出で…」とともに、「空き地や空き家など管理不行き届きの場所が増加」や「担い手不足で山林の維持管理や除雪が困難に」など、担い手人材等の不足による地域環境の維持管理不全に対する不安が強くなっています。
- ・30歳代では、子どものいる家庭も多いためか、「防犯や交通安全面で気になる場所が多い」や「避難場所や避難経路が十分確保できているか不安」など、安全・安心に対する危惧を示す回答の比率が全体に比べやや高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
高齢化・過疎・転出で 集落の維持が困難に	42.2%	28.8%	40.3%	31.3%	44.3%	51.9%	46.4%	42.9%	47.2%
空き地や空き家など 管理不行き届きの場 所が増加	40.0%	27.1%	20.8%	27.9%	36.5%	35.4%	49.5%	47.1%	54.7%
担い手不足で山林の 維持管理や除雪が困 難に	31.7%	18.6%	23.4%	17.7%	28.7%	31.6%	40.2%	39.7%	37.7%
身近な買い物場所が なく、不便	54.9%	61.0%	59.7%	57.1%	47.0%	45.6%	53.6%	55.6%	65.1%
防犯や交通安全面で 気になる場所が多い	19.1%	22.0%	18.2%	25.2%	22.6%	16.5%	15.5%	16.4%	19.8%
避難場所や避難経路 が十分確保できてい るか不安	34.6%	30.5%	26.0%	40.1%	31.3%	30.4%	38.1%	34.4%	34.9%
その他	6.4%	6.8%	5.2%	10.2%	6.1%	8.9%	6.7%	4.2%	2.8%
無回答	7.0%	13.6%	1.3%	4.8%	8.7%	5.1%	5.2%	11.1%	5.7%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

平坦地域以外の3地域において、「高齢化・人口減による集落維持」が最大の不安に。全ての地域で「身近な買い物場所がなく、不便」を指摘する回答が半数を超える。

- ・地域における暮らしの困りごとを地域別にみたところ、「身近な買い物場所がなく、不便」が全地域で半数を超え、いずれの地域でも上位（3位以内）となっています。
- ・特に山間地域で困りごとを指摘する回答が多く、芹川流域では「高齢化・過疎・転出で集落の維持が困難に」が85.7%と最大の比率となり、以下、「担い手不足で山林の維持管理や除雪が困難に」（60.7%）、「避難所や避難経路が十分確保できているか不安」（50.0%）も半数以上の回答者が不安を示しています。
- ・犬上川流域でも買い物場所のほか、「高齢化・過疎・転出で集落の維持が困難に」が65.0%、「空き地や空き家など管理不行き届きの場所が増加」が59.0%と多くの回答者に選択されています。
- ・富之尾・檜崎地域でも「高齢化・過疎・転出で集落の維持が困難に」を買い物場所と並ぶ57.8%の回答者が選択しており、平坦地域以外で共通の大きな課題と認識されています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
高齢化・過疎・転出で集落の維持が困難に	42.2%	33.4%	85.7%	65.0%	57.8%
空き地や空き家など管理不行き届きの場所が増加	40.0%	35.1%	46.4%	59.0%	33.3%
担い手不足で山林の維持管理や除雪が困難に	31.7%	26.8%	60.7%	43.7%	44.4%
身近な買い物場所がなく、不便	54.9%	54.2%	57.1%	56.8%	57.8%
防犯や交通安全面で気になる場所が多い	19.1%	18.9%	25.0%	17.5%	20.0%
避難場所や避難経路が十分確保できているか不安	34.6%	34.1%	50.0%	31.7%	35.6%
その他	6.4%	6.6%	7.1%	6.6%	2.2%
無回答	7.0%	7.5%	-	5.5%	8.9%

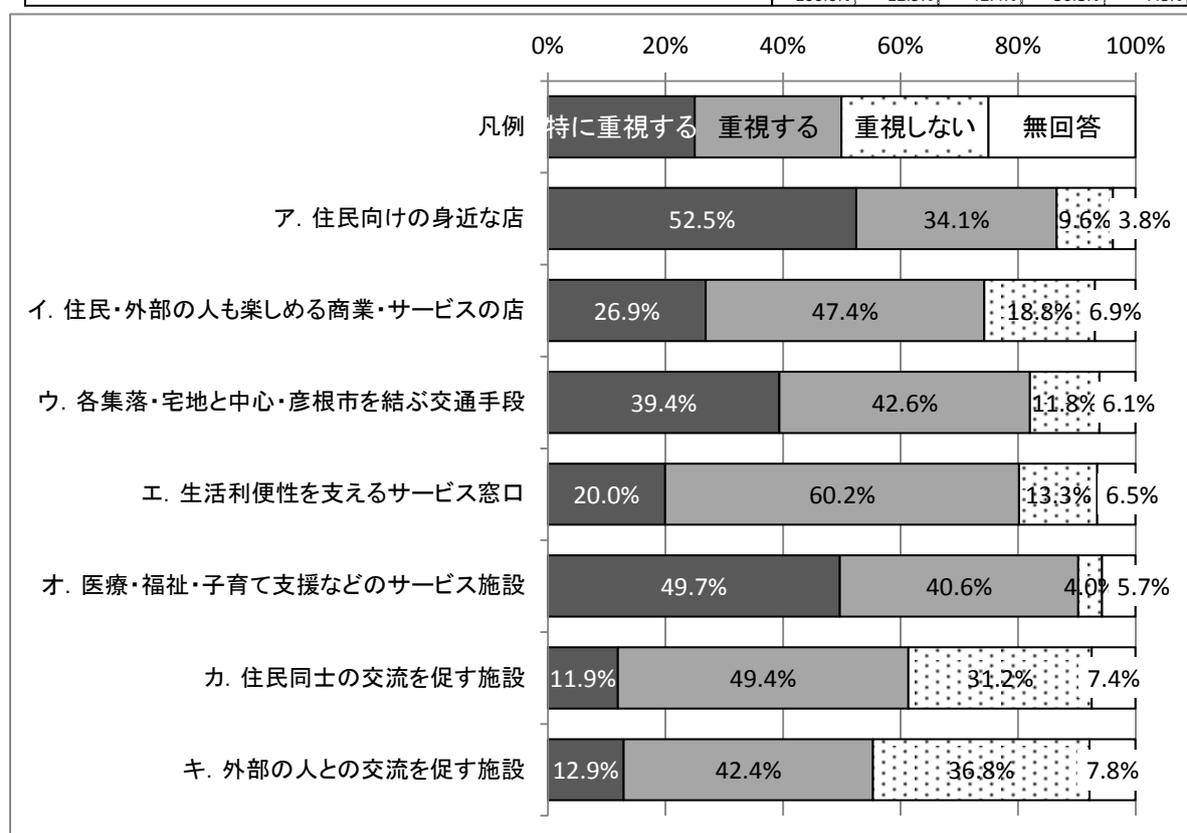
※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

問 19 多賀町のこれからのまちづくりに向けて、特にどのようなまちの機能を重視すべきか、それぞれにお答えください。(ア～キのそれぞれ1つ○)

多様な機能に関心。特に「医療・福祉・子育て」「身近な店」「交通手段」「サービス窓口」を重視。

- ・生活エリアにおいて、重視する機能を尋ねたところ、提示した全ての機能について、半数以上の回答者が「特に重視する」「重視する」と回答しています。
- ・特に「医療・福祉・子育て支援などのサービス施設」では「特に重視する」「重視する」の合計が90%以上、「住民向けの身近な店」「各集落・宅地と中心・彦根市を結ぶ交通手段」「生活利便性を支えるサービス窓口」も、それぞれ80%以上となっています。

	調査数	特に重視する	重視する	重視しない	無回答
単数回答					
ア. 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店	981 100.0%	515 52.5%	335 34.1%	94 9.6%	37 3.8%
イ. 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店	981 100.0%	264 26.9%	465 47.4%	184 18.8%	68 6.9%
ウ. 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段	981 100.0%	387 39.4%	418 42.6%	116 11.8%	60 6.1%
エ. 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口	981 100.0%	196 20.0%	591 60.2%	130 13.3%	64 6.5%
オ. 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設	981 100.0%	488 49.7%	398 40.6%	39 4.0%	56 5.7%
カ. コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設	981 100.0%	117 11.9%	485 49.4%	306 31.2%	73 7.4%
キ. 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設	981 100.0%	127 12.9%	416 42.4%	361 36.8%	77 7.8%



【年齢別集計】

賑わいを創出する機能については、若い世代ほど重視する傾向が強い。
 日常利便やコミュニティ機能については、年齢が高いほど重視する傾向。

・まちづくりで必要なまちの機能（施設等）を年齢別にみたところ、次のような傾向がみられます。

ア. 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店

オ. 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設

・民間等を含むサービス機能については、年齢の高低による極端な傾向はみられませんが、「身近な店」における30歳代、「医療・福祉・子育て」における20・30歳代など、特定の年齢層で全体に比べ比率が大きくなるケースがみられます。

イ. 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店

キ. 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設

・主に賑わいを担う機能については、若い世代ほど重視する回答が強くなり、年齢が高い層ほど重視しない比率がやや高くなる傾向があります。

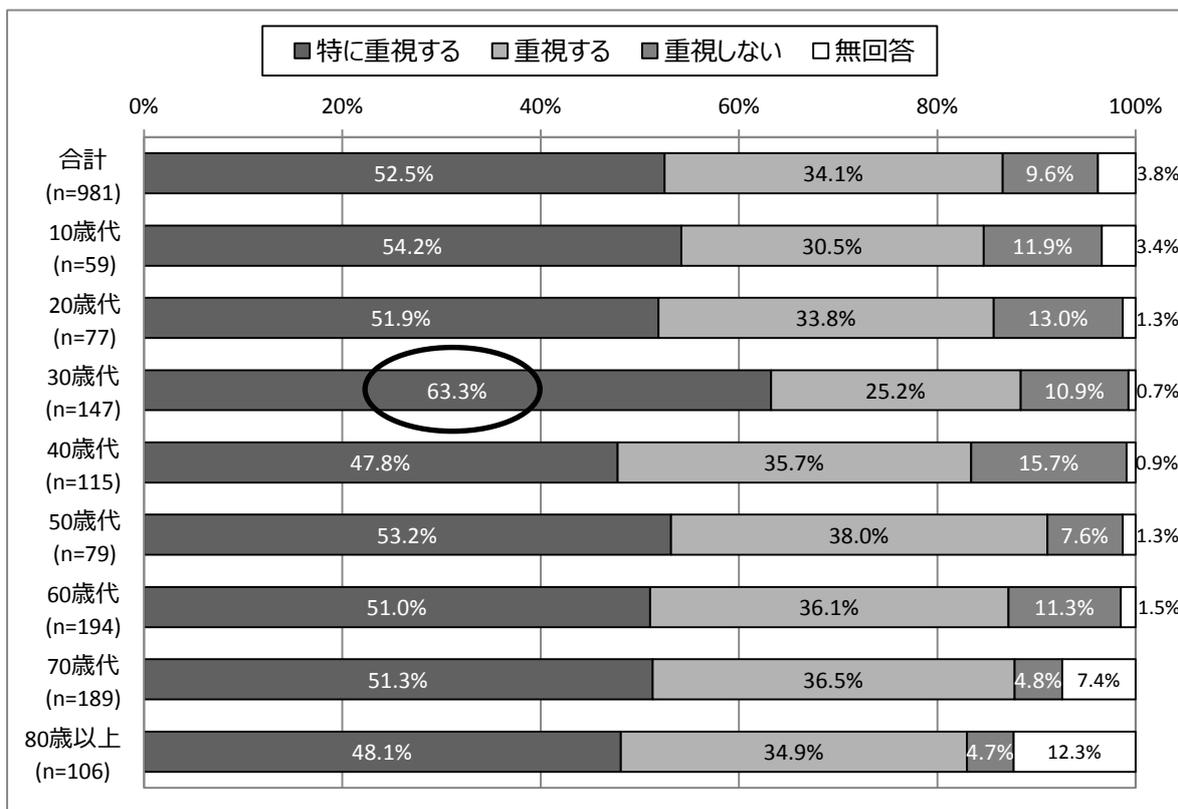
ウ. 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段

エ. 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口

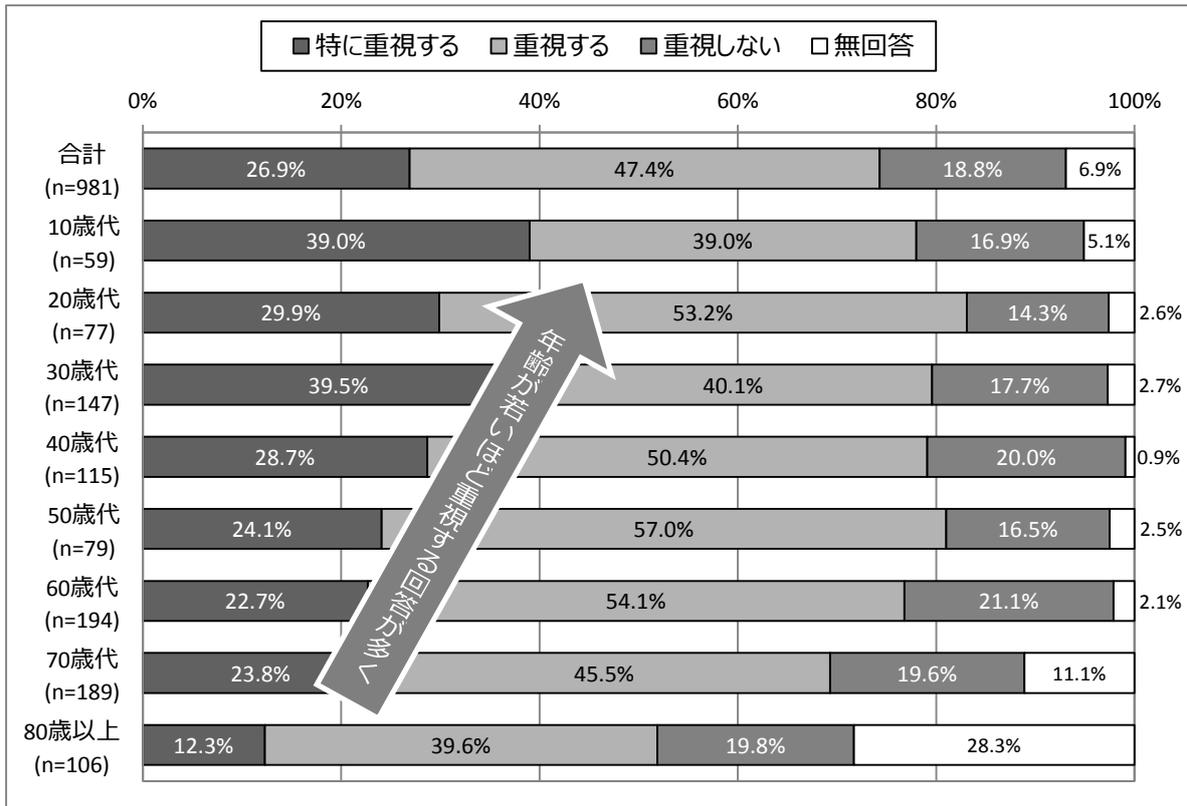
カ. コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設

・移動利便やコミュニティに関する機能については、若い世代ほど重視しないを選択する比率が高く、年齢が高い層ほど、重視するとの回答がやや多くなる傾向を示しています。

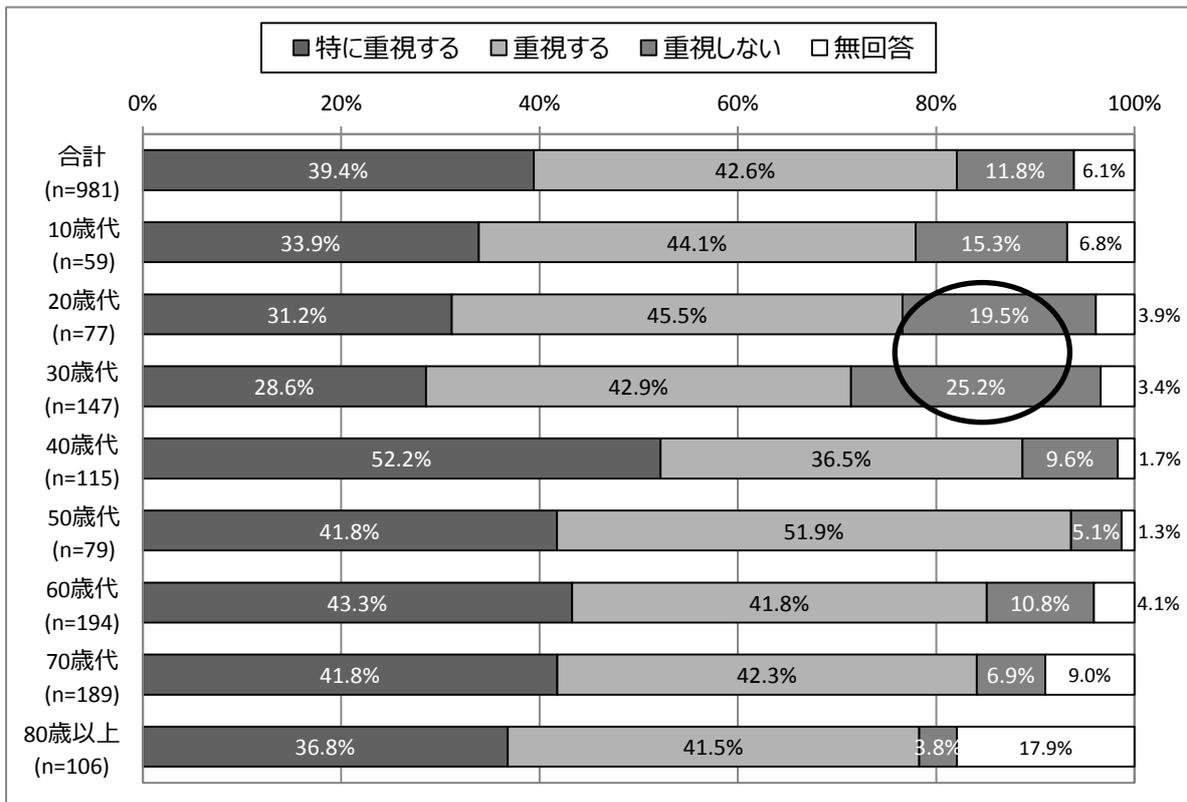
ア. 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店



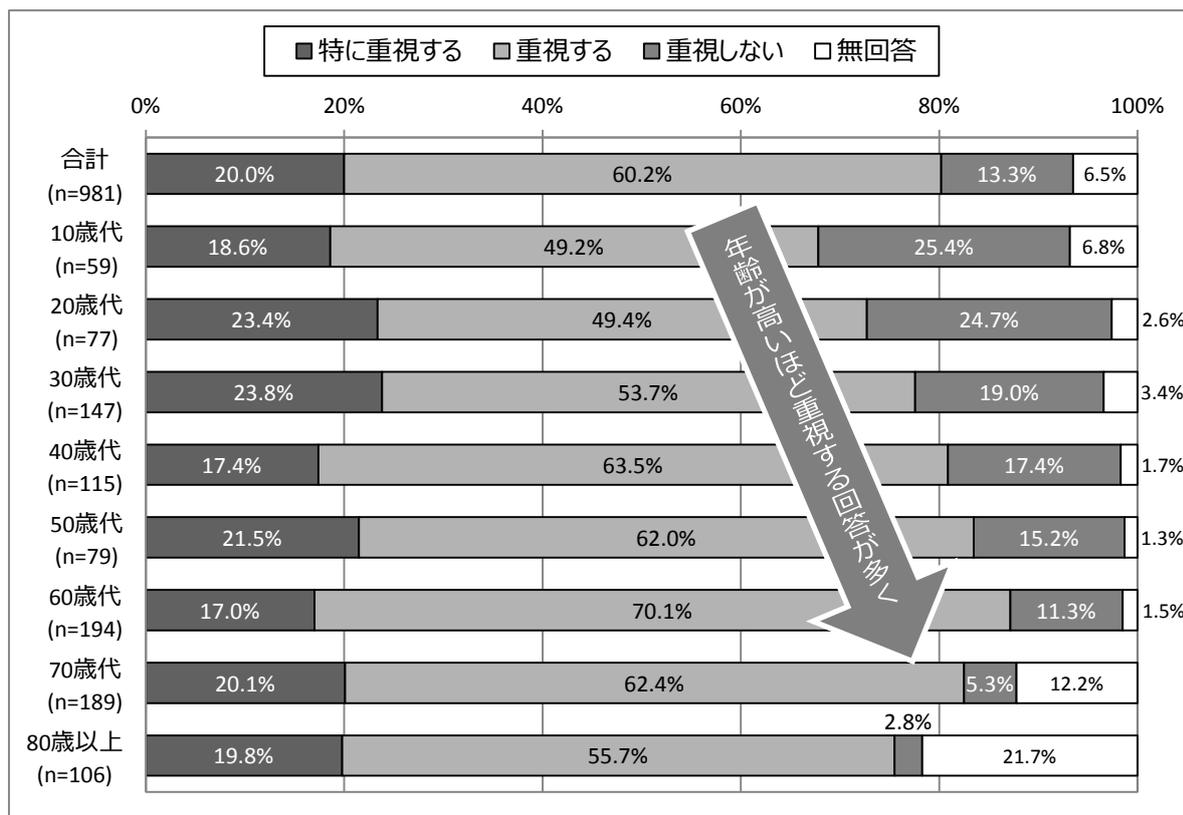
イ. 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店



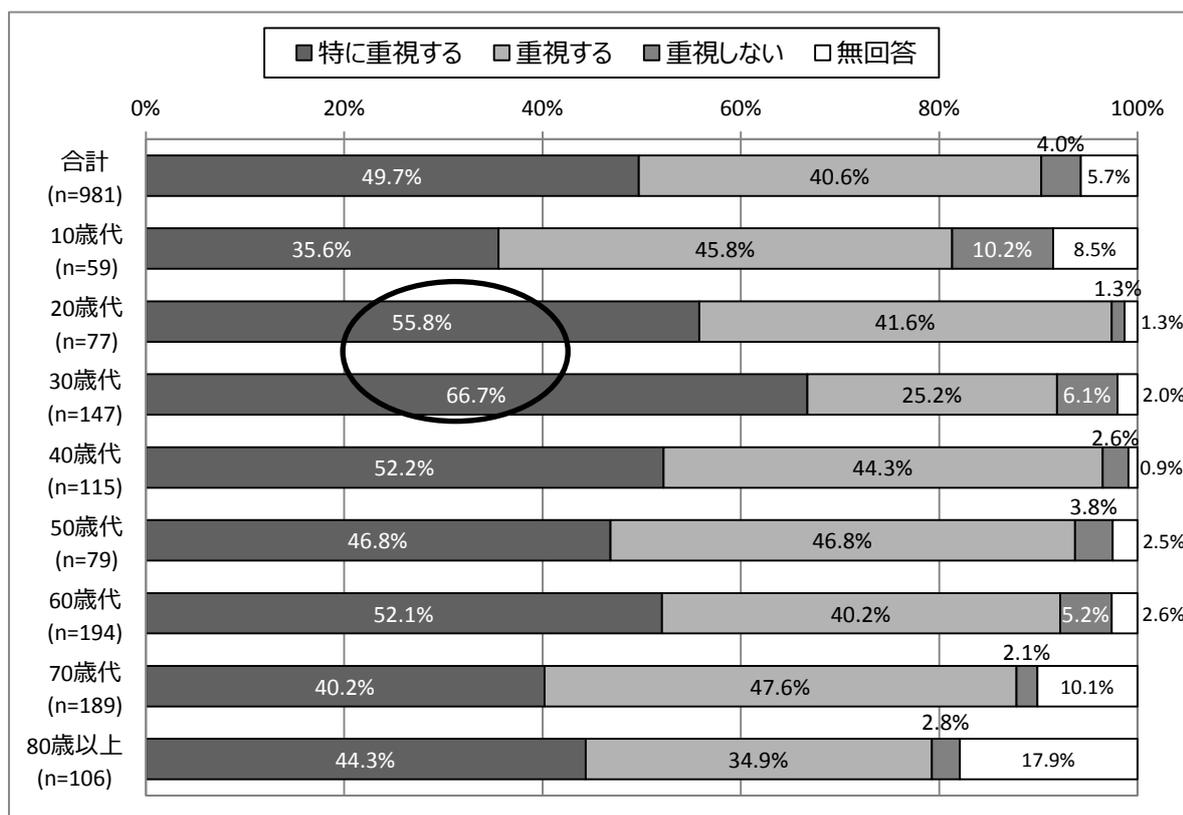
ウ. 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段



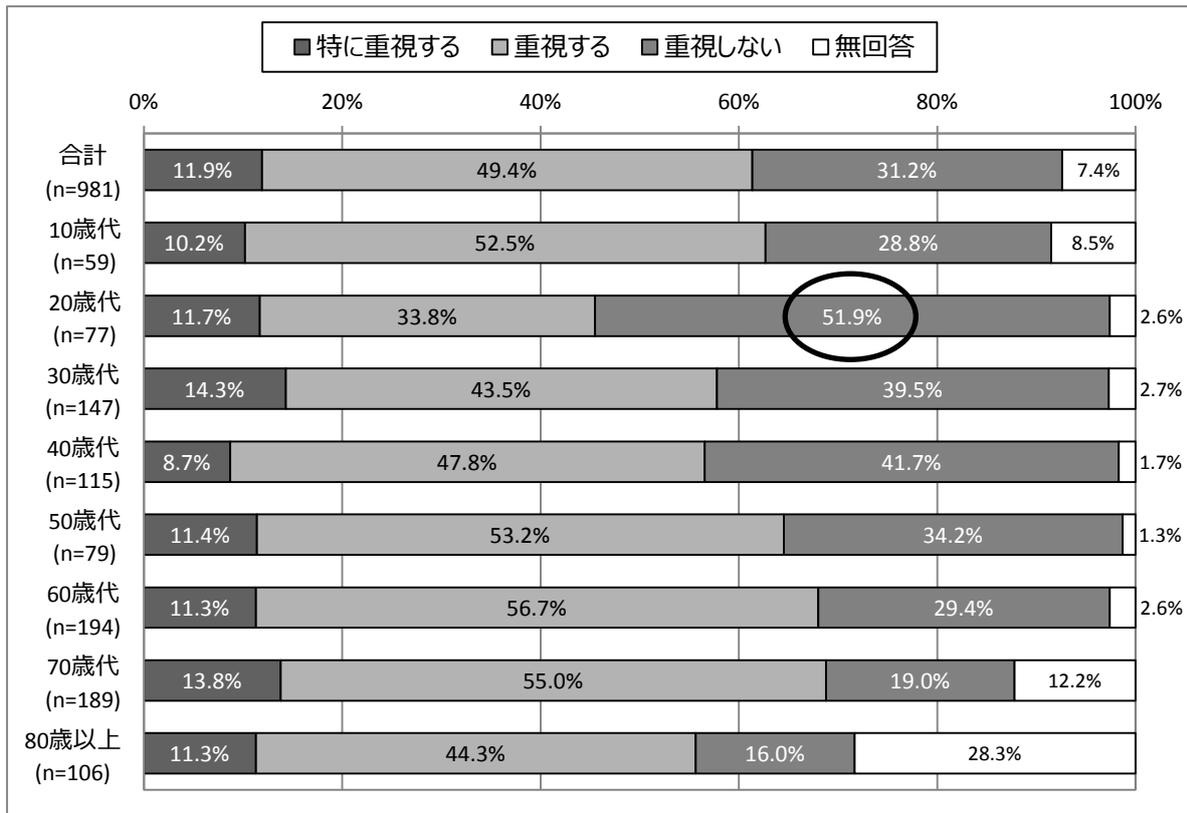
工. 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口



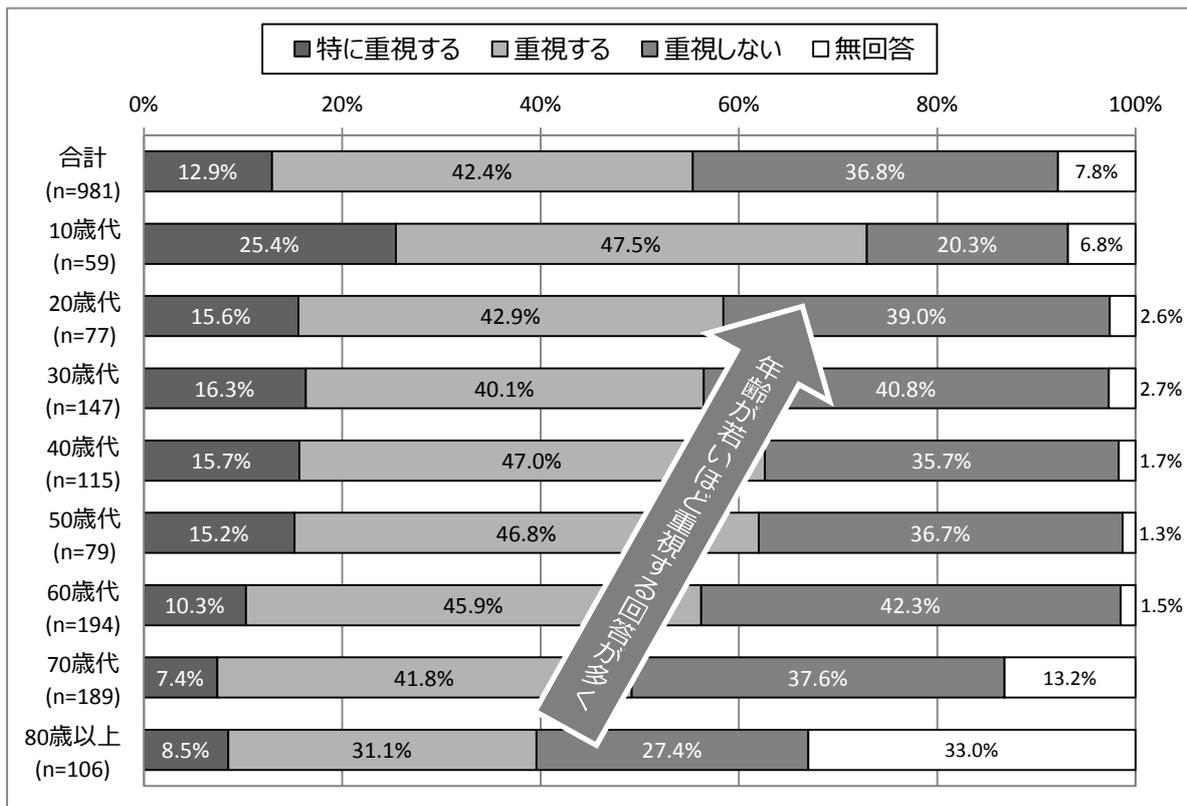
オ. 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設



カ. コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設



キ. 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設



【地域別集計】

身近な生活機能や移動手段については、各地域とも重視する意識が強い。
外部との交流など賑わいをにう機能は、地域によってやや意識に差異。

・まちづくりで必要なまちの機能（施設等）を地域別にみたところ、次のような傾向がみられます。

ア. 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店

オ. 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設

・民間等を含むサービス機能については、「身近な店」「医療・福祉・子育て」のいずれについても、「特に重視する」「重視する」を合わせると、各地域とも80%を超える回答者が重視すべきとの意向を示しており、他項目に比べ重視する意識が高くなっています。

イ. 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店

キ. 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設

・主に賑わいを担う機能については、いずれも一定の割合で重視する意向があるものの、「特に重視する」との回答は「直売所など商業・サービス施設」で20~30%程度、「観光案内所など外部との交流施設」では10%程度に止まり、やや重視する意向が弱くなっています。

・富之尾・檜崎地域における「直売所など商業・サービス施設」は「特に重視する」が37.8%、「重視する」を合わせて84.5%と、他地域に比べ重視する意識が強くなっています。

・山間地域（犬上川流域）では、「観光案内所など外部との交流施設」において「重視しない」の比率が47.5%と他地域に比べ高い比率を示しています。

ウ. 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段

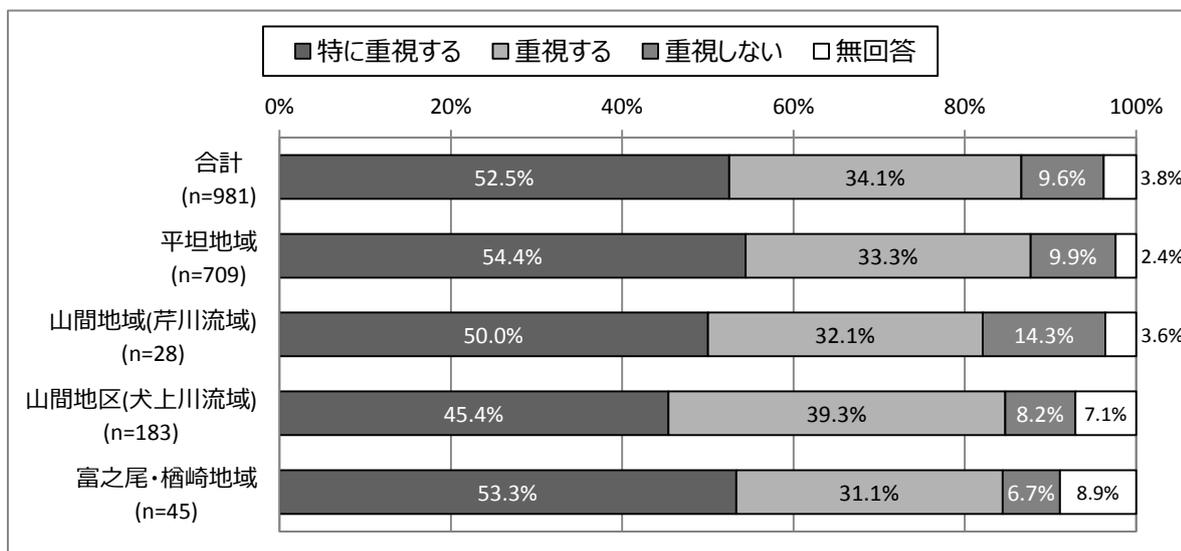
エ. 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口

カ. コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設

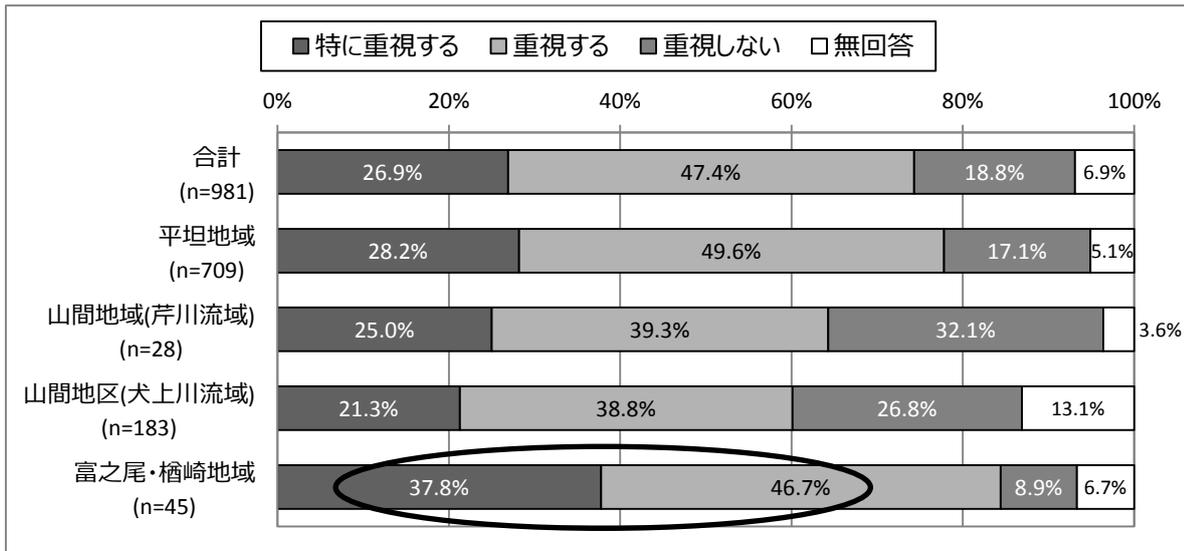
・移動利便やコミュニティに関する機能のうち、「交通手段」については、平坦地域以外の3地域で「特に重視する」の比率が高くなっています。

・「住民交流施設」については、他項目に比べ「重視しない」の比率がやや高くなっています。

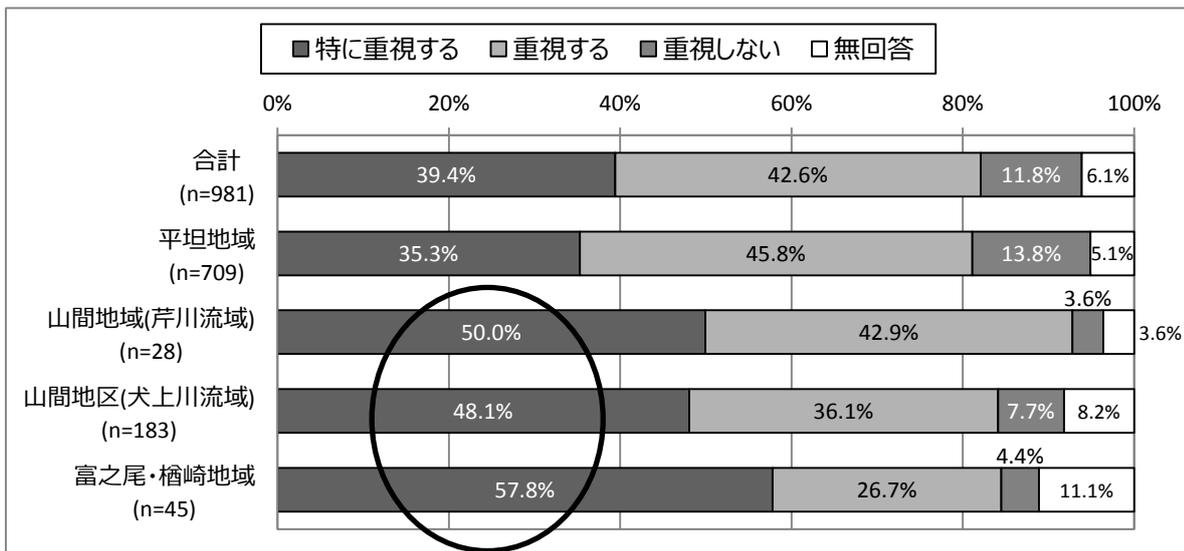
ア. 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店



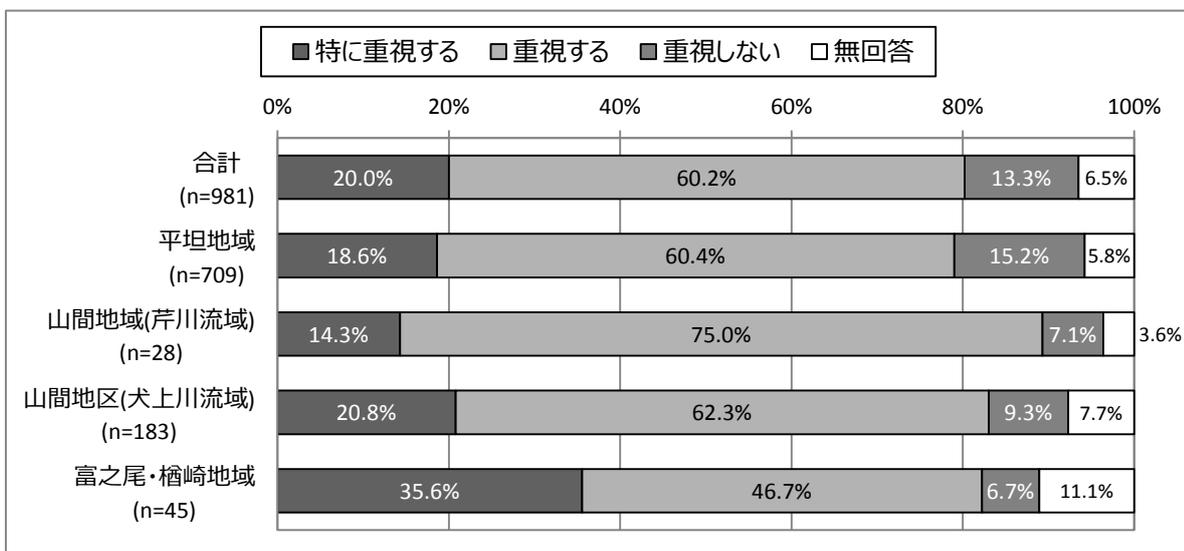
イ. 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店



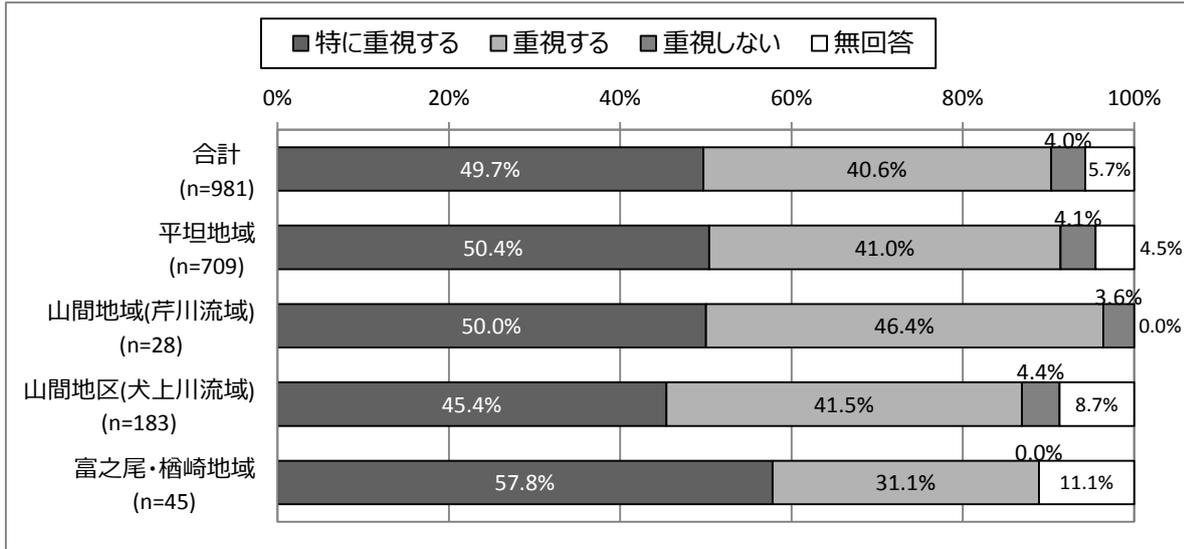
ウ. 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段



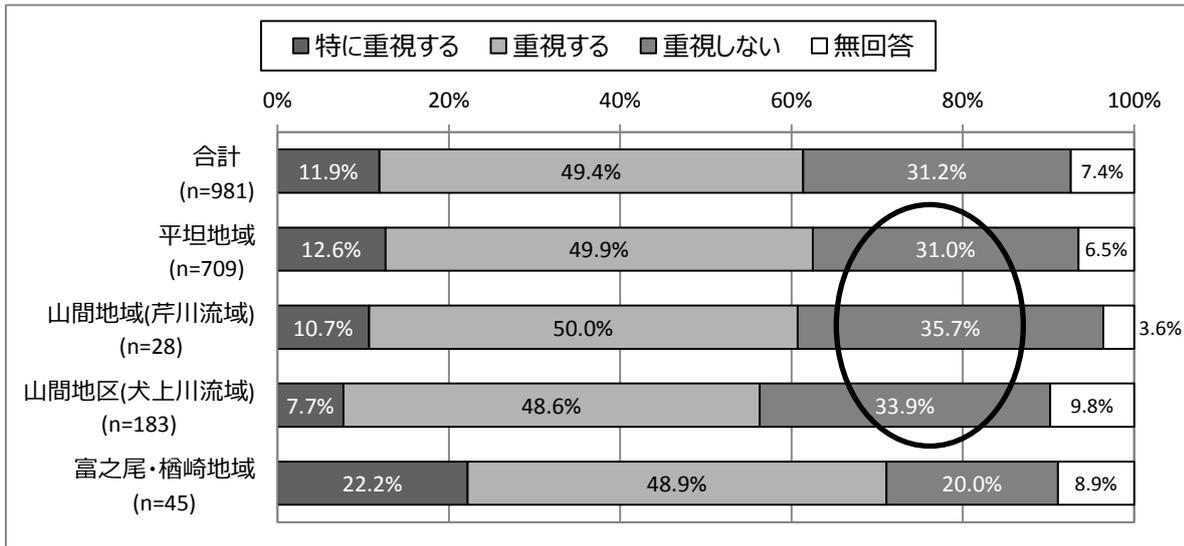
エ. 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口



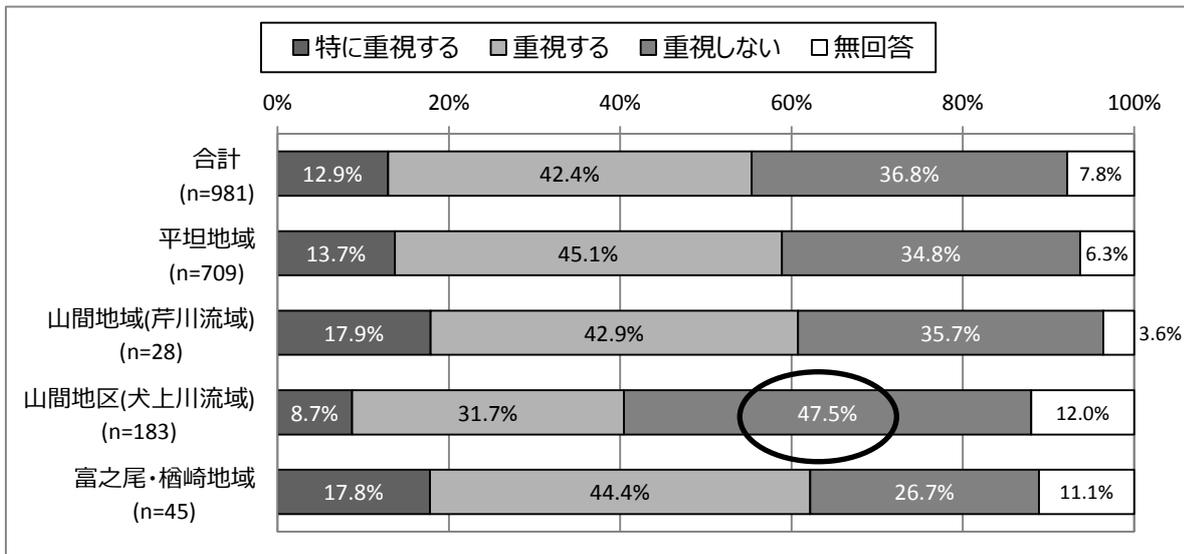
オ. 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設



カ. コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設



キ. 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設



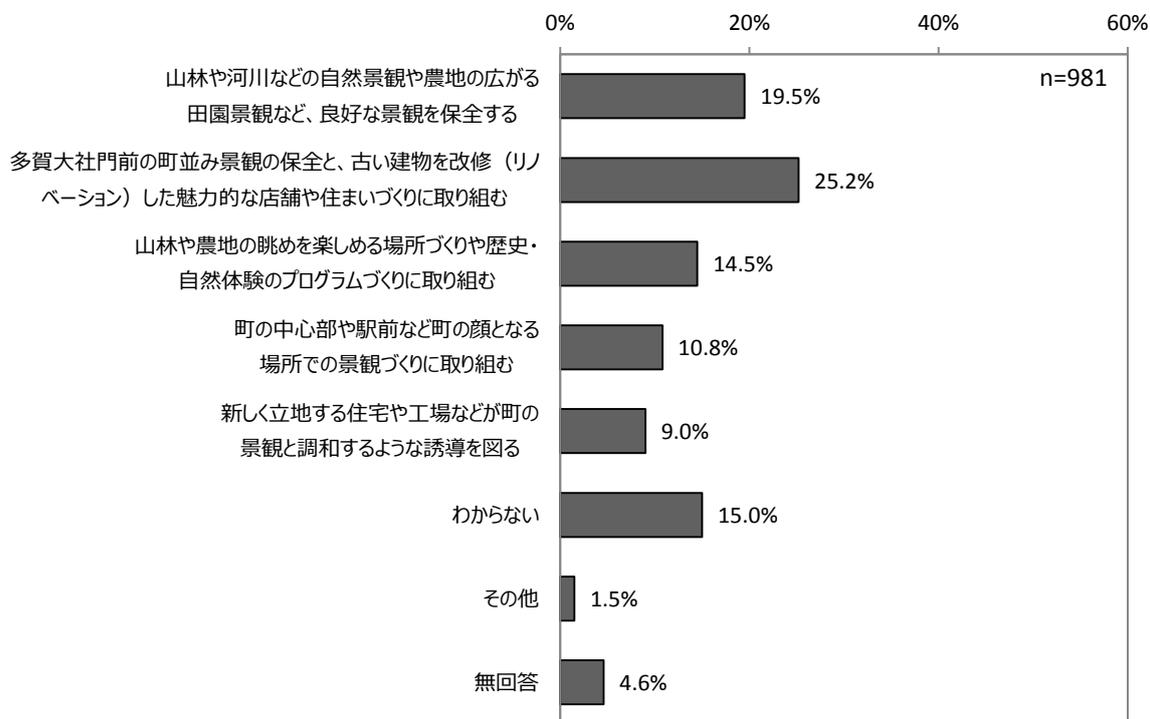
問 20 多賀町は、山地や流域の景観や田園風景、多賀大社門前の町並み景観などが特徴的で、その他にも歴史的な資源（古墳群や名勝、社寺）や自然資源（河内風穴など）があります。今後、こうした町の資源を活かした取り組みを進めていく上で、最も重視すべき取り組みはどれですか。（あてはまる番号1つに○）

町の資源を活かした「街並み景観保全と魅力的な店舗・住まいづくり」を重視。

- ・町の資源を活かした取り組みでは、「街並み景観保全と魅力的な店舗・住まいづくり」が25.2%と最も多く選択されています。以下、「自然・田園景観保全」（19.5%）、「眺めを楽しめる場所や歴史・自然体験プログラム」（14.5%）が続きます。
- ・「わからない」との回答も15.0%に達しています。

調査数	981	100.0%
山林や河川などの自然景観や農地の広がる田園景観など、良好な景観を保全する	191	19.5%
多賀大社門前の町並み景観の保全と、古い建物を改修（リノベーション）した魅力的な店舗や住まいづくりに取り組む	247	25.2%
山林や農地の眺めを楽しめる場所づくりや歴史・自然体験のプログラムづくりに取り組む	142	14.5%
町の中心部や駅前など町の顔となる場所での景観づくりに取り組む	106	10.8%
新しく立地する住宅や工場などが町の景観と調和するような誘導を図る	88	9.0%
わからない	147	15.0%
その他	15	1.5%
無回答	45	4.6%

単数回答



【年齢別集計】

「多賀大社門前の町並景観」「自然や田園景観など良好な景観保全」「眺めを楽しめる場所づくりや体験プログラムづくり」は幅広い年齢が支持。

- ・風景・景観や自然資源を活かした取り組みで重視することを年齢別にみたところ、「多賀大社門前の町並景観保全と魅力的な店舗・住まいづくり」は全ての年齢層で比率が上位（3位以内）となっています。
- ・また、「自然景観や田園景観など、良好な景観を保全」についても10歳代を除いて、「眺めを楽しめる場所づくりや体験プログラムづくり」は20～60歳代で、回答比率が上位（3位以内）となっています。
- ・10歳代及び70歳代では、「中心部や駅前など町の顔となる場所の景観づくり」の比率が全体に比べて5ポイント以上、高くなっています。また、70歳代では、「新しい住宅や工場が町の景観と調和するような誘導」の比率も全体に比べて高くなっています。
- ・10歳代及び80歳以上では、「わからない」の比率も高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
自然景観や田園景観 など、良好な景観を保全	19.5%	11.9%	11.7%	12.9%	20.9%	22.8%	26.8%	16.4%	27.4%
多賀大社門前の町並 景観保全と魅力的な 店舗・住まいづくり	25.2%	39.0%	40.3%	42.2%	30.4%	22.8%	16.5%	15.9%	13.2%
眺めを楽しめる場所 づくりや体験プログラ ムづくり	14.5%	8.5%	11.7%	16.3%	22.6%	17.7%	15.5%	11.6%	7.5%
中心部や駅前など町 の顔となる場所の景 観づくり	10.8%	16.9%	9.1%	8.8%	7.0%	5.1%	10.3%	16.9%	11.3%
新しい住宅や工場が 町の景観と調和する ような誘導	9.0%	1.7%	9.1%	8.8%	5.2%	12.7%	8.2%	14.3%	6.6%
わからない	15.0%	18.6%	15.6%	8.2%	12.2%	13.9%	17.0%	14.8%	22.6%
その他	1.5%	1.7%	-	2.0%	1.7%	2.5%	1.5%	1.6%	-
無回答	4.6%	1.7%	2.6%	0.7%	-	2.5%	4.1%	8.5%	11.3%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

「多賀大社門前の町並景観」（平坦地域）、「自然や田園景観など良好な景観保全」（山間地域）、「眺めを楽しめる場所づくりや体験プログラムづくり」（富之尾・檜崎地域）と、地域によって最も重視する取り組みが異なる。

全地域で「わからない」が15%を占める。

- ・風景・景観や自然資源を活かした取り組みで重視することを地域別にみたところ、平坦地域では「多賀大社門前の町並景観保全と魅力的な店舗・住まいづくり」、山間地域では芹川流域・犬上川流域とも「自然景観や田園景観など、良好な景観を保全」、富之尾・檜崎地域では「眺めを楽しめる場所づくりや体験プログラムづくり」の比率がそれぞれ最上位で、地域ごとに異なる意識が現れています。
- ・また、全ての地域で「わからない」が15%前後と一定比率を占めています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
自然景観や田園景観など、良好な景観を保全	19.5%	18.5%	42.9%	21.9%	8.9%
多賀大社門前の町並景観保全と魅力的な店舗・住まいづくり	25.2%	29.1%	14.3%	14.2%	20.0%
眺めを楽しめる場所づくりや体験プログラムづくり	14.5%	12.6%	14.3%	20.8%	22.2%
中心部や駅前など町の顔となる場所の景観づくり	10.8%	12.0%	-	6.0%	15.6%
新しい住宅や工場が町の景観と調和するような誘導	9.0%	8.6%	7.1%	11.5%	8.9%
わからない	15.0%	14.1%	14.3%	17.5%	15.6%
その他	1.5%	1.6%	3.6%	0.5%	4.4%
無回答	4.6%	3.7%	3.6%	7.7%	4.4%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

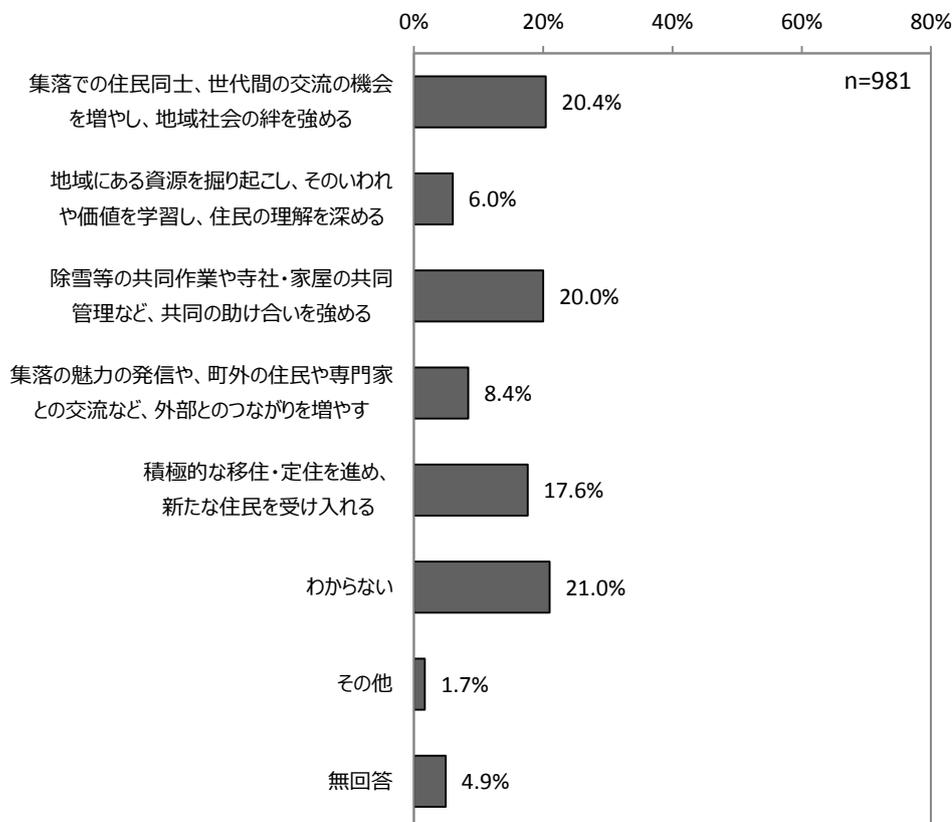
問 21 みなさんのお住まいの集落には伝統的な風習・祭りや人づきあいがあり、昨今では、集落の暮らしを大切にしたい移住や生活の様子を体験する観光も広がり、地域振興に結びつけている例もあります。今後、こうした集落の資源を活かした取り組みを進めていく上で、最も重視すべきと思う取り組みはどれですか。（あてはまる番号1つに○）

集落の資源を活かした取り組みでは、効果的な手段に悩みも。

- ・集落の資源を活かした取り組みでは、「わからない」が21.0%と最も多く選択されており、今後の取り組みがあまり意識されていない様子が伺われます。
- ・以下、「交流機会を増やし、地域社会の絆を強める」(20.4%)、「共同の助け合いを強める」(20.0%)、「新たな住民を受け入れる」(17.6%)がそれぞれ2割近く選択されています。

調査数	981	100.0%
集落での住民同士、世代間の交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める	200	20.4%
地域にある資源を掘り起こし、そのいわれや価値を学習し、住民の理解を深める	59	6.0%
除雪等の共同作業や寺社・家屋の共同管理など、共同の助け合いを強める	196	20.0%
集落の魅力の発信や、町外の住民や専門家との交流など、外部とのつながりを増やす	82	8.4%
積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる	173	17.6%
わからない	206	21.0%
その他	17	1.7%
無回答	48	4.9%

単数回答



【年齢別集計】

「地域社会の絆を強める」は多様な年齢で支持。
各年代で「わからない」の比率が高く、集落単位での取り組みにあまり意識が強くない人も少なくない。

- ・ 伝統的な風習・祭りや人付き合いなど、集落資源を活かした取り組みで重視することを年齢別にみたら、「住民同士、世代間交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める」は40歳代を除く各年代で、回答比率が上位（3位以内）となっています。
- ・ 比較的年齢の高い層では「共同作業や寺社・家屋の共同管理など、助け合いを強める」の比率が、年齢の若い層では「積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる」の比率がやや高くなる傾向にあります。
- ・ 70歳代を除いて「わからない」の比率が20%を超え、各年齢層で1位あるいは2位と高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
住民同士、世代間交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める	20.4%	16.9%	22.1%	25.9%	12.2%	16.5%	20.1%	23.3%	20.8%
地域資源を掘り起こし、価値の学習と住民理解を深める	6.0%	5.1%	3.9%	4.8%	12.2%	10.1%	5.7%	4.8%	2.8%
共同作業や寺社・家屋の共同管理など、助け合いを強める	20.0%	22.0%	16.9%	17.0%	13.9%	21.5%	23.7%	20.6%	24.5%
集落魅力の発信や町外との交流など、外部とのつながりを増やす	8.4%	10.2%	13.0%	5.4%	14.8%	6.3%	6.2%	8.5%	4.7%
積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる	17.6%	15.3%	20.8%	19.0%	21.7%	13.9%	16.5%	18.0%	14.2%
わからない	21.0%	27.1%	20.8%	21.8%	21.7%	26.6%	22.7%	14.8%	20.8%
その他	1.7%	1.7%	-	4.1%	0.9%	2.5%	2.1%	1.6%	-
無回答	4.9%	1.7%	2.6%	2.0%	2.6%	2.5%	3.1%	8.5%	12.3%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

「助け合いを強める」を各地域で支持。

平坦地域、山間地域（芹川流域）では「地域社会の絆」、富之尾・檜崎地域、山間地域（犬上川流域）では「移住・定住の受け入れ」重視の高い意識。

- ・伝統的な風習・祭りや人付き合いなど、集落資源を活かした取り組みで重視することを地域別にみたら、山間地域を中心に各地域で「共同作業や寺社・家屋の共同管理など、助け合いを強める」が上位を示しています。
- ・このほか、富之尾・檜崎地域や山間地域（犬上川流域）における「積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる」、平坦地域や山間地域（芹川流域）における「住民同士、世代間交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める」の比率が高くなっています。
- ・平坦地域で 21.7%と最も大きな比率となっているのははじめ、「わからない」の比率が各地域とも 20%前後と高くなっています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
住民同士、世代間交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める	20.4%	21.6%	20.4%	17.5%	11.1%
地域資源を掘り起こし、価値の学習と住民理解を深める	6.0%	7.1%	3.6%	4.4%	-
共同作業や寺社・家屋の共同管理など、助け合いを強める	20.0%	17.5%	28.6%	25.7%	26.7%
集落魅力の発信や町外との交流など、外部とのつながりを増やす	8.4%	9.0%	3.6%	7.1%	8.9%
積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる	17.6%	17.1%	10.7%	18.6%	28.9%
わからない	21.0%	21.7%	21.4%	18.0%	15.6%
その他	1.7%	1.8%	-	1.1%	4.4%
無回答	4.9%	4.2%	-	7.7%	4.4%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

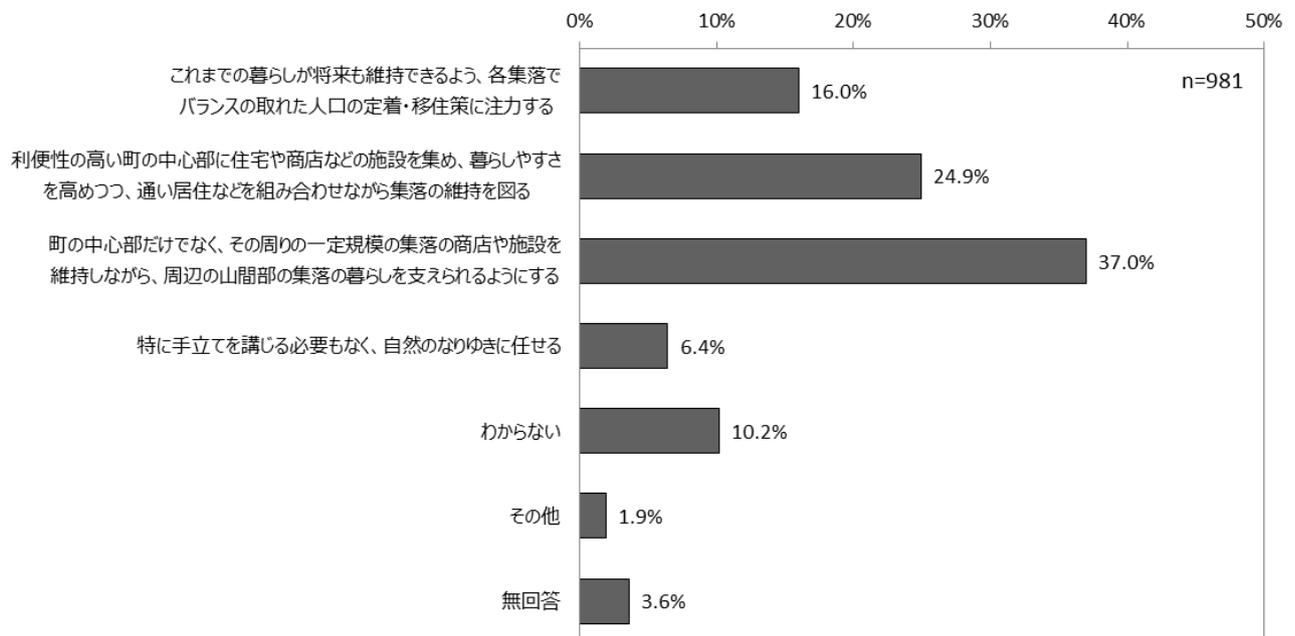
問 22 多賀町は将来的に人口の減少が見込まれており、山間部など過疎が進行し無人となっている（見込まれる）地域もあります。今後10～20年を見据え、これからも暮らし続けていけるまちのあり方や変化に対応したまちのあり方を考えていく必要があります。そこで、将来のまちのあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。（あてはまる番号1つ○）

中心部と集落部の機能分担と連携・協働によるまちの持続に期待。

- ・今後のまちのあり方について尋ねたところ、「中心だけでなく周辺集落の暮らしを支えられるようにする」が37.0%と多くの回答を集め、「中心部に施設を集めながら、通い居住などで集落の維持を図る」が24.9%で続いており、人口へのこだわりより、中心部と集落部との役割分担と連携による共生を期待する意見が多くなっています。

調査数	981	100.0%
これまでの暮らしが将来も維持できるよう、各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力する	157	16.0%
利便性の高い町の中心部に住宅や商店などの施設を集め、暮らしやすさを高めつつ、通い居住などを組み合わせながら集落の維持を図る	244	24.9%
町の中心部だけでなく、その周りの一定規模の集落の商店や施設を維持しながら、周辺の山間部の集落の暮らしを支えられるようにする	363	37.0%
特に手立てを講じる必要もなく、自然のなりゆきに任せる	63	6.4%
わからない	100	10.2%
その他	19	1.9%
無回答	35	3.6%

単数回答



【年齢別集計】

「中心部を維持しながら集落の暮らしを支える」という考え方を多様な年齢層が支持。
 その他、何らかの形で集落の維持に向けた取り組みを求める回答は多数。

- ・10～30歳代は「中心部への機能集約と通い居住を組み合わせ、集落の維持」、40～80歳以上は「中心部周りの商店や施設を維持しながら、集落の暮らしを支える」が1位で、2位は概ねその逆になっています。
- ・50歳代と80歳以上では、「各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力」を求める比率が高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力	16.0%	11.9%	10.4%	11.6%	17.4%	19.0%	16.5%	17.5%	22.6%
中心部への機能集約と通い居住を組み合わせ、集落の維持	24.9%	33.9%	44.2%	38.1%	30.4%	15.2%	17.5%	20.1%	12.3%
中心部周りの商店や施設を維持しながら、集落の暮らしを支える	37.0%	30.5%	27.3%	34.0%	36.5%	39.2%	43.8%	37.0%	36.8%
特に手立てを講じる必要もなく、自然のなりゆきに任せる	6.4%	3.4%	7.8%	5.4%	2.6%	6.3%	7.2%	7.4%	8.5%
わからない	10.2%	15.3%	7.8%	6.8%	10.4%	12.7%	11.3%	9.0%	12.3%
その他	1.9%	3.4%	-	3.4%	1.7%	6.3%	1.0%	1.6%	-
無回答	3.6%	1.7%	2.6%	0.7%	0.9%	1.3%	2.6%	7.4%	7.5%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

「中心部を維持しながら集落の暮らしを支える」という考え方に、各地域とも近いと回答。

- ・全ての地域で「中心部周りの商店や施設を維持しながら、集落の暮らしを支える」に考え方が近いとの回答比率が最上位となっており、「中心部への機能集約と通い居住を組み合わせ、集落の維持」「各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力」が続いています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力	16.0%	15.8%	17.9%	17.5%	17.8%
中心部への機能集約と通い居住を組み合わせ、集落の維持	24.9%	29.9%	17.9%	9.3%	20.0%
中心部周りの商店や施設を維持しながら、集落の暮らしを支える	37.0%	32.3%	53.6%	49.7%	44.4%
特に手立てを講じる必要もなく、自然のなりゆきに任せる	6.4%	5.8%	10.7%	7.7%	8.9%
わからない	10.2%	11.1%	-	7.7%	4.4%
その他	1.9%	1.7%	-	3.3%	2.2%
無回答	3.6%	3.4%	-	4.9%	2.2%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

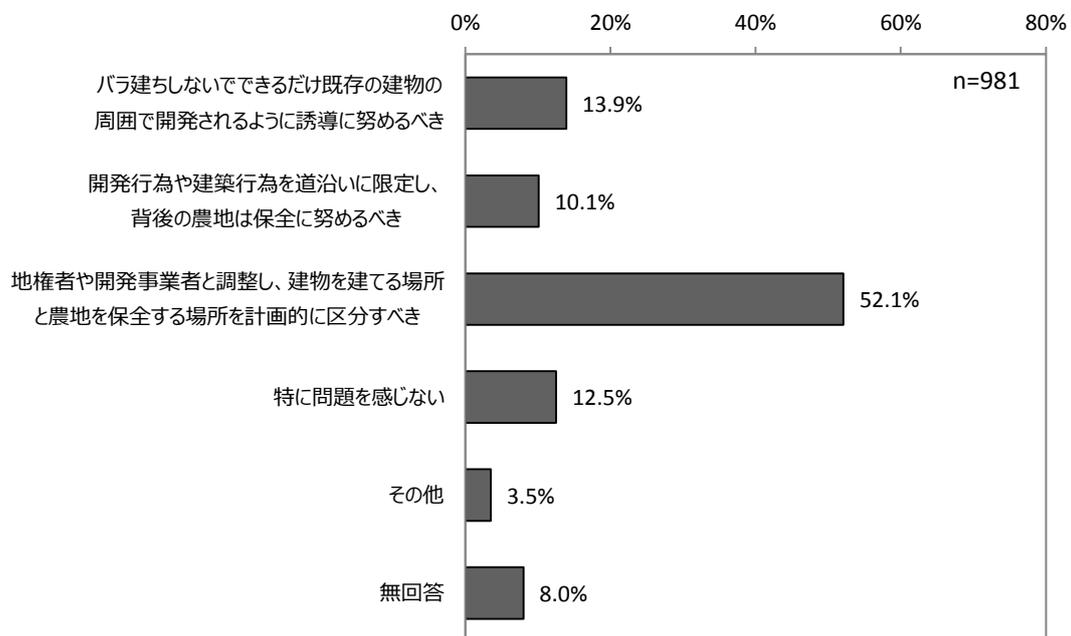
問 23 多賀町では、(仮称)多賀スマートインターチェンジの整備計画があり、国や滋賀県による新たな広域道路の整備が検討され、沿道の土地利用が期待される一方、今後、市街地の範囲が拡大して無秩序な土地利用が進むことも心配されます。それについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(あてはまる番号1つ○)

道路整備等に対し、計画的な土地利用を要請。

- ・道路整備等に伴う土地利用のあり方について尋ねたところ、半数を超える回答者（52.1%）が「建物を建てる場所と農地を保全する場所を計画的に区分すべき」を選択しており、計画的な土地利用が求められています。
- ・以下、「既存建物の周囲で開発されるよう誘導に努めるべき」（13.9%）、「開発・建築を限定し、農地は保全に努めるべき」（10.1%）がそれぞれ1割程度を占めています。

調査数	981	100.0%
バラ建ちしないでできるだけ既存の建物の周囲で開発されるように誘導に努めるべき	136	13.9%
開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき	99	10.1%
地権者や開発事業者と調整し、建物を建てる場所と農地を保全する場所を計画的に区分すべき	511	52.1%
特に問題を感じない	123	12.5%
その他	34	3.5%
無回答	78	8.0%

単数回答



【年齢別集計】

「都市と農地の計画的な区分」を全ての年齢層が支持。
若い世代では「農地保全」を優先する回答が多いほか、「問題を感じない」の比率も高い。

- ・広域道路の整備に伴う土地利用についての考え方を年齢別にみたところ、全ての年代で「建物を建てる場所と農地保全する場所を計画的に区分すべき」に考え方が近いとの回答比率が1位となっており、50%を超える年齢層も多くなっています。
- ・30歳代以上では、「バラ建ちしないでできるだけ既存の建物の周囲で開発されるように誘導に努めるべき」を選択する回答も多くなっています。
- ・10～20歳代の若い世代では、「開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき」との回答及び「特に問題を感じない」の比率が全体平均に比べて、やや高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
バラ建ちしないでできるだけ既存の建物の周囲で開発されるように誘導に努めるべき	13.9%	10.2%	16.9%	16.3%	20.0%	15.2%	11.9%	12.2%	10.4%
開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき	10.1%	16.9%	18.2%	9.5%	7.8%	15.2%	7.2%	10.1%	6.6%
建物を建てる場所と農地保全する場所を計画的に区分すべき	52.1%	39.0%	37.7%	60.5%	54.8%	43.0%	59.8%	54.0%	45.3%
特に問題を感じない	12.5%	23.7%	19.5%	9.5%	12.2%	13.9%	10.3%	10.1%	10.4%
その他	3.5%	5.1%	3.9%	2.7%	3.5%	8.9%	3.6%	2.1%	1.9%
無回答	8.0%	5.1%	3.9%	1.4%	1.7%	3.8%	7.2%	11.6%	25.5%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

全ての地域で「都市と農地の計画的な区分」を近い考えとして選択。
山間地域（芹川流域）では「農地保全」を優先する回答が多い。

- ・広域道路の整備に伴う土地利用についての考え方を地域別にみたところ、全ての地域で「建物を建てる場所と農地保全する場所を計画的に区分すべき」に考え方が近いとの回答比率が1位となっており、特に平坦地域では半数を超えています。
- ・山間地域（芹川流域）では、「開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき」との回答が1/4を占め、他地域に比べて高い比率を示しています。
- ・また、富之尾・檜崎地域では「特に問題を感じない」の比率が17.8%と他地域に比べてやや高い比率を占めています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
バラ建ちしないでできるだけ既存の建物の周囲で開発されるように誘導に努めるべき	13.9%	13.7%	10.7%	16.4%	11.1%
開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき	10.1%	10.0%	25.0%	7.1%	13.3%
建物を建てる場所と農地保全する場所を計画的に区分すべき	52.1%	55.1%	42.9%	44.8%	46.7%
特に問題を感じない	12.5%	10.9%	10.7%	15.8%	17.8%
その他	3.5%	3.8%	-	2.7%	4.4%
無回答	8.0%	6.5%	10.7%	13.1%	6.7%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

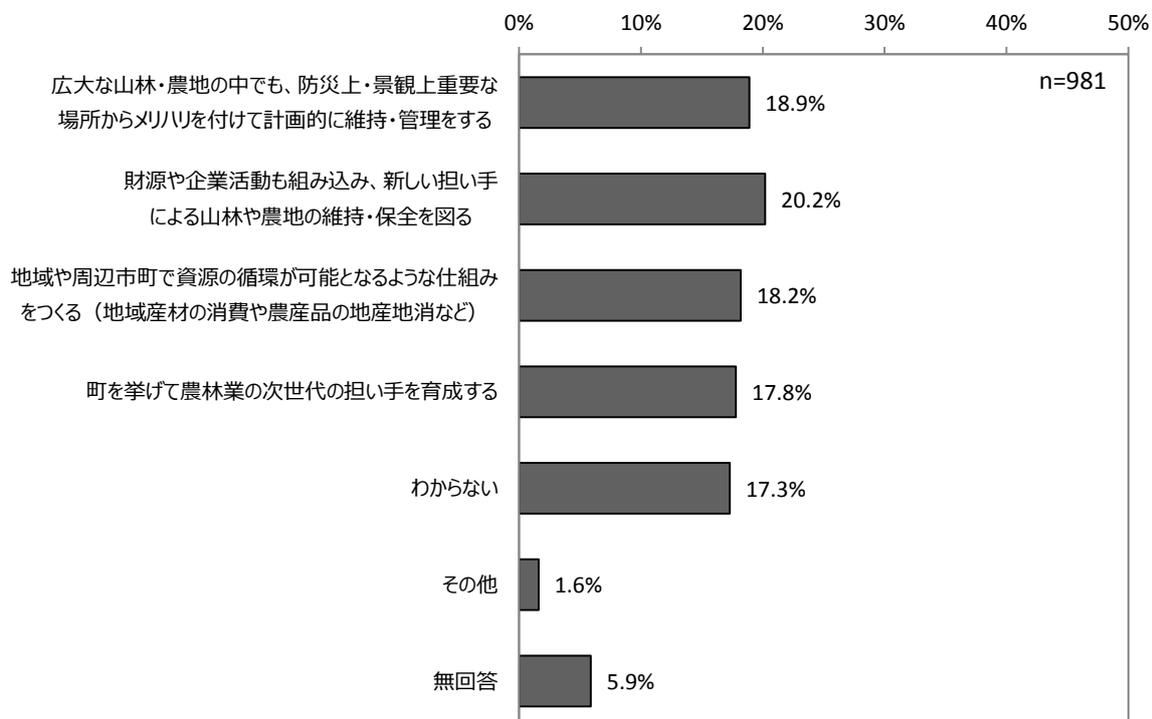
問 24 町内の土地の大半は山林や農地で占められ、恵みを提供するだけでなく良好な景観を形作る大切な資産ですが、その担い手不足は課題となっており、どのように維持・管理をしていくべきかを考えていく必要があります。下記の取り組みはいずれも重要なものですが、とりわけ、町として注力すべきと考えるものはどれだと思いますか。(あてはまる番号1つ○)

山林や農地の維持・管理の効果的な方法は、住民の間でも意見が分かれる。

- ・自然や農地の維持管理の方法で重視すべきことを尋ねたところ、提示した4つの項目及び「わからない」がそれぞれ20%前後の回答を集め、意見が分かれる結果となっています。
- ・そのなかでも「新しい担い手により維持・保全を図る」が20.2%と最も多くの回答を集めています。

調査数	981	100.0%
広大な山林・農地の中でも、防災上・景観上重要な場所からメリハリを付けて計画的に維持・管理をする	185	18.9%
財源や企業活動も組み込み、新しい担い手による山林や農地の維持・保全を図る	198	20.2%
地域や周辺市町で資源の循環が可能となるような仕組みをつくる（地域産材の消費や農産品の地産地消など）	179	18.2%
町を挙げて農林業の次世代の担い手を育成する	175	17.8%
わからない	170	17.3%
その他	16	1.6%
無回答	58	5.9%

単数回答



【年齢別集計】

山林・農地の維持管理に向けた取り組みは、全体と同様、各年齢層でも意見が分かれる。10歳代や70～80歳以上では「わからない」との回答も多い。

- ・山林・農地の維持管理の取り組みの重要性について、年齢別にみたところ、全体と同様に意見が分かれており、20歳代では「次世代の担い手育成」、30歳代では「計画的な維持・管理」、40～50歳代では「資源循環の仕組み」、50～70歳代は「新しい担い手による維持・保全」がそれぞれ各年齢層における最上位となっています。（重複は同率があるため）
- ・また、10歳代及び70～80歳以上では「わからない」の比率がそれぞれ最上位で、現状や取り組みについて、十分な情報が行き渡っていない可能性も考えられます。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
山林等を防災・景観上重要な場所から計画的に維持・管理する	18.9%	20.3%	20.8%	24.5%	20.9%	21.5%	16.5%	17.5%	11.3%
新しい担い手による山林や農地の維持・保全を図る	20.2%	22.0%	16.9%	17.7%	20.0%	22.8%	24.7%	19.6%	17.9%
地域や周辺市町で資源循環が可能となる仕組みをつくる	18.2%	15.3%	13.0%	17.7%	24.3%	21.5%	20.6%	14.8%	14.2%
町を挙げて農林業の次世代の担い手を育成する	17.8%	13.6%	24.7%	23.8%	20.9%	13.9%	13.9%	16.4%	16.0%
わからない	17.3%	23.7%	22.1%	12.2%	10.4%	16.5%	18.0%	19.6%	22.6%
その他	1.6%	3.4%	2.6%	2.7%	1.7%	1.3%	1.0%	1.6%	-
無回答	5.9%	1.7%	-	1.4%	1.7%	2.5%	5.2%	10.6%	17.9%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

山林・農地の維持管理に向けた取り組みは、全体と同様、各地域でも意見が分かれる。平坦地域、富之尾・檜崎地域では担い手に関する取り組みを、山間地域では計画的維持管理（芹川流域）や資源循環の仕組み（犬上川流域）など、山林・農地の方向性やあり方を含めた取り組みを重視。

- ・山林・農地の維持管理の取り組みの重要性について地域別にみたところ、各地域間でも差異がみられます。
- ・平坦地域及び富之尾・檜崎地域では「新しい担い手による維持・保全」をあげる回答が最も多く、特に富之尾・檜崎地域ではこの傾向が強くなっています。
- ・山間地域（芹川流域）では「防災・景観上重要な場所から計画的に維持・管理」、山間地域（犬上川流域）では「資源循環の仕組み」をあげる回答が最も多く、地域における山林・農地との関わり方が重視する取り組みの違いにもつながっていると考えられます。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
山林等を防災・景観上重要な場所から計画的に維持・管理する	18.9%	18.9%	32.1%	17.5%	17.8%
新しい担い手による山林や農地の維持・保全を図る	20.2%	20.3%	14.3%	16.9%	33.3%
地域や周辺市町で資源循環が可能となる仕組みをつくる	18.2%	18.6%	17.9%	19.1%	8.9%
町を挙げて農林業の次世代の担い手を育成する	17.8%	18.1%	21.4%	16.4%	20.0%
わからない	17.3%	17.8%	14.3%	16.9%	11.1%
その他	1.6%	1.7%	-	2.2%	-
無回答	5.9%	4.7%	-	10.9%	8.9%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

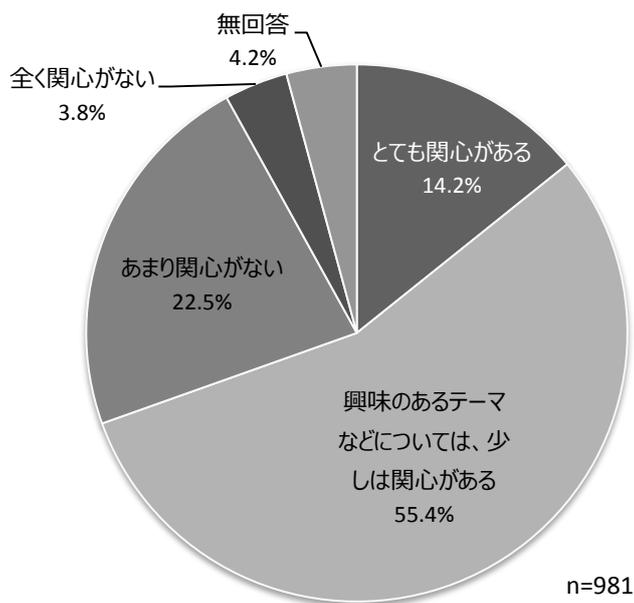
問 25 あなたは、多賀町内のまちづくりや計画に関心をお持ちですか。(あてはまる番号に1つ○)

7割の回答者がまちづくりに関心。関心がないとの回答も1/4に。

- ・まちづくりへの関心については、「興味のあるテーマなどについては、少しは関心がある」が55.4%と半数を超え、「とても関心がある」(14.0%)をあわせ、濃淡はあるものの、およそ7割(69.4%)がまちづくりに対して関心を持つと回答しています。
- ・一方、「あまり関心がない」(22.5%)、「全く関心がない」(3.8%)をあわせると、回答者のおよそ1/4(26.3%)は関心がない層となっています。

調査数	981	100.0%
とても関心がある	139	14.2%
興味のあるテーマなどについては、少しは関心がある	543	55.4%
あまり関心がない	221	22.5%
全く関心がない	37	3.8%
無回答	41	4.2%

単数回答

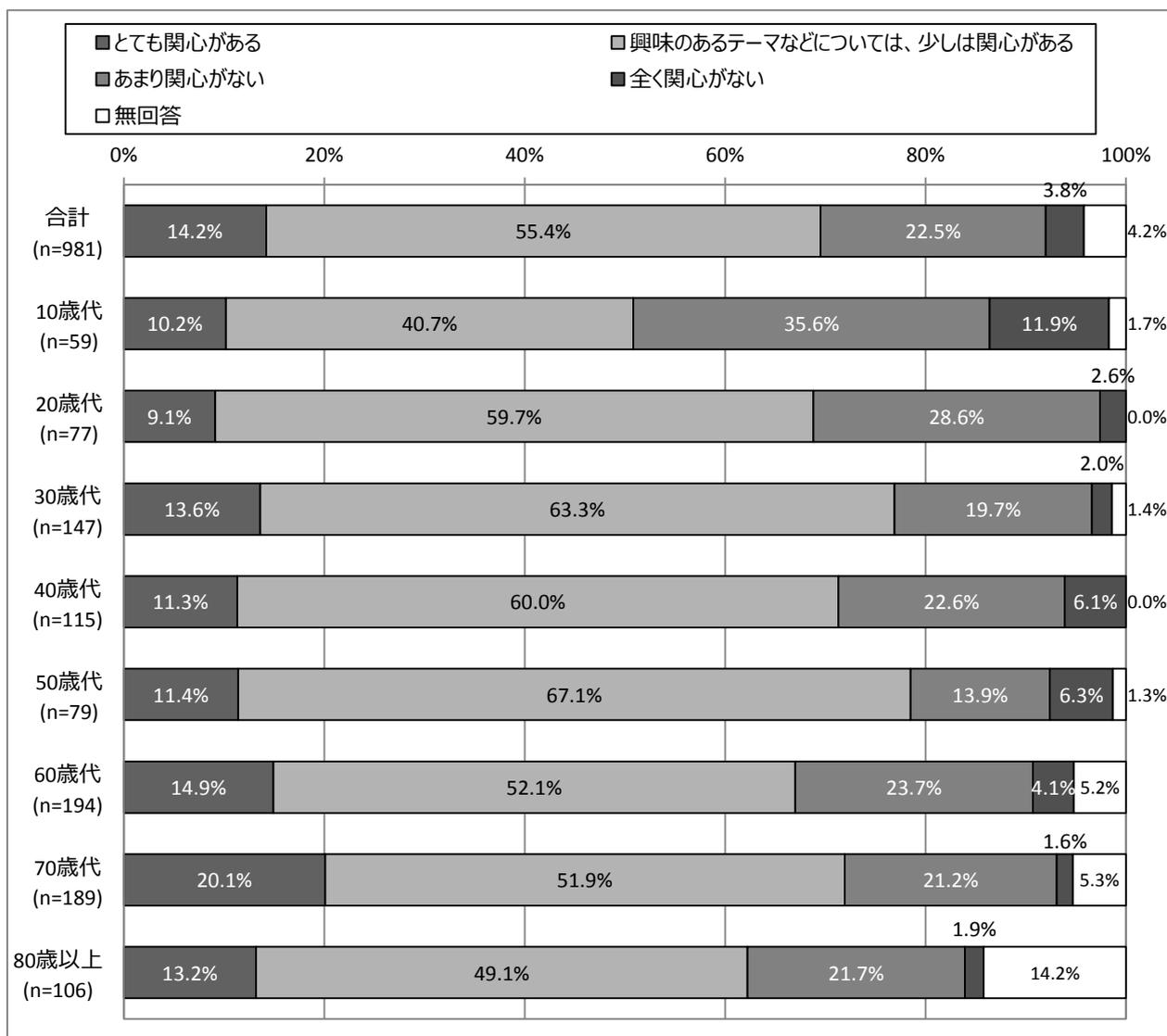


【年齢別集計】

10歳代では半数近くでまちづくりへの関心が希薄。

その他の年代では関心のある層が60%を超えるが、年齢を問わず、一定の割合で関心が希薄な層も存在（20～30%）。

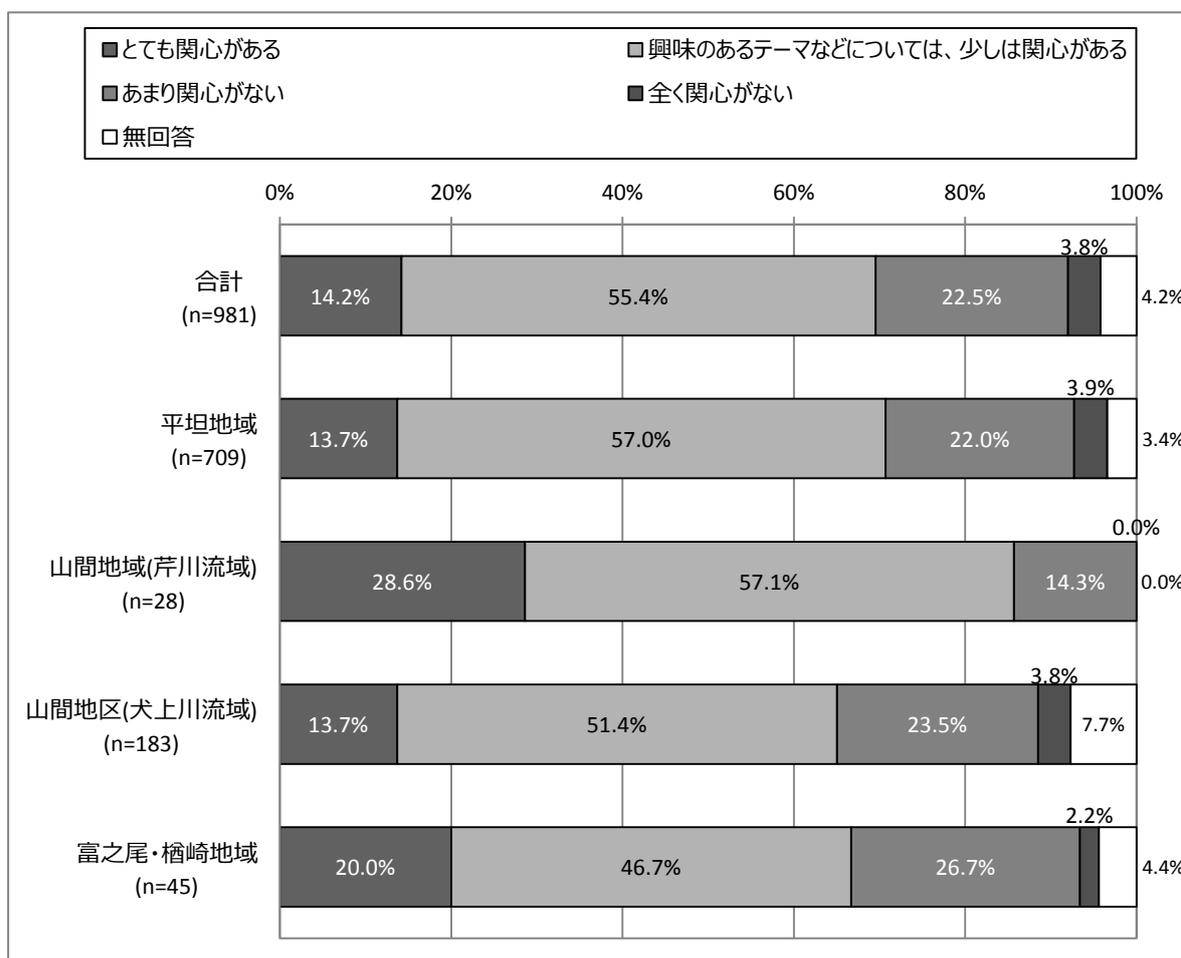
- ・まちづくりへの関心度を年齢別にみると、「とても関心がある」「興味のあるテーマなどについては関心がある」をあわせると、10歳代を除く各年齢層で60%以上がまちづくりに関心を示しています。
- ・10歳代では「全く関心がない」が11.9%、「あまり関心がない」が35.6%で、半数近くが無関心層となっており、若い世代に対する働きかけが課題のひとつと考えられます。
- ・各年代においても、無関心層が20～30%程度を示しており、住民の意識やライフスタイルの変化に対応した仕組みや取り組みを考えていく必要があります。



【地域別集計】

各地域ともまちづくりに何らかの関心を持つ層が60%程度。
山間地域（芹川流域）で特に高い関心度。

- ・まちづくりへの関心度を地域別にみると、「とても関心がある」「興味のあるテーマなどについては関心がある」をあわせると、全ての地域で60%以上が何らかの形でまちづくりに関心を示しています。
- ・特に山間地域（芹川流域）では「とても関心がある」の比率が他地域に比べて28.6%と高く、「興味のあるテーマなどについては関心がある」をあわせた関心度は地域別で唯一、80%を超えています。



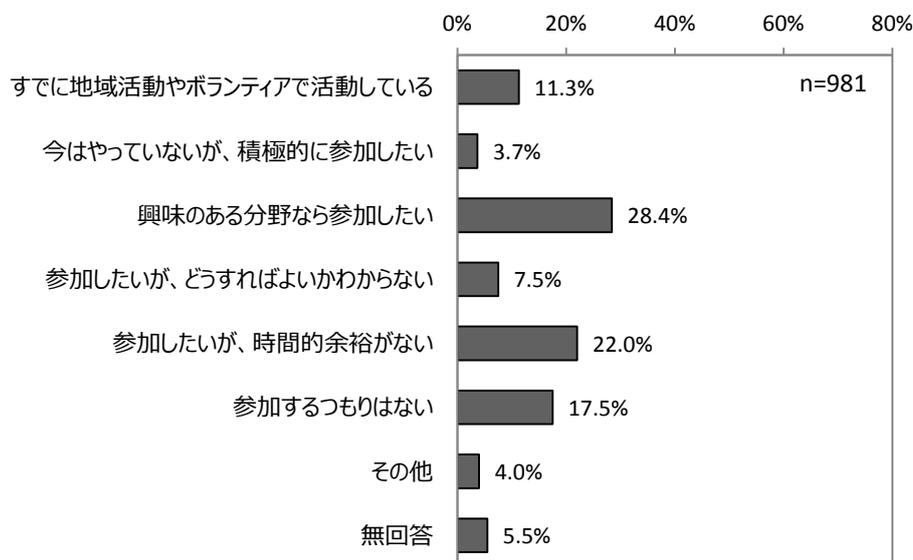
問 26 これからのまちづくりでは、住民や地域団体、NPOやボランティア団体、事業者、行政が、協力・連携し合っていくことが不可欠になっています。あなたは、まちづくりへの参加についてどのようにお考えですか。（あてはまる番号に1つ○）

3 / 4 の回答者がまちづくりへの参加意向。ただし、参加を促すには一層の工夫が必要。

- ・まちづくりへの参加意向については、既に参加している、あるいは何らかの形で参加の意向を持った回答者がおよそ3 / 4（73.0%）に達しており、「参加するつもりはない」は17.5%にとどまっています。
- ・ただし、参加意向はあっても「参加したいが、時間的余裕がない」が22.0%、「参加したいが、どうすればよいかわからない」が7.5%おり、今後、こうしたニーズをすくい上げ、参加者のすそ野を広げていくためには、これまでと異なるアプローチや方法を検討していく必要があります。

調査数	981	100.0%
すでに地域活動やボランティアで活動している	111	11.3%
今はやっていないが、積極的に参加したい	36	3.7%
興味のある分野なら参加したい	279	28.4%
参加したいが、どうすればよいかわからない	74	7.5%
参加したいが、時間的余裕がない	216	22.0%
参加するつもりはない	172	17.5%
その他	39	4.0%
無回答	54	5.5%

単数回答



【年齢別集計】

全体と同様、各年齢層内でも参加意向は高いが、実際の動きにつなげるには時間の制約への対応など、新たな工夫・仕組みが必要。

10歳代など若い世代で「参加意向なし」比率が高く、幼少期からの愛着づくりなどが求められる。

- ・まちづくりへの参加意向を年齢別にみたところ、「既に参加している」から「参加したいが、時間的余裕がない」までをあわせた参加意向を持つ回答者は、「その他」「無回答」の比率が高く、参加意向が32.0%にとどまる80歳以上を除くと、10～70歳代の全てで60%以上、特に20～60歳代では80%以上が何らかの形で参加意向を有しています。
- ・ただし、10～50歳代では「参加したいが時間的余裕がない」がそれぞれ1/4、10歳代では「参加するつもりがない」が32.2%を占めるなど、参加のすそ野を拡大していくためには、若い世代を中心に、さらなる啓発や新たな工夫が求められます。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
すでに地域活動やボランティアで活動している	11.3%	6.8%	3.9%	5.4%	9.6%	7.6%	21.6%	17.5%	2.8%
今はやっていないが、積極的に参加したい	3.7%	5.1%	-	3.4%	4.3%	5.1%	4.1%	4.8%	1.9%
興味のある分野なら参加したい	28.4%	18.6%	32.5%	29.3%	32.2%	32.9%	32.5%	28.6%	16.0%
参加したいが、どうすればよいかわからない	7.5%	6.8%	6.5%	4.8%	9.6%	11.4%	7.2%	7.4%	7.5%
参加したいが、時間的余裕がない	22.0%	27.1%	40.3%	39.5%	26.1%	26.6%	16.5%	10.1%	3.8%
参加するつもりはない	17.5%	32.2%	16.9%	15.0%	18.3%	13.9%	11.3%	18.5%	25.5%
その他	4.0%	1.7%	-	0.7%	-	2.5%	1.5%	6.3%	18.9%
無回答	5.5%	1.7%	-	2.0%	-	-	5.2%	6.9%	23.6%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

平坦地域、山間地域（芹川流域）、富之尾・檜崎地域では 75%程度の参加意向。

芹川流域では既に活動している比率が高く、他 3 地域では「時間がない」「参加意向がない」が各 20%程度。

- ・まちづくりへの参加意向を地域別にみたところ、「既に参加している」から「参加したいが、時間的余裕がない」までをあわせた参加意向を持つ回答者は、全ての地域で 60%以上、また平坦地域、山間地域（芹川流域）、富之尾・檜崎地域ではほぼ 3 / 4 前後が参加意向を有しています。
- ・山間地域では芹川流域 21.4%、犬上川流域 15.3%と、全町（11.3%）や他地域に比べ、「すでに地域活動やボランティアで活動している」の比率が高くなっています。
- ・山間地域（芹川流域）を除く 3 地域では、「参加したいが時間的余裕がない」「参加するつもりはない」の比率がそれぞれ 20%前後あり、こうした層への働きかけ等もひとつの課題ではないかと考えられます。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
すでに地域活動やボランティアで活動している	11.3%	10.4%	21.4%	15.3%	6.7%
今はやっていないが、積極的に参加したい	3.7%	3.4%	3.6%	3.3%	11.1%
興味のある分野なら参加したい	28.4%	31.2%	32.1%	18.0%	31.1%
参加したいが、どうすればよいかわからない	7.5%	6.8%	17.9%	9.3%	6.7%
参加したいが、時間的余裕がない	22.0%	22.8%	14.3%	19.1%	20.0%
参加するつもりはない	17.5%	17.3%	3.6%	18.6%	20.0%
その他	4.0%	3.8%	7.1%	5.5%	-
無回答	5.5%	4.2%	-	10.9%	4.4%

※網かけは、合計（全町）よりも 5 ポイント以上ポイントが高い項目

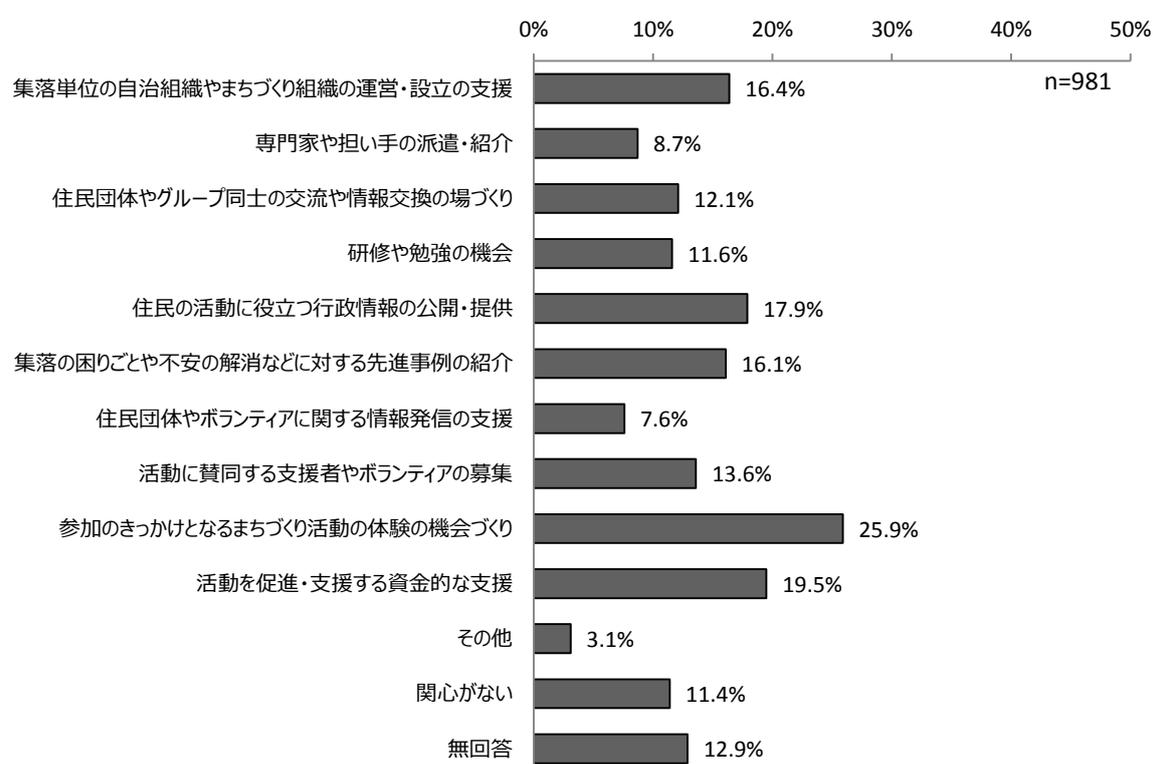
問 27 あなたは、今後、どんな仕組みやきっかけ、あるいは支援があれば、まちづくりの活動に参加したり、すでに参加している取り組みを続けられると思いますか。(あてはまる番号に3つまで○)

「体験機会」をはじめ、「資金支援」「情報提供」「組織支援」等に期待。

・新たな参加へのきっかけづくり、あるいは現在の活動の継続のための支援として期待されていることとしては、「参加のきっかけとなる体験の機会づくり」をおよそ1/4（25.9%）の回答者が選択しており、以下「資金的な支援」（19.5%）、「行政情報の公開・提供」（17.9%）、「組織の運営・設立の支援」（16.4%）などが上位にあり、それぞれ2割近く選択されています。

調査数	981	100.0%
集落単位の自治組織やまちづくり組織の運営・設立の支援	161	16.4%
専門家や担い手の派遣・紹介	85	8.7%
住民団体やグループ同士の交流や情報交換の場づくり	119	12.1%
研修や勉強の機会	114	11.6%
住民の活動に役立つ行政情報の公開・提供	176	17.9%
集落の困りごとや不安の解消などに対する先進事例の紹介	158	16.1%
住民団体やボランティアに関する情報発信の支援	75	7.6%
活動に賛同する支援者やボランティアの募集	133	13.6%
参加のきっかけとなるまちづくり活動の体験の機会づくり	254	25.9%
活動を促進・支援する資金的な支援	191	19.5%
その他	30	3.1%
関心がない	112	11.4%
無回答	127	12.9%

複数回答



【年齢別集計】

「参加のきっかけ・体験機会」「情報公開・提供」は年齢層に関わらず高い期待。地域とのつながりや基礎のある年齢の高い層では「組織の運営・設立支援」、新たな立ち上げも必要な若い世代では「資金的な支援」にも期待。

- ・新たなまちづくりへの参加や活動継続のために必要なことを年齢別にみたところ、「参加のきっかけとなる体験の機会づくり」や「住民活動に役立つ行政情報の公開・提供」は各年齢層に共通して期待が高くなっています。
- ・年齢の高い層では「自治・まちづくり組織の運営・設立の支援」など、地縁型をつながりを重視した取り組みに、比較的若い層では「活動を促進・支援する資金的な支援」に期待する比率が高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
自治・まちづくり組織の運営・設立の支援	16.4%	10.2%	6.5%	10.2%	12.2%	21.5%	25.3%	19.0%	15.1%
専門家や担い手の派遣・紹介	8.7%	13.6%	7.8%	8.8%	13.0%	10.1%	8.2%	6.9%	2.8%
団体やグループの交流・情報交換の場づくり	12.1%	1.7%	7.8%	7.5%	9.6%	19.0%	12.4%	18.5%	11.3%
研修や勉強の機会	11.6%	8.5%	18.2%	17.0%	13.9%	11.4%	9.8%	10.1%	5.7%
住民活動に役立つ行政情報の公開・提供	17.9%	13.6%	22.1%	19.7%	20.9%	20.3%	21.6%	12.7%	12.3%
困りごと等に対する先進事例の紹介	16.1%	10.2%	14.3%	13.6%	19.1%	20.3%	18.0%	19.6%	9.4%
団体やボランティアに関する情報発信支援	7.6%	8.5%	11.7%	9.5%	7.8%	12.7%	7.2%	5.8%	2.8%
賛同する支援者やボランティアの募集	13.6%	15.3%	15.6%	10.9%	19.1%	10.1%	14.4%	15.9%	5.7%
参加のきっかけとなる体験の機会づくり	25.9%	20.3%	32.5%	36.1%	31.3%	25.3%	26.8%	22.2%	8.5%
活動を促進・支援する資金的な支援	19.5%	27.1%	20.8%	25.2%	21.7%	20.3%	20.6%	14.8%	10.4%
その他	3.1%	5.1%	2.6%	4.1%	0.9%	2.5%	0.5%	3.2%	8.5%
関心がない	11.4%	18.6%	16.9%	12.9%	13.9%	11.4%	11.3%	6.3%	7.5%
無回答	12.9%	3.4%	1.3%	4.1%	7.0%	5.1%	10.3%	20.1%	43.4%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

まちづくり支援への期待は地域によって内容に差異。

山間地域では、取り組みにつながる具体例や資金的な支援に期待。平坦地域や富之尾・檜崎地域では、参加のきっかけや情報など、啓発や意識づくりにつながる取り組みにも期待。

- ・新たなまちづくりへの参加や活動継続のために必要なことを地域別にみたところ、地域ごとの特性から、期待する項目に差異がみられます。
- ・各地域で最も期待される項目をみると、平坦地域及び富之尾・檜崎地域では「参加のきっかけとなる体験の機会づくり」、山間地域（芹川流域）では「困りごと等に対する先進事例の紹介」、山間地域（犬上川流域）では「活動を促進・支援する資金的な支援」がそれぞれ最も多く選択されています。
- ・山間地域ではこのほか、芹川流域・犬上川流域に共通して、「自治・まちづくり組織の運営・設立の支援」に期待する回答も多くなっています。
- ・一方、平坦地域では「住民活動に役立つ行政情報の公開・提供」、富之尾・檜崎地域では「団体やグループの交流・情報交換の場づくり」がそれぞれ第2位で、まちづくりに関する情報・交流に対する期待も高くなっています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
自治・まちづくり組織の運営・設立の支援	16.4%	15.2%	28.6%	20.8%	15.6%
専門家や担い手の派遣・紹介	8.7%	8.7%	10.7%	8.2%	11.1%
団体やグループの交流・情報交換の場づくり	12.1%	12.0%	10.7%	11.5%	17.8%
研修や勉強の機会	11.6%	12.1%	17.9%	8.2%	15.6%
住民活動に役立つ行政情報の公開・提供	17.9%	19.6%	14.3%	14.8%	11.1%
困りごと等に対する先進事例の紹介	16.1%	14.1%	42.9%	19.7%	17.8%
団体やボランティアに関する情報発信支援	7.6%	8.9%	-	4.9%	6.7%
賛同する支援者やボランティアの募集	13.6%	14.8%	14.3%	10.4%	8.9%
参加のきっかけとなる体験の機会づくり	25.9%	30.0%	10.7%	11.5%	24.4%
活動を促進・支援する資金的な支援	19.5%	17.5%	39.3%	26.2%	13.3%
その他	3.1%	2.8%	7.1%	4.4%	-
関心がない	11.4%	11.6%	3.6%	10.9%	13.3%
無回答	12.9%	12.0%	3.6%	16.9%	15.6%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

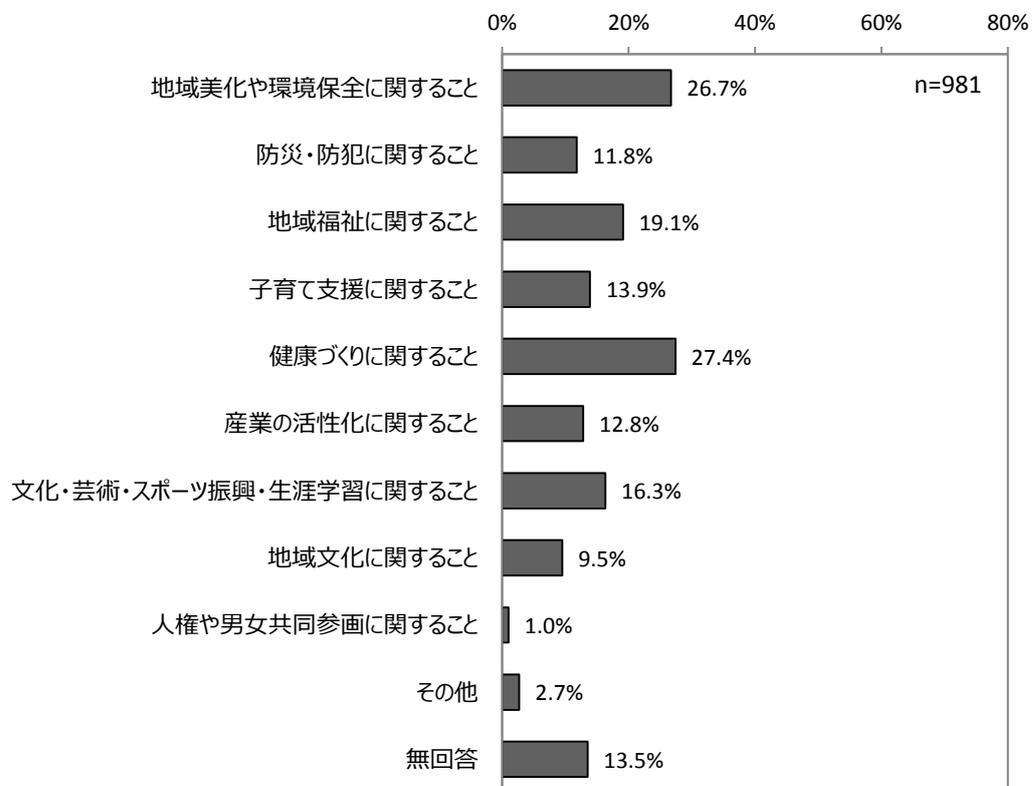
問 28 あなたは、まちづくりの取り組みに参加するなら、どのような分野の活動に参加したいとお考えですか。(特にあてはまる番号2つまで○/現在、すでに活動されている方はその主な分野に○)

「健康づくり」をはじめ、「環境」「地域福祉」「文化・スポーツ・学習」に参加意向。

・参加したいまちづくり活動としては、「健康づくりに関すること」が 27.4%と最多で、「地域美化や環境保全に関すること」(26.7%)、「地域福祉に関すること」(19.1%)、「文化・芸術・スポーツ・生涯学習に関すること」(16.3%)が続いています。

調査数	981	100.0%
地域美化や環境保全に関すること	262	26.7%
防災・防犯に関すること	116	11.8%
地域福祉に関すること	187	19.1%
子育て支援に関すること	136	13.9%
健康づくりに関すること	269	27.4%
産業の活性化に関すること	126	12.8%
文化・芸術・スポーツ振興・生涯学習に関すること	160	16.3%
地域文化に関すること	93	9.5%
人権や男女共同参画に関すること	10	1.0%
その他	26	2.7%
無回答	132	13.5%

複数回答



【年齢別集計】

「地域美化・環境保全」や「健康づくり」は幅広い年齢層で参加意向あり。
年代の高い層では「地域福祉」、若い層では「文化・芸術・スポーツ・生涯学習」「防災・防犯」「子育て支援」「産業活性化」「地域文化」などへの参加意向も。

- ・参加したいまちづくり活動を年齢別にみると、「地域美化・環境保全」は各年齢層で共通して参加意向が高くなっています。
- ・30歳以上では「健康づくり」、50歳以上では「地域福祉」に対する参加意向が高くなっています。
- ・若い層では全体と異なる意向もあり、10歳代では「文化・芸術・スポーツ・生涯学習」「防災・防犯」、20歳代では「文化・芸術・スポーツ・生涯学習」「子育て支援」「産業活性化」「地域文化」、30歳代では「子育て支援」「防災・防犯」を選択した比率が全体に比べて高くなっています。

	合計 (n=981)	10歳代 (n=59)	20歳代 (n=77)	30歳代 (n=147)	40歳代 (n=115)	50歳代 (n=79)	60歳代 (n=194)	70歳代 (n=189)	80歳以上 (n=106)
地域美化や環境保全に関すること	26.7%	23.7%	20.8%	20.4%	22.6%	26.6%	35.6%	33.3%	20.8%
防災・防犯に関すること	11.8%	16.9%	10.4%	17.0%	11.3%	15.2%	14.4%	8.5%	1.9%
地域福祉に関すること	19.1%	16.9%	7.8%	9.5%	13.0%	17.7%	23.2%	31.7%	17.0%
子育て支援に関すること	13.9%	13.6%	22.1%	39.5%	13.9%	12.7%	8.2%	3.2%	2.8%
健康づくりに関すること	27.4%	8.5%	16.9%	22.4%	22.6%	29.1%	34.0%	35.4%	33.0%
産業の活性化に関すること	12.8%	13.6%	22.1%	15.6%	22.6%	15.2%	9.3%	6.9%	3.8%
文化・芸術・スポーツ・生涯学習に関すること	16.3%	28.8%	24.7%	20.4%	20.9%	15.2%	15.5%	10.1%	5.7%
地域文化に関すること	9.5%	11.9%	16.9%	12.2%	15.7%	12.7%	4.6%	4.8%	5.7%
人権や男女共同参画に関すること	1.0%	1.7%	1.3%	0.7%	1.7%	1.3%	0.5%	1.6%	-
その他	2.7%	1.7%	1.3%	3.4%	0.9%	3.8%	2.1%	2.1%	6.6%
無回答	13.5%	11.9%	6.5%	6.1%	9.6%	3.8%	10.8%	15.9%	40.6%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

【地域別集計】

「地域美化・環境保全」及び「健康づくり」は各地域とも参加意向が高い。
山間地域（芹川流域・犬上川流域）、富之尾・檜崎地域では「地域福祉」にも参加意向。平坦地域では「文化・生涯学習」に高い意識。

- ・参加したいまちづくり活動を地域別にみると、「地域美化・環境保全」及び「健康づくり」は、各地域で共通して参加意向が高くなっています。「地域美化・環境保全」は山間地域（芹川流域・犬上川流域）で、「健康づくり」は平坦地域、富之尾・檜崎地域で最も高い比率となっています。
- ・このほか、平坦地域を除く3地域では、「地域福祉」の比率も高くなっています。
- ・平坦地域では、他地域に比べ「文化・芸術・スポーツ・生涯学習」の比率がやや高くなっています。

	合計 (n=981)	平坦地域 (n=709)	山間地域（芹川） (n=28)	山間地域（犬上川） (n=183)	富之尾・檜崎地域 (n=45)
地域美化や環境保全に関すること	26.7%	26.0%	35.7%	29.0%	22.2%
防災・防犯に関すること	11.8%	12.1%	10.7%	12.0%	11.1%
地域福祉に関すること	19.1%	16.9%	35.7%	22.4%	33.3%
子育て支援に関すること	13.9%	16.1%	3.6%	8.7%	6.7%
健康づくりに関すること	27.4%	27.2%	32.1%	26.8%	33.3%
産業の活性化に関すること	12.8%	14.0%	10.7%	10.4%	11.1%
文化・芸術・スポーツ・生涯学習に関すること	16.3%	17.6%	10.7%	13.1%	13.3%
地域文化に関すること	9.5%	11.1%	3.6%	6.0%	4.4%
人権や男女共同参画に関すること	1.0%	0.8%	-	0.5%	6.7%
その他	2.7%	3.0%	7.1%	1.1%	2.2%
無回答	13.5%	11.6%	7.1%	19.7%	15.6%

※網かけは、合計（全町）よりも5ポイント以上ポイントが高い項目

問29 あなたが期待する将来の多賀町のまちの姿を示す“キャッチフレーズ”や、まちづくりについて大切にしたい“キーワード”があれば、ご提案ください。

- ・ 981件中、275件（28.0%）で記載がありました（「特になし」等の記載は除きます）。
- ・ なお、1件の回答者が複数のキーワードを挙げている場合、各々に分類・整理しているため、分類したキーワードの合計は記載件数を超えています。
- ・ また、「まち」「多賀（町）」はキーワードとして取り上げていません。

自然、明るさ、つながり等を重視する提案が多い。子ども、未来、輝く、元気等の提案も。

- ・ 個別のキーワードをみると、将来像（問12）とはやや異なり、「自然」や「つながり」の回答が多くなっています。「安心」や「子ども」は将来像と同じく、一定の提案がありました。
- ・ このほか上位には「笑顔」「豊か」「あたたか」「健やか」など、生活する中での周辺との関わりやまちの雰囲気を表す表現が多くなっています。
- ・ また、比較的若い世代からの回答も多いためか、「未来」「輝く」「元気」ど、未来を志向するキーワードの提案もみられます。

記載されたキーワードの件数上位項目

キーワード	件数
自然	60件
笑顔、えがお、笑い	40件
絆、つなぐ、つながり	34件
安心	34件
豊か	32件
あたたか	27件
健康、健やか	24件
伝統	23件
支え合い、支え合う	20件
安全	19件

キーワード	件数
やすらぎ	15件
歴史	15件
文化	14件
住みよい、住みたい	13件
未来	12件
輝く	12件
元気	11件
子供、子ども、子育て	11件
おだやか、穏やか	11件
美しい、きれい、キレイ	10件

キーワード上位項目を含むキャッチフレーズの提案例（アンケートに記載のあったもの）

- 自然に囲まれ、のびのび元気に育つまち
- 人と人がつながり、笑顔あふれる多賀のまち
- 人がつながるあたたかいまち多賀
- みんなが安心する町づくり、それをつくるのは、住民のみんな
- 自然と共存し、暮しを豊かに
- 明るく続く未来へと残して変わる多賀のまち
- はぐくむ自立心 子どもの輝くまち
- 豊かな心で支えあい 未来へつなごう 輝く町を

自由意見まとめ

- ・まちづくりについて自由に意見・提案を求めたところ、981 件中 318 件（32.4%）で意見・提案がありました（「特にない」などの記載は除きます）。
- ・なお、1 件の回答に複数意見の記載がある場合は、各々、個別に整理しているため、各意見の合計は記載件数を超えています。
- ・「具体的な意見例」については、同様の意見を取りまとめる、長文の主旨を抜粋するといった整理を行っています。

「都市基盤」「産業」等に関する意見・提案の記載が多い。

- ・分野別にみると、「都市基盤」に関わる意見が 112 件と最多で、「産業」109 件、「子育て・教育」49 件、「健康・福祉」47 件、「行財政運営」37 件、「コミュニティ・参加・協働」36 件、「安全」（27 件）、「人権・文化・スポーツ」14 件と続いています。
- ・分類していない「その他」では、アンケートについて（アンケートの活用、もっとわかりやすいアンケートを（難しい）、アンケートの結果報告を）やまちづくりに対する激励の意見がありました。

都市基盤産業に関する意見（112 件）

【具体的な意見例】

○道路

（渋滞の解消、歩道の整備、道路の安全性）

○公共交通

（地域間道路、歩道整備、町内・公共施設を巡回するバス、「愛のりタクシー」の利便性向上、鉄道踏み切りの配置、通学用路線バスの充実、鉄道・バス共通学割定期の発行、路線バスの復活）

○地球環境・環境保全

（廃棄物処理施設の整備、住宅の省エネ化、資源ゴミ受入れの強化、夜空・空気の保全、環境を生かした学園都市の建設、害虫駆除、プラスチックゴミ対策、車の増加による騒音・排気ガスへの対応、雑草の伐採、電気自動車使用の環境整備、ボランティア事業の見直し）

○空き家対策

（介護施設への活用、リフォームし賃貸、災害時仮設住宅としての活用、危険・放置家屋への対応）

○森林・里山の保全活用

（害獣駆除、産業用地等開発の検討、生物との共存）

○公園・緑地・親水空間

（子どもの遊べる公園・遊び場、芹川河川敷の活用）

○中心市街地

（多賀大社前駅～多賀大社までのまちづくりの充実、門前の歩く安全性向上（UD）、門前・参道の活性化、駅前・門前駐車場の整備、空き店舗の活用、商店・カフェ・病院等の集積）

○山間地振興・地域間連携

（中心部と周辺との連携強化、大滝地区の活性化、集落諸問題の解消／農業、後継者対策、除雪・融雪対策等、生活利便、住民による店舗運営支援、魅力ある安心な山村・山間地づくり）

- ユニバーサルなまち
(バリアフリー化、ユニバーサルデザインの導入、)
- 土地利用
(市街化調整区域の見直しによる荒地・放棄地抑制)

産業に関する意見 (109 件)

【具体的な意見例】

- 買い物の場、商業サービス
(食品スーパー・ドラッグストアの設置・誘致、買い物場所への高齢者等の移動確保、身近な買い物場所、銀行 ATM の設置)
- 工業・企業立地
(スマート IC 周辺への企業・ホテル誘致、スマート IC 周辺への民間資本の導入)
- 農林業
(木育施設の設置、獣害対策、林業復活による雇用、魚の養殖・釣り堀、農業法人の育成、町産木材の活用、人材の育成)
- 観光
(観光案内所の設置、道の駅の設置、農村ツアー、集客イベントの開催、集客施設の整備、町内社寺の連携イベント、河内風穴の整備、時代に合わせた観光・PR 施策の見直し・人材登用、自然体験型観光の展開、インスタ映えふる風景づくり、特産物のアピール、インダストリアルツーリズム、町内企業関連ショップ、大型バス駐車場、霊仙山開発、国道 306 号観光スカイライン化、集客施設 [社寺、風穴] 等周辺道路整備、コスモス畑・ヒマワリ畑、通年型観光 PR ツール・冊子の作成、町外向け (観光客目線の) web サイトの構築、多賀大社の PR 強化、名所集会バス・タクシー、ターゲット別モデルコースや情報発信、観光協会の若返り、宿泊プランの企画提案)
- 働く場・就業・雇用
(若者の働く場づくり、町内企業の地元雇用促進)

子育て・教育に関する意見 (49 件)

【具体的な意見例】

- 学習機会
(公民館の使い勝手向上、地域学の推進、習い事のできる場)
- 学校教育
(学校間連携、教育内容の充実、学力の向上、言語学習の充実、生きる力・応用力の育成、フリースクール等の誘致、市民講師の活用、力のある教員の招聘、中学校スポーツの強化)
- 就学前教育・保育
(待機児童解消、受入れの拡大、幼稚園の整備・充実、保育サービスの充実、保育所・幼稚園の子ども園への移行、多賀幼稚園の給食導入)
- 子育て支援
(子育て支援の充実、気軽に子どもを預けられる仕組み、親育て、チャレンジングな取組、学童保育の充実)

- 子どもの人権
(いじめのないまちづくり、子ども食堂、不登校特区)
- 若者支援
(活躍の機会づくり、高校生・大学生への経済的支援)

健康・福祉に関する意見 (47 件)

【具体的な意見例】

- 健康づくり
(ウォーキングの振興、健康増進拠点の整備、健康づくりと介護予防による医療費抑制)
- 医療サービス・機能
(病院の整備・確保、予防接種の促進)
- 長寿時代
(サロンを本来の役割に、声かけ・見守りの実行、一人暮らし高齢者の不安解消、元気な高齢者の活用・活躍、経済的不安の軽減、在宅介護・看護の仕組み、高齢者向け住宅、運動機能維持・認知症予防の為の運動・レクリエーションの奨励、高齢者向け広報の充実、シェアハウスの整備)
- 障がいのあるひと
(グループホームの設置、点字教本の整備、図書館への点字本の配置)
- 生活保障
(弱者にやさしいまち)

コミュニティ・参加・協働に関する意見 (36 件)

【具体的な意見例】

- コミュニティ
(多世代交流、新住宅地との仲介、新住民を受け入れる雰囲気・仕組み、区・自治会活動のスリム化、自治会加入支援、字の合併等によるコミュニティの存続、適度な付き合い、住民・字同士の交流、まちづくりに関心のない住民もいることへの理解、慣例による決まり事の見直し、)
- 地域の伝統・慣習
(行祭事の継承、なあなあの関係の改善、不要な慣習の見直し、行祭事の効率化、祭りの復元や映像による記録)
- 地域資源
(多賀 SL パークの保全、多賀大社の歴史の発信)
- 住民活動・住民参加
(ボランティア育成、住民同士の支え合い、町民がまちに貢献できる仕組み、ボランティア参加のきっかけづくり、住民主体のまちづくり)

安全に関する意見 (27 件)

【具体的な意見例】

- 防災
(山林保全、水害・崩落対策、備蓄の充実、災害被害の迅速な公表、避難場所の充実・周知、電線・

電柱の地中化、治水対策、災害時段ボールベッドの確保 [全国段ボール工業組合連合会との防災協定締結]、池の防災)

○交通安全

(道路の安全性向上、スマートインターに対応した町内安全対策、子どもの通る道路等の改善と交通安全施設の整備、歩道のカラー舗装)

○防犯

(通学路・子どもの通る道の安全対策、街灯の設置)

人権・文化・スポーツに関する意見 (14 件)

【具体的な意見例】

○生涯学習

(趣味の交流、中央公民館の利便性向上)

○図書館

(開館の拡充/土日祝)

○スポーツ

(勤労者体育館に代わる施設、温泉プールの設置、軽い運動のできる場づくり、プールなど総合的なスポーツ施設、サイクリングコース)

○多文化共生

(外国籍住民との協力・連携、留学生による語学教室)

○女性活躍

(古い考えの改革)

行財政運営に関する意見 (37 件)

【具体的な意見例】

○定住促進・定着

(婚活支援、子ども・若者の流出抑制、若者への住宅提供、多賀の本物の発見・創造、外国人とのコミュニティづくり、他市町にマネできない取組、定住に際してのコミュニティ参加負担 [費用] の軽減、子育て・教育・スポーツ等の強みのPR、二世帯・多世代居住促進)

○行財政運営

(効率的な運営、税金が高い、合併はしないで、ふるさと納税の強化、外部人材のまちづくりへの登用、税金の無駄の排除、職員間の情報共有、循環型経済システムの構築)

○職員の育成

○広報・広聴

(人口減少や少子高齢化についての住民との議論、FAX・Twitter・Facebook など発信強化、出身者や縁者の活用、住民意見の受け止め、若者意見の反映)

○情報発信

(子ども医療費など子育て支援策のPR、「たがゆいちゃん」の活用、町内限定で情報交流ができるアプリケーションの開発、児童・生徒による多賀町の情報発信)

○広域行政の推進

参考資料

**「新しいまちづくりに向けた住民アンケート」
(アンケート調査票)**

第6次多賀町総合計画策定に関する

「新しいまちづくりに向けた住民アンケート」 ご協力のお願い

町民の皆様には、日頃から多賀町のまちづくりにご協力をいただき、まことにありがとうございます。

多賀町では、平成23(2011)年に策定した第5次多賀町総合計画に基づき、「自然と歴史・文化に包まれた、キラリとひかるまち」をめざすまちの姿として、まちづくりに取り組んできました。この第5次総合計画が令和2(2020)年に計画期間を終えること、また、本町をとりまく社会情勢が大きく変化していることから、今後10年における新たなまちづくりの指針となる「第6次多賀町総合計画」を策定することとしました。

この計画は、住民の皆様とともに考えて策定し、また住民の皆様とともに取り組む計画にしていきたいと考えています。

つきましては、現在のまちに対する評価や、今後のまちづくりの方向について、住民の皆様からご意見・ご提案をいただくアンケートを実施いたします。

なお、このアンケートは、多賀町にお住まいの全ての世帯から任意の方(1名)を選出してお答えいただくものです。お答えいただいた内容はすべて統計的に処理し、ご迷惑をおかけすることはありません。

お忙しいところお手数ですが、多賀町のより良いまちづくりのため、ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

2019年10月

多賀町長 久保 久良

調査票のご記入にあたって

- この調査票へのご記入は、封筒に記載された宛名の方がお答えください。宛名の方にお答えいただけない場合は、ご家族のなかで、どなたかお一人が代表してお答えください。
- ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れ、**11月8日(金)**までにポストへ投函してください(切手は不要です)。
- このアンケートについてのお問い合わせは、下記までお願いします。

〒522-0341 多賀町多賀 324

多賀町役場 企画課

電話 0749-48-8111 (代表) 0749-48-8122 (直)

ファクス 0749-48-0157

あなた（回答者）ご自身のことについて、おたずねします。

問1 あなたの性別・年齢をお答えください。（あてはまる番号にそれぞれ○）

1. 男	2. 女	1. 10歳代	2. 20歳代	3. 30歳代	4. 40歳代
		5. 50歳代	6. 60歳代	7. 70歳代	8. 80歳以上

問2 あなたのお住まいはどこですか。（あてはまる番号に○）

1. 多賀	2. 尼子	3. 四手	4. 大岡	5. 八重練
6. 桃原	7. 下村	8. 中村	9. 宮前	10. 山女原
11. 落合	12. 入谷	13. 甲頭倉	14. 屏風	15. 水谷
16. 栗栖	17. 一円	18. 木曾	19. 久徳	20. 月之木
21. 中川原	22. 土田	23. 敏満寺	24. 猿木	25. 川相
26. 藤瀬	27. 富之尾	28. 梨ノ木	29. 檜崎	30. 一ノ瀬
31. 佛ヶ後	32. 樋田	33. 萱原	34. 大杉	35. 小原
36. 霜ヶ原	37. 佐目	38. 南後谷	39. 大君ヶ畑	40. 木曾団地
41. 神田	42. グリーンヒル多賀	43. その他（		）

問3 あなたは、多賀町にお住まいになってどれくらいたちますか。（あてはまる番号に1つ○）

1. 5年未満	2. 5年以上10年未満
3. 10年以上20年未満	4. 20年以上

問4 あなたのご職業（兼業の方は主な職業）は（あてはまる番号に1つ○）

1. 学生	2. 家事専業（主婦、主夫、内職を含む）
3. 無業	4. 農業
5. 勤め人（パートを含む）	6. 自営業、会社経営（家族従業者含む）
7. その他（具体的に	）

問5（通勤・通学されている方に）あなたの通勤・通学先はどこですか（あてはまる番号に1つ○）

1. 多賀町内	2. 彦根市	3. 甲良町	4. 豊郷町
5. 愛荘町	6. 大津市	7. 長浜市	8. 近江八幡市
9. 東近江市	10. 米原市	11. その他の滋賀県市町	
12. 京都府	13. 大阪府	14. その他の都道府県	

問6 家族（一緒に住んでいる人）の構成は（あてはまる番号に1つ○）

1. ひとり暮らし	2. 夫婦のみ	3. 2世代（親と子など）	
4. 3世代以上	5. 兄弟姉妹のみ	6. その他（具体的に	）

問7 あなたも含め一緒に住んでいる人はどなたですか（あてはまる番号全てに○）

1. 乳幼児（未就学児）	2. 小学生	3. 中学生
4. 高校生・大学生・専門学生	5. 学生以外の16歳～64歳の方	
6. 65歳～74歳の方	7. 75歳以上の方	

多賀町をどんな風に評価しているか、おたずねします。

問8 あなたは、これからも多賀町に住み続けたいと思いますか。(あてはまる番号に1つ○)

- | | | | |
|-------------------|---|---|-------------|
| 1. ずっと住み続けたい | } | → | 問9へ進んでください |
| 2. できるなら住み続けたい | | | |
| 3. いずれは転居したい | } | → | 問10へ進んでください |
| 4. すぐにでも転居したい | | | |
| 5. わからない・特に考えていない | → | | 問11へ進んでください |

問9 問8で「1. ずっと住み続けたい」「2. できるなら住み続けたい」を選んだ方は、その主な理由をお答えください。(あてはまる番号に3つまで○)

1. 豊かな自然環境に恵まれている
2. 歴史や伝統に支えられた文化にふれられる
3. 余暇や自由時間を過ごすのに快適
4. 通学・通勤・買い物などに便利
5. 道路や上下水道などの生活環境が整っている
6. スポーツ施設や地域の集会施設などが充実している
7. まちやむらの景観や雰囲気が良い
8. ご近所との付き合いが気に入っている
9. 保育サービスなど、子どもを育てる環境が充実している
10. 地域の見守りや教育など、子どもが育つ環境が充実している
11. 健康・医療・福祉などの不安が小さい
12. 自然災害や防犯上の不安が小さい
13. 愛着のある行祭事やイベントがある
14. 生まれ育ったあるいは長年住んでいるため
15. 特に理由はない
16. その他(具体的に)

問10 問8で「3. いずれは転居したい」「4. すぐにでも転居したい」を選んだ方は、その主な理由をお答えください。(あてはまる番号に3つまで○)

1. 自然が減っている・失われている
2. 歴史や伝統などの文化にふれられない
3. 余暇や自由時間を過ごすのに快適でない
4. 通学・通勤・買い物などに不便
5. 道路や上下水道などの生活環境が整っていない
6. スポーツ施設や地域の集会施設などが充実していない
7. まちやむらの景観や雰囲気が好きでない
8. 自治会等の取り組みが負担になっている
9. 保育サービスなど、子どもを育てる環境が整っていない
10. 地域の見守りや教育など、子どもが育つ環境が整っていない
11. 健康・医療・福祉などの不安が大きい
12. 災害や犯罪への不安がある
13. 愛着のある行祭事やイベントがない
14. 出身地や親族のいる場所に戻るため
15. 特に理由はない
16. その他(具体的に)

問 1 1 多賀町のこれまでの取り組みについておたずねします。それぞれの項目に対する「満足度」について、どのようにお考えですか。

項 目	満 足 度				
	満足	やや満足	やや不満	不満	わからない
下記のそれぞれの項目に対する「満足度」について、あなたの考えに近いものを 1つずつ選んで○印をつけてください。					
(例) ■■■■■の充実	5	4	3	2	1

① みんなの力でキラリとひかるまち

◆自立を目指し町民と行政がともに歩むまち

1. 地域コミュニティの充実（自治会・サークル活動など）	5	4	3	2	1
2. 町民の参画と協働の推進（ボランティア活動など）	5	4	3	2	1
3. 湖東定住自立圏構想（彦根市・犬上郡・愛荘町との連携）	5	4	3	2	1
4. 地域間交流の推進（日置市・三朝町との交流・国際交流など）	5	4	3	2	1

◆新たな多賀の創造に向けた取り組み

5. 新たな地域産業の創出（地域資源を活用した新産業の創出）	5	4	3	2	1
6. 多賀ブランドの創出（地場製品のブランド化）	5	4	3	2	1

② 子どもや若い世代が希望を持てるまち

◆将来を担う子どもを育む

7. 子育て支援（子ども家庭応援センター・保護者交流など）	5	4	3	2	1
8. 就学前教育の充実（保育園・幼稚園・こども園）	5	4	3	2	1
9. 学校教育の充実（小・中学校）	5	4	3	2	1
10. 食育の推進（食生活、地産地消、家族団らんなど）	5	4	3	2	1
11. 青少年の健全育成（非行防止・社会参画・表彰など）	5	4	3	2	1

◆いつまでも生きがいを持って暮らせるまちを築く

12. 生涯学習の推進（自主活動支援・大学連携など）	5	4	3	2	1
13. 生涯スポーツの推進（スポーツ講座・施設管理など）	5	4	3	2	1
14. いきいきと活躍できるまちづくり（人権学習・人権教育など）	5	4	3	2	1

③ 誰もが安心して暮らせるまち

◆健康な暮らしを守る保健・医療の充実

15. 健康づくり（健康診査・健康教育・健康相談など）	5	4	3	2	1
16. 医療の充実（救急医療体制・彦根市立病院等との連携など）	5	4	3	2	1

◆地域の絆を深める福祉社会の実現

17. 高齢者福祉の充実（生活支援・介護・生きがいづくりなど）	5	4	3	2	1
18. 障がい者福祉の充実（自立支援・事業所との連携など）	5	4	3	2	1
19. 地域福祉の充実（地域支えあい・ユニバーサルデザイン推進）	5	4	3	2	1
20. 社会保障制度の充実（国保・高齢者医療・福祉医療など）	5	4	3	2	1

④ 環境や歴史・文化、風土を大切にしまち

◆まちの活力をつくり出す地域産業の活性化

21. 農業の振興（農業者育成・特産品化・獣害対策など）	5	4	3	2	1
22. 林業の振興（地元木材活用・山の保全など）	5	4	3	2	1
23. 商工業の振興（起業支援・経営相談・企業誘致など）	5	4	3	2	1
24. 観光の振興（メニュー開発・情報発信・広域観光など）	5	4	3	2	1
25. 中心市街地（多賀大社前駅・絵馬通り・SA周辺活性化）	5	4	3	2	1

◆地球環境にやさしいまちづくり

26. 環境保全対策（自然環境の保全・環境学習など）	5	4	3	2	1
27. 資源循環型社会の構築（廃棄物処理・リサイクルなど）	5	4	3	2	1
28. 低炭素社会の構築（二酸化炭素削減など）	5	4	3	2	1

◆快適に暮らすための生活基盤の充実

29. 道路の整備（町道新設改修・除雪・橋梁長寿命化など）	5	4	3	2	1
30. 河川・水路の整備（排水路整備・河川愛護など）	5	4	3	2	1
31. 上下水道の整備（安全な水の供給・老朽管更新など）	5	4	3	2	1
32. 防災の強化（防災力強化・備蓄物資・訓練実施など）	5	4	3	2	1
33. 消防機能の充実（防火対策・消防団組織強化など）	5	4	3	2	1
34. 防犯の強化（体制整備・情報伝達・意識啓発など）	5	4	3	2	1
35. 住宅・定住支援（若者定住者支援・空き家対策など）	5	4	3	2	1
36. 公園・緑地（多賀公園・四手公園）	5	4	3	2	1
37. 公共交通の充実（路線バス・愛のりタクシー運行）	5	4	3	2	1
38. 交通安全対策（指導教室・施設強化など）	5	4	3	2	1
39. 情報通信基盤（セキュリティ強化・メール配信など）	5	4	3	2	1

◆歴史と伝統文化の継承と◆歴史と伝統文化の継承と活用

40. 歴史・文化（文化財など歴史資源の保存・活用など）	5	4	3	2	1
41. あけぼのパーク多賀（図書館・博物館）	5	4	3	2	1

⑤ 効率的な行財政運営

◆効率的な行財政運営

42. 行財政運営（組織改革・職員研修・情報公開）	5	4	3	2	1
---------------------------	---	---	---	---	---

問 1 2 あなたは、今後、多賀町が「だれもが住み続けたい、子どもたちが帰ってきたいまち」になるため、どんなまちであってほしいとお考えですか。（あてはまる番号に3つまで○）

1. 自然や景観、生活環境を大切にす美しいまち
2. 活力のある産業や働く場がある、いきいきとしたまち
3. 多くの人々が訪れ、住民とふれあうにぎわいのあるまち
4. 教育や支援が充実した、子どもを産み育てやすいまち
5. 健康づくり・医療・福祉の整った、安心なまち
6. 災害や犯罪などの危機や不安に強い、安全なまち
7. 生涯学習や文化活動がさかんで心ゆたかなまち
8. 郷土の歴史と文化に愛着と誇りを持てるまち
9. ご近所づきあいや自治活動活発なふれあいのまち
10. その他（具体的に _____ ）

問 1 3 多賀町が「だれもが住み続けたい、子どもたちが帰ってきたいまち」になるため、特にどんなことに力を入れていくことが大切だと思いますか。（あてはまる番号に5つまで○）

<p>安全・安心</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人権尊重、男女共同参画 2. 健康・医療 3. 地域で支え合う福祉 4. 高齢者の福祉、暮らし 5. 障がいのある人の福祉、暮らし 6. 子どもの育ち、子育て 7. 国民健康保険などの社会保障 8. 防災・災害被害の抑制 9. 防犯・防火・救急・交通安全 <p>環境・産業</p> <ol style="list-style-type: none"> 10. 地球環境問題、資源の循環 11. 自然の保全・活用 12. 上水道・下水道などライフライン 13. 身近な住環境・生活環境・美化 14. 農林漁業、森林の活用 15. 商工・サービス業、企業誘致 16. 働く場づくり・働き方 	<p>交流</p> <ol style="list-style-type: none"> 17. 観光・交流人口誘導 18. 多賀大社前駅・多賀大社周辺の魅力向上 19. 道路・公共交通・移動手段 20. 多文化交流（外国・外国人） <p>教育・学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 21. 生涯学習 22. 学校教育、就学前教育 23. 歴史文化・住民文化・スポーツ <p>住民参加・地域主体</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. 地域コミュニティ 25. まちづくりへの住民参画・参加 26. 定住促進、まちのPR <p>行財政</p> <ol style="list-style-type: none"> 27. 効率的な行財政運営 28. 行政サービスの品質向上 <p>その他</p> <p>29. その他（ _____ ）</p>
---	--

問14 働く場づくりや税収の確保、にぎわいづくりのためには、産業振興がさらに重要になっています。多賀町の産業の活性化のため、特にどんな取り組みが大切だと思いますか。
(あてはまる番号に3つまで○)

1. 広域的な道路の整備などに伴う新しい企業の誘致
2. 産業に関わる人材や後継者の育成
3. 農林業の生産性および農産品の付加価値の向上
4. 町内の大手企業の定着と支援
5. 町内の商店や小規模・中小事業者の活性化
6. 自然や歴史資源を生かした町外からの集客
7. 住民やUターン者、若者による起業の支援
8. 高齢者や女性、障がい者の就労支援
9. 産業振興は必要と思わない
10. わからない
11. その他(具体的に

)

問15 あなたが、多賀町で子どもたちに継承したり、町外に発信したい「地域の魅力」を教えてください。「地域の魅力」とは、地域の自慢の「ひと、もの、こと」です。

例えば…

「ひと」: ご近所づきあい、見守り運動、美化活動、おだやかな人柄、あたたかい人情、など

「もの」: ○○からみた風景、○○寺・神社、歴史的な建物、樹木・○○の緑、特産品、など

「こと」: ○○のお祭り、環境にやさしい農業、○○ボランティア、しきたり・風習、など

ここまでで半分が終わりました。
あとの半分も宜しく
お願いします!



あなたの普段の暮らしについて、おたずねします。

問16 あなたやご家族は、普段の買い物（食料品・日用品など）は主にどこでしますか。また、その際どのような交通手段を使われますか。

（それぞれあてはまる番号1つ○）※ご家族で最もよく使われる方の行動をお答えください

ア) 場所 【最もよく利用するパターン1つに○】	
1. 近所・最寄りの商店	
2. 彦根市のスーパー・量販店等	
3. 彦根市以外の隣接市町でのスーパー・量販店等	
4. 生協などの宅配・ネットスーパー・通信販売	
5. その他（具体的に _____)	
イ) 交通手段 【主に利用する手段1つに○】	
1. 徒歩	2. 自転車
3. バイク・原付	4. 自家用車
5. 路線バス	6. 鉄道
7. 予約型乗合タクシー	8. 民間タクシー
ウ) 利用頻度 【最もよく利用するパターン1つに○】	
1. ほぼ毎日	
2. 週に2～3回程度	
3. 週に1回程度	
4. 月に数回程度	
5. その他（ _____)	

問17 あなたのお住まいの地域の暮らしの満足度をお答えください。（それぞれ1つ○）

※多賀町全体ではなく、普段生活されているエリア（町内）の評価です。ご注意ください。

評価項目	満足度				
	満足	←		→	不満
ア 緑や水辺、農地など自然を感じる空間の豊かさ	5	4	3	2	1
イ 住み心地（居住環境）の良さ	5	4	3	2	1
ウ 通勤・通学の便利さ	5	4	3	2	1
エ 買い物の便利さ	5	4	3	2	1
オ 公共交通（バス、乗合タクシー）の利用のしやすさ	5	4	3	2	1
カ 公共施設（公民館など）の利用のしやすさ	5	4	3	2	1
キ 身近な生活道路の整備の充実度	5	4	3	2	1
ク 保健・医療・福祉・子育て環境の充実度	5	4	3	2	1
ケ 広場や公園、レクリエーション施設の充実度	5	4	3	2	1
コ 災害（地震や風水害等）に対する安全性	5	4	3	2	1
サ まちなみや田園風景の美しさ	5	4	3	2	1
シ 働く場の充実度	5	4	3	2	1
ス 伝統文化・行事などを通じたつながり・交流	5	4	3	2	1

問 1 8 あなたの住まいの地域の暮らしで困っていることはありますか。(あてはまる番号全てに○)

1. 高齢化・過疎や住民の転出などが進んでおり、集落の維持が難しくなっている
2. 空き地や空き家など、管理が行き届いていない場所が増えている
3. 担い手が足りず、共用空間である水路や山林の維持管理や除雪作業が難しくなっている
4. 身近に買い物などできる施設がなく、閉店や撤退も生じて、不便である
5. 防犯や交通安全面で、気になる場所が多い
6. 地震や火災などが起こった時の避難場所や避難経路が十分確保できているか不安である
7. その他（具体的に _____)

これからの活力をうむまちづくりについて、おたずねします。

問 1 9 多賀町のこれからのまちづくりに向けて、特にどのようなまちの機能を重視すべきか、それぞれにお答えください。(ア～キのそれぞれ1つ○)

まちの機能	多賀町のこれからのまちづくりで		
	特に重視する	重視する	重視しない
ア 食品や日用品が買える、住民向けの身近な店	3	2	1
イ 直売所やレストラン・カフェなど、住民だけでなく外部の人も楽しめる商業・サービスの店	3	2	1
ウ 地域住民で運行するタクシーなど、各集落・住宅地と中心地や彦根市を結ぶ新たな交通手段	3	2	1
エ 行政の窓口や郵便局など、生活利便性を支えるサービス窓口	3	2	1
オ 医療・福祉や子育ての支援などのサービス施設	3	2	1
カ コミュニティで運営する食堂など、住民同士の交流を促す施設	3	2	1
キ 観光案内所や来訪者の宿泊・滞在場所など、外部の人との交流を促す施設	3	2	1

※上記以外に「このようなものが特に必要だ」というものがありましたらお書きください。

問 2 0 多賀町は、山地や流域の景観や田園風景、多賀大社門前の町並み景観などが特徴的で、その他にも歴史的な資源（古墳群や名勝、社寺）や自然資源（河内風穴など）があります。今後、こうした町の資源を活かした取り組みを進めていく上で、最も重視すべき取り組みはどれですか。（あてはまる番号1つに○）

1. 山林や河川などの自然景観や農地の広がる田園景観など、良好な景観を保全する
2. 多賀大社門前の町並み景観の保全と、古い建物を改修（リノベーション）した魅力的な店舗や住まいづくりに取り組む
3. 山林や農地の眺めを楽しめる場所づくりや歴史・自然体験のプログラムづくりに取り組む
4. 町の中心部や駅前など町の顔となる場所での景観づくりに取り組む
5. 新しく立地する住宅や工場などが町の景観と調和するような誘導を図る
6. わからない
7. その他（具体的に)

問 2 1 みなさんのお住まいの集落には伝統的な風習・祭りや人づきあいがあり、昨今では、集落の暮らしを大切にしたい移住や生活の様子を体験する観光も広がり、地域振興に結びつけている例もあります。今後、こうした集落の資源を活かした取り組みを進めていく上で、最も重視すべきと思う取り組みはどれですか。（あてはまる番号1つに○）

1. 集落での住民同士、世代間の交流の機会を増やし、地域社会の絆を強める
2. 地域にある資源を掘り起こし、そのいわれや価値を学習し、住民の理解を深める
3. 除雪等の共同作業や寺社・家屋の共同管理など、共同の助け合いを強める
4. 集落の魅力の発信や、町外の住民や専門家との交流など、外部とのつながりを増やす
5. 積極的な移住・定住を進め、新たな住民を受け入れる
6. わからない
7. その他（具体的に)

将来の変化に適応した土地の利用の仕方などについて、おたずねします。

問 2 2 多賀町は将来的に人口の減少が見込まれており、山間部など過疎が進行し無人となっている（見込まれる）地域もあります。今後10～20年を見据え、これからも暮らし続けていけるまちのあり方や変化に対応したまちのあり方を考えていく必要があります。

そこで、将来のまちのあり方について、あなたの考えに一番近いものはどれですか。（あてはまる番号1つに○）

1. これまでの暮らしが将来も維持できるよう、各集落でバランスの取れた人口の定着・移住策に注力する
2. 利便性の高い町の中心部に住宅や商店などの施設を集め、暮らしやすさを高めつつ、通い居住などを組み合わせながら集落の維持を図る
3. 町の中心部だけでなく、その周りの一定規模の集落の商店や施設を維持しながら、周辺の山間部の集落の暮らしを支えられるようにする
4. 特に手立てを講じる必要もなく、自然のなりゆきに任せる
5. わからない
6. その他（具体的に)

問 2 3 多賀町では、(仮称)多賀スマートインターチェンジの整備計画があり、国や滋賀県による新たな広域道路の整備が検討され、沿道の土地利用が期待される一方、今後、市街地の範囲が拡大して無秩序な土地利用が進むことも心配されます。それについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください。(あてはまる番号1つ○)

1. バラ建ちしないでできるだけ既存の建物の周囲で開発されるように誘導に努めるべき
2. 開発行為や建築行為を道沿いに限定し、背後の農地は保全に努めるべき
3. 地権者や開発事業者と調整し、建物を建てる場所と農地を保全する場所を計画的に区分すべき
4. 特に問題を感じない
5. その他 (具体的に)

問 2 4 町内の土地の大半は山林や農地で占められ、恵みを提供するだけでなく良好な景観を形成する大切な資産ですが、その担い手不足は課題となっており、どのように維持・管理をしていくべきかを考えていく必要があります。

下記の取り組みはいずれも重要なものですが、とりわけ、町として注力すべきと考えるものはどれだと思いますか。(あてはまる番号1つ○)

1. 広大な山林・農地の中でも、防災上・景観上重要な場所からメリハリを付けて計画的に維持・管理をする
2. 財源や企業活動も組み込み、新しい担い手による山林や農地の維持・保全を図る
3. 地域や周辺市町で資源の循環が可能となるような仕組みをつくる(地域産材の消費や農産品の地産地消など)
4. 町を挙げて農林業の次世代の担い手を育成する
5. わからない
6. その他 (具体的に)

まちづくり活動への参加についてのお考えをおたずねします。

問 2 5 あなたは、多賀町内のまちづくりや計画に関心をお持ちですか。(あてはまる番号に1つ○)

1. とても関心がある
2. 興味のあるテーマなどについては、少しは関心がある
3. あまり関心がない
4. 全く関心がない

問 2 6 これからのまちづくりでは、住民や地域団体、NPOやボランティア団体、事業者、行政が、協力・連携し合っていくことが不可欠になっています。あなたは、まちづくりへの参加についてどのようにお考えですか。(あてはまる番号に1つ○)

1. すでに地域活動やボランティアで活動している
2. 今はやっていないが、積極的に参加したい
3. 興味のある分野なら参加したい
4. 参加したいが、どうすればよいかわからない
5. 参加したいが、時間的余裕がない
6. 参加するつもりはない
7. その他 (具体的に)

問27 あなたは、今後、どんな仕組みやきっかけ、あるいは支援があれば、まちづくりの活動に参加したり、すでに参加している取り組みを続けられると思いますか。(あてはまる番号に3つまで○)

- | | |
|-------------------------------|--|
| 1. 集落単位の自治組織やまちづくり組織の運営・設立の支援 | |
| 2. 専門家や担い手の派遣・紹介 | |
| 3. 住民団体やグループ同士の交流や情報交換の場づくり | |
| 4. 研修や勉強の機会 | |
| 5. 住民の活動に役立つ行政情報の公開・提供 | |
| 6. 集落の困りごとや不安の解消などに対する先進事例の紹介 | |
| 7. 住民団体やボランティアに関する情報発信の支援 | |
| 8. 活動に賛同する支援者やボランティアの募集 | |
| 9. 参加のきっかけとなるまちづくり活動の体験の機会づくり | |
| 10. 活動を促進・支援する資金的な支援 | |
| 11. その他 () | |
| 12. 関心がない | |

問28 あなたは、まちづくりの取り組みに参加するなら、どのような分野の活動に参加したいとお考えですか。(特にあてはまる番号2つまで○/現在、すでに活動されている方はその主な分野に○)

下のうち、特に当てはまるもの2つ○	取り組みの例
1. 地域美化や環境保全に関すること	公園や道路の美化・清掃活動や自然の保全など
2. 防災・防犯に関すること	防災訓練や交通安全・防犯パトロールなど
3. 地域福祉に関すること	高齢者や障害者の見守り活動、移動介助、配食サービスなど
4. 子育て支援に関すること	子育てに関する相談室の開設や交流支援活動など
5. 健康づくりに関すること	健康増進のための体操・運動や食の安全活動、介護予防など
6. 産業の活性化に関すること	地域資源を活用したまちおこしなど
7. 文化・芸術・スポーツ振興・生涯学習に関すること	生涯学習支援やスポーツ振興、展示・発表会の企画・開催支援など
8. 地域文化に関すること	伝統的な祭りや芸能の再興、地域の歴史ある建物等の修復や活用など
9. 人権や男女共同参画に関すること	左記に関する啓発活動や講座等の企画・開催など
10. その他	(具体的に)

問29 あなたが期待する将来の多賀町のまちの姿を示す“キャッチフレーズ”や、まちづくりに
ついて大切にしたい“キーワード”があれば、ご提案ください。

(例) 現在の多賀町総合計画のキャッチフレーズ

『自然と歴史・文化に包まれた、キラリとひかるまち』

(大切にしたいキーワードの例)

あたたか・いのち・うるおい・おだやか・しなやか・つながり・にぎやか・のびのび・はぐくむ・
やすらぎ・チャレンジ・ワクワク・安心・安全・美しい・笑顔・快適・輝く・活躍・協働・共有・
元気・健康・幸福・交流・支え合い・自然・自立・創造・素朴な・伝統ある・文化薫る・便利な・
未来・豊かな・連帯 など

<キャッチフレーズ 又は 大切にしたいキーワード のご提案>

(説明/あれば)

■ これからの多賀町のまちづくりについてご意見・ご提案があれば、自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

回答は返信用封筒に入れ、11月8日(金)までに郵便ポストに投函してください。

